

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|----------------|-----------|------|----|----------------------------|-------------------------------|
| 生物学 | | 東 華岳 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 1年 前学期 | 1単位(15時間) | 講義 | | LHC101 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)の達成に寄与している。 | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| <p>人体の構造と機能を理解するために必要な生物学的基礎知識を修得する。本授業では、生物の基本単位である「細胞」について学ぶとともに、遺伝や発生、からだの構造、個体の調節機構、さらに生命の進化と多様性についても学習する。そして、「生命」とは何かを考え、理解を深める。</p> | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| <p>細胞・組織・器官・器官系について説明できる。 遺伝・発生について説明できる。 生命の進化と多様性について説明できる。</p> | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 生物学総論、細胞の構造と機能 | | 東 | 講義 | 授業計画に沿って教科書の内容を予習する。(120分) | 講義内容を復習し、その要点を整理してまとめる。(120分) |
| 2 | 染色体と遺伝子 | | 東 | 講義 | 授業計画に沿って教科書の内容を予習する。(120分) | 講義内容を復習し、その要点を整理してまとめる。(120分) |
| 3 | ヒトの遺伝と先天性異常 | | 東 | 講義 | 授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。(120分) | 講義内容を復習し、その要点を整理してまとめる。(120分) |
| 4 | 生殖と発生 | | 東 | 講義 | 授業計画に沿って教科書の内容を予習する。(120分) | 講義内容を復習し、その要点を整理してまとめる。(120分) |
| 5 | 呼吸系と消化系 | | 東 | 講義 | 授業計画に沿って教科書の内容を予習する。(120分) | 講義内容を復習し、その要点を整理してまとめる。(120分) |
| 6 | 循環系と泌尿系 | | 東 | 講義 | 授業計画に沿って教科書の内容を予習する。(120分) | 講義内容を復習し、その要点を整理してまとめる。(120分) |
| 7 | 神経系 | | 東 | 講義 | 授業計画に沿って教科書の内容を予習する。(120分) | 講義内容を復習し、その要点を整理してまとめる。(120分) |
| 8 | 生命の進化と多様性 | | 東 | 講義 | 授業計画に沿って教科書の内容を予習する。(120分) | 講義内容を復習し、その要点を整理してまとめる。(120分) |
| | 定期試験(筆記) | | | | | |

| 評価基準・評価方法 | |
|---|-----------------|
| 知識、理解、思考、判断などを総合的に評価する。 定期試験（100％） | |
| 使用教科書 | |
| 系統看護学講座 生物学 / 高畑雅一ほか.--第10版--医学書院，2022年，978-4-260-03189-9 | |
| 参考図書 | |
| 適宜、参考資料を配布する。 | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 定期試験の模範解答を掲示する。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | |
| 備考 | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|--|---------------------------------|----------------|----------|--|--------------------------------------|
| 看護と情報 | | 福岡大輔・三品弘司・森岡菜穂子・田中季果（代表教員 福岡大輔） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | 科目ナンバリング | | |
| 必修 | 1年 前学期 | 2単位(30時間) | 講義・演習 | LHC102 | | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)の達成に寄与している。 | | 三品弘司(看護師)、森岡菜穂子(看護師)、田中季果(看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| <p>情報通信技術（ICT）の発展により、本学の学習で必要となるパソコンの使用方法、メールの送受信方法と文章の作り方、クラスルームの使用法、Web情報検索、文書作成ソフト（Word、Excel）及びプレゼンテーションソフト（Power Point）が使用できるように学習する。また学習に必要な検索方法を知る。</p> <p>情報の概念及び、インターネット上の様々な情報を利用する上での情報倫理や安全性について理解する。そして、情報科学において基礎となるデジタル化とネットワークによる情報の蓄積・交換を中心として、情報社会の姿を描きつつ情報システムやビッグデータを活用した業務や生活の変革について検討する。さらに、医療分野をはじめとした情報通信技術や人工知能の活用について調査し、レポートやプレゼンテーションを作成する過程を通して、問題解決に情報手段を活用するための情報活用能力を身につける。このために、本学が整備しているgoogleのclassroomをはじめとした各種サービスを利用する。</p> | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| <p>情報の概念及び、インターネット上の様々な情報を利用する上での情報倫理や安全性について述べることができる。</p> <p>パソコンの使用方法、メールの送受信方法と文章の作り方、クラスルームの使用法、Web情報検索、文書作成ソフト（Word、Excel）及びプレゼンテーションソフト（Power Point）が使用できる。</p> <p>情報社会の特徴を理解し、将来の社会像や働き方、生活等を具体的に描いて論述できる。</p> <p>情報手段を効果的に活用して協働学習を行い、課題解決を効果的に推進することができる。</p> <p>本学の提供するgoogle classroomをはじめとした各種サービスを活用する基礎技能を習得する。</p> | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | パソコンの使用方法・メールの送受信方法、文書作成ソフト（Word、Excel）及びプレゼンテーションソフト（Power Point）の使い方 | | 三品 | 演習 | 文書作成ソフト及びプレゼンテーションソフトの使い方を調べてくる（120分） | 文書作成ソフト及びプレゼンテーションソフトの使い方をまとめる（120分） |
| 2 | 情報の概念及びインターネット上の様々な情報を利用する上での情報倫理や安全性、Web情報検索の方法と留意点 | | 福岡 | 講義 | 情報の定義、情報管理に関する法律を調べてくる（120分） | 情報の定義、情報管理に関する法律についてまとめる（120分） |
| 3 | プレゼンテーションソフト（Power Point）の活用及びメールの文章の作り方 | | 森岡 三品 田中 | 講義 | 作成したプレゼンテーションの見直しをする（120分） | メールの送受信方法と文章の作り方についてまとめる（120分） |
| 4 | 情報技術基礎（値の表現，論理回路，コンピュータのしくみ） | | 福岡 | 講義 | 配布資料を読み情報通信への理解を深める（120分） | 配布資料を読みまとめる（120分） |
| 5 | 情報通信技術と社会インフラ（通信ネットワークのしくみ） | | 福岡 | 講義 | 配布資料を読み情報技術への理解を深める（120分） | 配布資料を読みまとめる（120分） |
| 6 | Society5.0とデータ駆動型社会 | | 福岡 | 講義 | Society5.0について事前調査（120分） | Society5.0を説明できるようにまとめる（120分） |
| 7 | 医療分野における情報化の進展及び情報通信技術の活用 | | 三品 森岡 | 講義 | 医療現場における情報システム、情報通信技術の活用について事前調査（120分） | 配布資料を読みまとめる（120分） |
| 8 | 情報通信技術を活用したこれからの医療 | | 三品 森岡 田中 | 演習 | レポート課題の内容検討（120分） | Wordでレポートを作成する（120分） |
| 9 | 医療における情報システムの活用とセキュリティ | | 福岡 | 講義 | 配布資料を読み情報技術への理解を深める（120分） | 配布資料を読みまとめる（120分） |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|--|------|------|----|--------------------------|----------------------------|
| 10 | 医療におけるデータ活用と人工知能技術 | | 福岡 | 演習 | 人工知能の仕組みについて調査(120分) | 専門用語の意味を説明できるようにまとめる(120分) |
| 11 | 文書作成(文書作成ソフトの利用) | | 福岡 | 演習 | レポートのアウトライン作成(120分) | レポートの修正・加筆(120分) |
| 12 | データの集計と分析(表計算ソフトの利用) | | 福岡 | 演習 | 調査結果のまとめ方の事前検討(120分) | 演習内容を実用できるように復習する(120分) |
| 13 | テキストマイニングによるデータ分析 | | 福岡 | 講義 | 調査課題の事前検討・アウトライン検討(120分) | 講義内容を実用できるように復習する(120分) |
| 14 | プレゼンテーション作成(プレゼンテーションソフトの利用) | | 福岡 | 演習 | プレゼンテーションのアウトライン作成(120分) | プレゼンテーションの修正(120分) |
| 15 | 今後の医療と社会 | | 福岡 | 講義 | 今後の医療と社会について事前調査する(120分) | 今後の医療と社会について調査をまとめる(120分) |
| | 試験 | | 福岡三品 | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| <p>知識・理解は、授業中の対話状況、質疑応答等での評価と数回の小レポートで評価する。(30%) 情報手段の活用及び態度は、classroom利用状況、課題提出、成果物で評価する。(20%) 思考・判断は、授業中の対話、レポートにおける論述における批判的思考に基づく論理展開の深さで評価する。(50%)</p> | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| なし | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| <p>情報科学基礎-コンピュータとネットワークの基本, 伊東俊彦, ムイスリ出版, 2015, ISBN978-4-89641-235-2 ワード・エクセル・パワーポイント 基本の使い方がぜんぶわかる本, スタンダーズ, 2021, ISBN978-4-86636-521-3</p> | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 授業では資料配布, 課題提出・評価等はGoogle classroomを用いて実施し, 教師と学生, 学生相互のコミュニケーションに活用する。その内容はclassroom内で公開して共有する。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 看護学科の教員がその実務経験を活かし, 情報化の進む医療現場に必要な基礎的知識および技術を体験的に学修する授業を行う。 | | | | | |
| 備考 | 授業時間以外にもコミュニケーションのためにclassroomへのアクセスが必要となる。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|---------------|-----------|------|----|----------------------------------|-----------------------------|
| 化学 | | 武藤吉徳 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 選択 | 1年 前学期 | 2単位(30時間) | 講義 | | LHC104 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。 | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| <p>化学は「物質」を理解することを目的とする。医療技術に関わる多くの装置や薬品、そして人体など全てのものが様々な物質で構成されているので、化学の知識は医療分野の基礎としても非常に重要である。この講義では、化学の基礎的な内容を無機化学、有機化学の全般に亘ってなるべくわかり易く解説するように努める。また、医療に関連する事項をできる限り多く取り上げて、専門科目への橋渡しとなるようにしたい。</p> | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| <p>生体物質や医薬品を構成する元素や化学結合の特徴が理解できる。 主要な有機化合物について、その構造や性質を説明できる。 医療の場で出会う様々な物質、薬品について科学的特性を把握できる。</p> | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 物質の特性 | | 武藤 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分) | 教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分) |
| 2 | 原子と分子 | | 武藤 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分) | 教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分) |
| 3 | 化学結合 | | 武藤 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分) | 教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分) |
| 4 | 物質の三態・溶液とコロイド | | 武藤 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分) | 教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分) |
| 5 | 塩化物 | | 武藤 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分) | 教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分) |
| 6 | 酸・アルカリ | | 武藤 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分) | 教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分) |
| 7 | 無機化合物 | | 武藤 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分) | 教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分) |
| 8 | 放射性元素 | | 武藤 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分) | 教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分) |
| 9 | 有機化合物概要 | | 武藤 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分) | 教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|----|---------------|------|----|----|----------------------------------|-----------------------------|
| 10 | 脂肪族炭化水素 | | 武藤 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分) | 教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分) |
| 11 | 酸素、窒素を含む有機化合物 | | 武藤 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分) | 教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分) |
| 12 | カルボン酸、その他 | | 武藤 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分) | 教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分) |
| 13 | 芳香族化合物 | | 武藤 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分) | 教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分) |
| 14 | 脂環・複素環化合物 | | 武藤 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分) | 教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分) |
| 15 | 生体物質 | | 武藤 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し、用語の意味を調べておく(120分) | 教科書とノートを再読し、教科書の設問を解く(120分) |
| | 定期試験 筆記 | | | | | |

評価基準・評価方法

評価基準：化学物質に関する知識・理解を重要視する。
 評価方法：定期試験(100%)

使用教科書

系統看護学講座基礎分野「化学」 / 奈良雅之.--第7版--医学書院, 2018年, 978-4-260-03181-3

参考図書

若山信行・一國雅巳・大島泰郎 訳「ブラディー一般化学 上・下」東京化学同人 ISBN 9784807903474
 纈纈 守 著「楽しく学ぶ くらしの化学」化学同人 ISBN 9784759820553

| | |
|--------------------------|--|
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 提出されたレポートにコメントをつけて返却する。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | |
| 備考 | 授業中に質問の時間を取るほか、質問紙による質問には、次回の授業時に回答する。 |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|-------------------|-----------|------|----|-----------------------|-----------------------------|
| 人間工学 | | 山田宏尚 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 選択 | 1年 前学期 | 2単位(30時間) | 講義 | | LHC106 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。 | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 人間が普段無意識に行っている身体運動や生命維持活動は、筋肉・骨格・内臓・血管など身体の各部位に働く力やモーメントをはじめとした物理学的メカニズムによって成立している。本講義では、医療行為の具体例に基づいて、身体活動の物理学的なメカニズムを学習する。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 人間の身体活動に関わる物理学の基礎を身につけることができる。 物理的根拠に基づく治療行為を実践するための基礎を説明できる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | ガイダンス・モーメントの定義と働き | | 山田 | 講義 | 指定教科書該当ページに目を通す(120分) | 講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる(120分) |
| 2 | 重いものを持つにはどうしたらよいか | | 山田 | 講義 | 指定教科書該当ページに目を通す(120分) | 講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる(120分) |
| 3 | てこの原理と計算 | | 山田 | 講義 | 指定教科書該当ページに目を通す(120分) | 講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる(120分) |
| 4 | 看護ボディメカニクスの物理 | | 山田 | 講義 | 指定教科書該当ページに目を通す(120分) | 講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる(120分) |
| 5 | 看護の物理的重点事項 | | 山田 | 講義 | 指定教科書該当ページに目を通す(120分) | 講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる(120分) |
| 6 | 身近な圧力(1) | | 山田 | 講義 | 指定教科書該当ページに目を通す(120分) | 講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる(120分) |
| 7 | 身近な圧力(2) | | 山田 | 講義 | 指定教科書該当ページに目を通す(120分) | 講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる(120分) |
| 8 | 呼吸器と吸引の物理 | | 山田 | 講義 | 指定教科書該当ページに目を通す(120分) | 講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる(120分) |
| 9 | チェストドレーンバックの原理 | | 山田 | 講義 | 指定教科書該当ページに目を通す(120分) | 講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる(120分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|--|---|------|----|----|-----------------------|-----------------------------|
| 10 | 点滴静脈内注射の物理（１） | | 山田 | 講義 | 指定教科書該当ページに目を通す（120分） | 講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分） |
| 11 | 点滴静脈内注射の物理（２） | | 山田 | 講義 | 指定教科書該当ページに目を通す（120分） | 講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分） |
| 12 | 循環器の物理 | | 山田 | 講義 | 指定教科書該当ページに目を通す（120分） | 講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分） |
| 13 | 血圧測定の物理 | | 山田 | 講義 | 指定教科書該当ページに目を通す（120分） | 講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分） |
| 14 | 感覚器の物理 | | 山田 | 講義 | 指定教科書該当ページに目を通す（120分） | 講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分） |
| 15 | 体温制御の物理，総復習 | | 山田 | 講義 | 指定教科書該当ページに目を通す（120分） | 講義で学んだ内容を説明できるようにまとめる（120分） |
| | 定期試験 筆記 | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・評価基準：知識の修得度と計算能力（目標 ）、応用的思考能力（目標 ） ・評価方法：定期試験（70%）、小テスト・宿題・授業態度（30%）で評価する。 | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 看護学生のための物理学 / 佐藤和良.--第6版--医学書院，2022年，978-4-260-04685-5 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| 適宜紹介する。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 提出された課題について全体の総評コメントを口頭にて公開する | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | | | | | | |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業で小テストを実施し、随時課題を課す。 ・オフィスアワー：講義前後の時間に非常勤講師室で待機する。 ・質問：講義中やオフィスアワーに直接、それ以外にメール（yamada.hironao.a5@f.gifu-u.ac.jp）で随時受け付ける。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|--------------------------------|-----------|------|----|--------------------------|-------------------------|
| 環境と人間 | | 大藪千穂 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 選択 | 1年 後学期 | 2単位(30時間) | 講義 | | LHC207 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学タイプポリシー(1)看護タイプポリシー(1)理学タイプポリシー(1)(3)作業タイプポリシー(1)(3)視機能タイプポリシー(1)(3)の達成に寄与している。 | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 資源・環境問題を解決し、持続可能な社会を構築することが、21世紀最大の課題である。しかし、そのためのアプローチの方法は、まだ、見出されていない。この講義では、環境問題は人間の問題であるとの観点に立ち、環境と人間の関係を、生活と情報によってむすびつけ、環境問題を根本的にとらえなおし、環境問題の解決法を考え、持続可能な社会を展望する。また、人間の成長・発達や脳疾患のリハビリ等に対して、環境が果たす重要な役割を考察する。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 受講者ひとりひとりが、自分で問題解決の手がかりを、考え、見出すことができる。 既存の考え方や方法にとらわれることなく、自分自身の考え方をもち、発展させることができる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 環境問題とは何か？ | | 大藪 | 講義 | 授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分) | 授業時に配布されたプリントを読む。(120分) |
| 2 | 環境問題の原点、水俣病の問題を、生産、消費、環境から考える。 | | 大藪 | 講義 | 授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分) | 授業時に配布されたプリントを読む。(120分) |
| 3 | 家庭生活から環境問題の本質を探る。 | | 大藪 | 講義 | 授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分) | 授業時に配布されたプリントを読む。(120分) |
| 4 | 衣生活から環境を考える。 | | 大藪 | 講義 | 授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分) | 授業時に配布されたプリントを読む。(120分) |
| 5 | 食生活から環境を考える。 | | 大藪 | 講義 | 授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分) | 授業時に配布されたプリントを読む。(120分) |
| 6 | 簡易生ゴミ分解器を製作し、その活用法を考える。 | | 大藪 | 講義 | 授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分) | 授業時に配布されたプリントを読む。(120分) |
| 7 | 河川環境と人間の関係を考える。 | | 大藪 | 講義 | 授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分) | 授業時に配布されたプリントを読む。(120分) |
| 8 | 情報から環境と人間を考える。 | | 大藪 | 講義 | 授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分) | 授業時に配布されたプリントを読む。(120分) |
| 9 | 人間形成に対する情報と環境の意味を考える。 | | 大藪 | 講義 | 授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分) | 授業時に配布されたプリントを読む。(120分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|--|--|------|----|----|--------------------------|-------------------------|
| 10 | 脳障害者の発達、脳疾患のリハビリを、環境と情報の観点から捉えなおす。 | | 大藪 | 講義 | 授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分) | 授業時に配布されたプリントを読む。(120分) |
| 11 | 環境教育のあり方を考える。 | | 大藪 | 講義 | 授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分) | 授業時に配布されたプリントを読む。(120分) |
| 12 | アーミッシュと現代社会を比較する。 | | 大藪 | 講義 | 授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分) | 授業時に配布されたプリントを読む。(120分) |
| 13 | 近代のライフスタイルを再考する。 | | 大藪 | 講義 | 授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分) | 授業時に配布されたプリントを読む。(120分) |
| 14 | 生態学の意味を考える。 | | 大藪 | 講義 | 授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分) | 授業時に配布されたプリントを読む。(120分) |
| 15 | 環境と情報から、持続可能な社会を展望する。 | | 大藪 | 講義 | 授業で扱う教科書の各章を事前に読む。(120分) | 授業時に配布されたプリントを読む。(120分) |
| | 定期試験(レポート) | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 評価基準は、知識・理解、思考・判断、授業態度の総合であるが、特に、各自のオリジナルな思考を重視する。評価方法は、レポート(50%)、小レポート・小テスト(30%)、授業態度等(20%)による。 | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 21世紀の情報とライフスタイル / 杉原利治.--論創社、2001年、978-4-8460-0261-9 教科書はこちらで準備します。1回目に2000円をおつりがないように持参してください。 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 毎回の授業では、開始時に、先回の授業で提出された小レポート数編をプリント配布し、それぞれの論点を評価し、それらを生かして授業を展開する。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | | | | | | |
| 備考 | 毎回の授業では、開始時に、先回の授業で提出された小レポート数編をプリント配布し、それぞれの論点を評価し、それらを生かして授業を展開する。講演会も実施予定なので参加すること。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|----------------------------|------------|------|----------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 社会学 | | 伊原亮司 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | 科目ナンバリング | | |
| 選択 | 1年 前学期 | 2単位(30時間) | 講義 | LH0101 | | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。 | | 伊原亮司(企業勤務) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| この講義は、現代社会のあり方について学ぶ。なかでも、ほとんどの人にとって切実なテーマである「働くこと」に焦点をあてて、現代社会のあり方を理解する。わたしたちは、人生の早い段階から「働くこと」を意識させられ、その準備をするように煽られている。しかし、働く場の実態については無知なまま、耳に優しい言葉ばかりを聞かされている。本講義は、現代社会における労働を取り巻く環境と労働の特徴を理解し、それを踏まえたうえで、自分たちの働き方を構想することを目的とする。医療関連の仕事に就く予定である受講者は、「就活」にはさほど困らないかもしれない。しかし、働き出してから、「いじめ」、「うつ病」、「過労死」といった様々な問題に直面する可能性がある。医療従事者は「感情労働者」ともいわれ、専門知識のみならず、コミュニケーションの仕方や感情の表出の仕方など、人格に関わる側面が重視される。本講義は、それらの能力の向上に注力するだけでなく、感情労働に付随する問題点を理解し、「うつ病」や「過労死」から自分の身を守る術(すべ)を習得して欲しい。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 現代社会における労働を取り巻く環境と労働現場の実態を理解できる その際に、いかなる視点から「現実」を切り取ればいいのか、分析枠組みを理解することができる 自分自身で職場の実態を捉えられるようになる 「働くこと」に対する自分のスタンスを考えることができる その際、狭義の「能力」の形成に励むだけでなく、自分の「身の守り方」にも留意することができる | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | イントロダクション - 「働くこと」とは | | 伊原 | 講義 | テキストの「はじめに」と「おわりに」を読み、概要を理解する(120分) | 講義を踏まえた上で、テキストの全体像をイメージする(120分) |
| 2 | 従来の社会と働き方 - 「日本的経営」と「企業社会」 | | 伊原 | 講義 | テキストの第一章を読み、概要を理解する(120分) | 第一章を読み直し、ドラッカーの経営思想を復習する(120分) |
| 3 | 労働社会の変容 - 学校、会社、家庭の関係 | | 伊原 | 講義 | テキストの第一章から、現代社会の変容の概要を理解する(120分) | 戦後日本の労働社会の変容を自らたどる(120分) |
| 4 | 働く場の実態 - 過労死・過労自殺 | | 伊原 | 講義 | テキストの第四章を読み、概要を理解する(120分) | テキストの第四章から、過労死と過労自殺の違いを復習する(120分) |
| 5 | 組織や役割への過剰適応 | | 伊原 | 講義 | テキストの第四章から、組織への「過剰適応」について頭に入れる(120分) | 逸脱と過剰適応との違いを復習する(120分) |
| 6 | 働く場の実態 - 「うつ病」 | | 伊原 | 講義 | テキストの第三章を読み、概要を理解する(120分) | 第三章を読み直し、精神疾患と労働との関係を復習する(120分) |
| 7 | 感情労働の特質 | | 伊原 | 講義 | テキストの第三章から、「感情労働」の特徴をつかむ(120分) | 肉体労働、知的労働との違いを理解する(120分) |
| 8 | 働く場の実態 - 「ハラスメント」 | | 伊原 | 講義 | テキストの第二章を読み、概要を理解する(120分) | 日産の事例を追いながら、いじめとハラスメントとの違いを理解する(120分) |
| 9 | 経営合理化と過度のプレッシャー | | 伊原 | 講義 | テキストの第二章から、相互扶助と相互監視のメカニズムを理解する(120分) | 職場における過度のプレッシャーが生じる理由を考える(120分)。 |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|--|---|------|----|----|------------------------------------|--------------------------------------|
| 10 | 働く場の実態 - 職場秩序の悪化 | | 伊原 | 講義 | 職場秩序の悪化のメカニズムについて、概要を理解する (120分) | 現在の職場における「秩序」の崩壊理由を整理する (120分) |
| 11 | 非正規雇用の増大 | | 伊原 | 講義 | 雇用規制の緩和と非正規雇用の増大の実態について理解する (120分) | 非正規雇用が増大した契機・時期・理由を整理する (120分) |
| 12 | 新しい働き方とは | | 伊原 | 講義 | テキストの第六章を読み、概要を理解する (120分) | 「日本の経営」から新自由主義に基づく経営への推移を整理する (120分) |
| 13 | 社会貢献という働き方 | | 伊原 | 講義 | テキストの第七章を読み、概要を理解する (120分) | 「社会貢献」の問題点について整理する (120分) |
| 14 | 働くということを考え直す | | 伊原 | 講義 | テキストの第七章を読み、<働く>ということを考え直す (120分) | 賃労働とは何かを考え直す (120分) |
| 15 | 労働を規制する、勤勉さを相対化する | | 伊原 | 講義 | テキストの第八章を読み、概要を理解する (120分) | 講義を踏まえた上で、自らの働き方を構想する (120分) |
| | 定期試験 (筆記) | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 授業への参加態度 (20%)、レポート (20%)、テスト (60%) などから総合的に評価。 | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 私たちはどのように働かされるのか / 伊原亮司.--現代思潮新社, 978-4329100191 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| 講義中に適宜紹介する。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 次回の講義までに読んでおく「章」を事前に伝える。講義までに目を通しておくこと。講義はじめに、予習時にわからなかったことをうかがう。そして講義の最後に、理解が不十分な点を質問してもらい、補足的な説明を行う。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | わたし自身、サラリーマン経験があり、また、調査手法として「参与観察」を取り入れているため、「現場の視点」から労働の実態を語る。もちろん、「現場」を捉える理論的なフレームは不可欠であるが、「現場感覚」も重要視し、受講者には「追体験」してもらいたい。 | | | | | |
| 備考 | 理解を補強する教材として、映像も活用する。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|---|-----------|------|----|---|--|
| 人間関係論 | | 益川優子 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 選択 | 1年 前学期 | 2単位(30時間) | 講義 | | LH0102 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。 | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 本講義では、日常生活や職場、家族、医療の現場などで起こる様々な人間関係について理解し、より良い人間関係を築くために人間関係の基本的な意義・視点、職場での人間関係、生涯にわたる人間発達と人間関係、人間関係を構成する自己と他者、人間関係の成立と維持、対立等の基礎知識を学びます。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 人間関係の意義・視点について考えることができる。 人間関係における自己について理解できる。 人間関係における他者について理解できる。 生涯の人間発達と人間関係の広がりについて理解できる。 人間関係が成立し、維持するルール、葛藤・対立への対処法を理解し、実践できる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | オリエンテーション：学習対策、成績評価 人間関係論とは：自己開示について | | 益川 | 講義 | これまでの自身について振り返り800字程度にまとめておく。(120分) | 学習した内容を基に改めて自身について振り返り1600字程度でまとめる。(120分) |
| 2 | 第一印象：第一印象がその後の人間関係に与える影響 | | 益川 | 講義 | 前回の学習内容を復習する。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活で使える可能性を考える。(120分) |
| 3 | 自己呈示：印象管理と自己呈示の違い | | 益川 | 講義 | 前回の学習内容を復習する。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して使える可能性を考える。(120分) |
| 4 | コミュニケーションの種類：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション | | 益川 | 講義 | 前回の受講内容を復習した上で、自分の将来の仕事環境を想定し、該当する課題を考える。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して使える可能性を考える。(120分) |
| 5 | 非言語コミュニケーション：対人態度 | | 益川 | 講義 | 前回の受講内容を復習した上で、自分の将来の仕事環境を想定し、該当する課題を考える。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して使える可能性を考える。(120分) |
| 6 | 非言語的コミュニケーション：承認欲求 | | 益川 | 講義 | 前回の受講内容を復習した上で、自分の将来の仕事環境を想定し、該当する課題を考える。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して使える可能性を考える。(120分) |
| 7 | 非言語的コミュニケーション：対人距離 | | 益川 | 講義 | 前回の受講内容を復習した上で、自分の将来の仕事環境を想定し、該当する課題を考える。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して使える可能性を考える。(120分) |
| 8 | 非言語的コミュニケーション：状況に応じた座席位置 | | 益川 | 講義 | 前回の受講内容を復習した上で、自分の将来の仕事環境を想定し、該当する課題を考える。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して使える可能性を考える。(120分) |
| 9 | 言語的コミュニケーション：人間関係に影響を与える順番 | | 益川 | 講義 | 前回の受講内容を復習した上で、自分の将来の仕事環境を想定し、該当する課題を考える。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して使える可能性を考える。(120分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|--------------------------|--|------|----|----|---|--|
| 10 | 援助行動 : 傍観者効果 | | 益川 | 講義 | 前回の受講内容を復習した上で、自分の将来の仕事環境を想定し、該当する課題を考える。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して使える可能性を考える。(120分) |
| 11 | 援助行動 : 援助行動が開始されるまでの葛藤 | | 益川 | 講義 | 前回の受講内容を復習した上で、自分の将来の仕事環境を想定し、該当する課題を考える。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して使える可能性を考える。(120分) |
| 12 | 援助行動 : 援助行動をとる心理 | | 益川 | 講義 | 前回の受講内容を復習した上で、自分の将来の仕事環境を想定し、該当する課題を考える。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して使える可能性を考える。(120分) |
| 13 | 援助要請 : 社会的インパクト理論 | | 益川 | 講義 | 前回の受講内容を復習した上で、自分の将来の仕事環境を想定し、該当する課題を考える。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して使える可能性を考える。(120分) |
| 14 | 集団心理 : 集団意思選択、集団浅慮、集団極性化 | | 益川 | 講義 | 前回の受講内容を復習した上で、自分の将来の仕事環境を想定し、該当する課題を考える。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して使える可能性を考える。(120分) |
| 15 | 攻撃行動 : フロイト、ローレンツ、ダラード、テダスキーの理論 | | 益川 | 講義 | インターネットやSNSの利用状況、注意点 人間関係への影響について考える。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して使える可能性を考える。(120分) |
| | 定期試験 筆記 | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 筆記試験(70%)、平常点(30%) | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| なし | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| 適宜紹介いたします。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 授業時間内で取り組んで頂いた小テストやレポートは、コメントをつけて返却いたします。学期末試験については、全体の総評コメントを掲示にて公開いたします。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|------------------|-------------|------|----|--|--------------------------|
| 教育学 | | 益川浩一 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 選択 | 1年 後学期 | 2単位(30時間) | 講義 | | LH0205 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。 | | 益川浩一(児童福祉司) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 本講義は、人間が生き、成長・発達していく上で教育がどのような意義を持ち、社会においてどのような役割を果たすのかについて考察していきます。また、教育をとりまく現代の諸問題を多面的に捉えつつ、教育という営みの現代的意義についても考察していきます。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| <p>教育の概念と機能、その役割について説明できる。</p> <p>人間の生涯発達理論について説明できる。</p> <p>他者とのかかわりを導く技法を使うことができる。</p> <p>現代の教育と教育を取り巻く諸問題について自分の考えを持つことができる。</p> | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 教育の概念 | | 益川 | 講義 | 自身の持つ「教育」という言葉に関するイメージをノートに列挙してくる。(120分) | 授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分) |
| 2 | 学ぶということ・教えるということ | | 益川 | 講義 | 第1回の授業内で指示する。(120分) | 授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分) |
| 3 | 生涯発達理論 乳児期～幼児期 | | 益川 | 講義 | 第2回の授業内で指示する。(120分) | 授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分) |
| 4 | 生涯発達理論 児童期～青年期 | | 益川 | 講義 | 第3回の授業内で指示する。(120分) | 授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分) |
| 5 | 生涯発達理論 成人期～老年期 | | 益川 | 講義 | 第4回の授業内で指示する。(120分) | 授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分) |
| 6 | 教育の営みと教育を取り巻く諸問題 | | 益川 | 講義 | 第5回の授業内で指示する。(120分) | 授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分) |
| 7 | 他者とのかかわり | | 益川 | 講義 | 第6回の授業内で指示する。(120分) | 授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分) |
| 8 | 他者とのかかわりを導く技法 | | 益川 | 講義 | 第7回の授業内で指示する。(120分) | 授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分) |
| 9 | 教育の目標と評価 | | 益川 | 講義 | 第8回の授業内で指示する。(120分) | 授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|--------------------------|--|------|----|----|----------------------|--------------------------|
| 10 | 教育のデザイン | | 益川 | 講義 | 第9回の授業内で指示する。(120分) | 授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分) |
| 11 | キャリア教育 | | 益川 | 講義 | 第10回の授業内で指示する。(120分) | 授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分) |
| 12 | ジェンダーとセクシュアリティ | | 益川 | 講義 | 第11回の授業内で指示する。(120分) | 授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分) |
| 13 | 特別ニーズ教育・インクルーシヴ教育 | | 益川 | 講義 | 第12回の授業内で指示する。(120分) | 授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分) |
| 14 | 生涯教育 | | 益川 | 講義 | 第13回の授業内で指示する。(120分) | 授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分) |
| 15 | シティズンシップ教育 | | 益川 | 講義 | 第14回の授業内で指示する。(120分) | 授業内容を整理し、ノートにまとめる。(120分) |
| | 定期試験 | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 受講態度30%、定期試験70% | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| なし | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| 適宜紹介いたします。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 定期試験については、全体の総評コメントを掲示にて公開いたします。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 児童相談所における児童福祉司としての経験を活かして、困難を抱える子ども・若者の実態を踏まえた上で、教育の意義・役割等について講義を行う。 | | | | | |
| 備考 | 質問等ございましたら授業終了後、気軽に声をかけてください。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|---|-----------|------|----|--|---|
| 心理学 | | 益川優子 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 選択 | 1年 後学期 | 2単位(30時間) | 講義 | | LH0206 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。 | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 心理学は人の行動から心の動きを科学的に推察する学問です。心理学についてそれぞれが抱くイメージは様々であると思いますが、本授業では、基礎心理学を中心に他者と自身の心の動きを客観的に理解し、医療現場で他者との関係をより良くするために必要な基礎知識を学びます。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 相手の「心」を直接把握することができないことを理解できる。 相手の「心」は推測でしか扱えないことを理解できる。 同じ状況でも人によって違う心が推測されうることを理解できる。 自分の心を相手にわかってもらうためには推測し易い情報を提供しなければならないことを理解できる。 上記の関する知識を実際人間関係に活用することができる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | オリエンテーション：授業の概要、評価の方法 心理学とは何か：心理学の種類について | | 益川 | 講義 | 心理学に抱くイメージを、レポート(1000字程度)にまとめてくる。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分) |
| 2 | 社会心理学：パーソナルスペース | | 益川 | 講義 | 前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、PPWの該当部分を予習する。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分) |
| 3 | 社会心理学：同調行動 | | 益川 | 講義 | 前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、PPWの該当部分を予習する。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分) |
| 4 | 社会心理学：初頭効果と光背効果 | | 益川 | 講義 | 前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、PPWの該当部分を予習する。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分) |
| 5 | 人格心理学：類型論と特性論 | | 益川 | 講義 | 前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、PPWの該当部分を予習する。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分) |
| 6 | 人格心理学：性格検査 | | 益川 | 講義 | 前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、PPWの該当部分を予習する。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分) |
| 7 | 認知心理学：錯覚 | | 益川 | 講義 | 前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分) |
| 8 | 認知心理学：体制化 | | 益川 | 講義 | 前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、PPWの該当部分を予習する。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分) |
| 9 | 認知心理学：ストループ効果、選択的注意力 | | 益川 | 講義 | 前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、PPWの該当部分を予習する。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|--------------------------|--|------|----|----|--|---|
| 10 | 学習心理学：古典的条件づけ、道具的条件づけ | | 益川 | 講義 | 前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、テキストとPPWの該当部分を予習する。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分) |
| 11 | 学習心理学：観察学習、学習性無力感 | | 益川 | 講義 | 前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、PPWの該当部分を予習する。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分) |
| 12 | 発達心理学：乳児期～児童期 | | 益川 | 講義 | 前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、PPWの該当部分を予習する。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分) |
| 13 | 発達心理学：青年期～老年期 | | 益川 | 講義 | 前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、PPWの該当部分を予習する。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分) |
| 14 | 産業心理学：二段階要請法 | | 益川 | 講義 | 前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、PPWの該当部分を予習する。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分) |
| 15 | 臨床心理学：発達障害、パーソナリティ障害 | | 益川 | 講義 | 前回の学生コメントとそれに対する回答を勉強し、PPWの該当部分を予習する。(120分) | 受講内容を理解し、日常生活、自分の将来の仕事環境を想定して、使える可能性を考える。(120分) |
| | 定期試験（筆記） | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 筆記試験70%、平常点（小テストを含む）30% | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| なし | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| 適宜紹介いたします。 | | | | | | |
| 課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法 | 授業時間内で取り組んで頂いた小テストやレポートは、コメントをつけて返却いたします。学期末試験については、全体の総評コメントを掲示にて公開いたします。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|-----------------------------------|----------------------|-------|-------|------------------------------|-------------------------------|
| 生命倫理学 | | 谷口泰弘・出口睦雄（代表教員 谷口泰弘） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 3年 前学期 | 2単位(30時間) | 講義・演習 | | LH0707 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)の達成に寄与している。 | | 出口睦雄（看護師） | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| <p>バイオエシックス（生命倫理学）の基礎的な事項を学習する。現代の医療においては医師だけではなく、多くの医療に関係する職種が協力し、チーム医療を担っている。それぞれの職種に高い倫理観が求められている。本講義では、バイオエシックスに係る歴史的背景から最新の問題群にいたるまで、デジタル教材を活用しながら講義形式で分かり易く解説するとともに医療の現場を想定した事項の事例展開を行う。</p> | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| <p>医療専門職に不可欠な倫理観を身につけるため、バイオエシックスに係る問題群について、倫理的・法的・社会的問題として捉え、思考し行動に移せる能力を修得する。 バイオエシックスの歴史的背景等から、人間の尊厳の尊さを理解し、説明することができる。 講義の各論から、問題の本質を見極め、立場の違いを理解したうえで、解決に向けた多角的な思考ができる。 医療の現場を想定した事例展開を通じて、患者、家族、看護師のそれぞれの立場から倫理的な思考ができる。</p> | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | バイオエシックス総論（ガイダンス、基礎概念、歴史的背景Ⅳ 以前） | | 谷口 | 講義 | 指定教科書の該当ページに目を通す（120分） | 各回の授業後にその内容を説明できるようまとめる（120分） |
| 2 | バイオエシックス総論（歴史的背景Ⅳ 以後） | | 谷口 | 講義 | 指定教科書の該当ページに目を通す（120分） | 各回の授業後にその内容を説明できるようまとめる（120分） |
| 3 | 自己決定と人間の尊厳（インフォームド・コンセント） | | 谷口 | 講義 | 指定教科書の該当ページに目を通す（120分） | 各回の授業後にその内容を説明できるようまとめる（120分） |
| 4 | 生殖補助医療の問題（人工授精、体外受精、代理母） | | 谷口 | 講義 | 指定教科書の該当ページに目を通す（120分） | 各回の授業後にその内容を説明できるようまとめる（120分） |
| 5 | 生殖補助医療の問題（出生前診断、着床前診断、人工妊娠中絶） | | 谷口 | 講義 | 指定教科書の該当ページに目を通す（120分） | 各回の授業後にその内容を説明できるようまとめる（120分） |
| 6 | 脳死・臓器移植をめぐる問題（脳死の定義、臓器移植法、移植システム） | | 谷口 | 講義 | 指定教科書の該当ページに目を通す（120分） | 各回の授業後にその内容を説明できるようまとめる（120分） |
| 7 | 医療の現場で人と関わる職についての倫理 | | 出口 | 講義 | 指定教科書の該当ページに目を通す（120分） | 現代医療における様々な倫理的問題をまとめる（120分） |
| 8 | 医療の現場で人と関わる職についての倫理的問題を考える 事例展開 | | 出口 | 講義・演習 | 事例を読み込み症例検討し内容についてまとめる（120分） | 臨床倫理アプローチについて振り返る（120分） |
| 9 | 医療の現場で人と関わる職について倫理的問題 事例展開 DVD視聴 | | 出口 | 講義・演習 | 事例を読み込み症例検討し内容についてまとめる（120分） | 臨床倫理アプローチについて振り返る（120分） |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|---|------|----|-------|------------------------------|-------------------------------|
| 10 | 医療の現場で人と関わる職について倫理的問題事例展開 | | 出口 | 講義・演習 | 事例を読み込み症例検討し内容についてまとめる(120分) | 臨床倫理アプローチについて振り返る(120分) |
| 11 | 医療の現場で人と関わる職について倫理的問題事例展開 | | 出口 | 講義・演習 | 事例を読み込み症例検討し内容についてまとめる(120分) | 臨床倫理アプローチについて振り返る(120分) |
| 12 | 医療の現場で人と関わる職について倫理的問題事例展開 | | 出口 | 講義・演習 | 事例を読み込み症例検討し内容についてまとめる(120分) | 臨床倫理アプローチについて振り返る(120分) |
| 13 | 医療の現場で人と関わる職について倫理的問題小テスト | | 出口 | 講義・演習 | 事例を読み込み症例検討し内容についてまとめる(120分) | 臨床倫理アプローチについて振り返る(120分) |
| 14 | 終末期をめぐる問題(尊厳死、安楽死、治療中止、鎮静、緩和医療) | | 谷口 | 講義 | 指定教科書の該当ページに目を通す(120分) | 各回の授業後にその内容を説明できるようまとめる(120分) |
| 15 | 広義のバイオエシックス(遺伝子・医療情報)と研究をめぐる倫理 | | 谷口 | 講義 | 指定教科書の該当ページに目を通す(120分) | 各回の授業後にその内容を説明できるようまとめる(120分) |
| | 定期試験 筆記 | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 定期試験(60%)、事例展開での提出物と小テスト(提出物20%、小テスト20%)を参考に総合的に評価する。 | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 第3版 生命倫理・医事法 / 塚田敬義ほか.--改訂版--医療科学社, 2022年, 978-4-86003-133-6 事例で学ぶ ケアの倫理 / 大北全俊・桑原英之・高橋綾.--ナーシング・サブリエディタリング委員会--メディカ出版, 2015年, 978-4-8404-5755-2 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 実施する定期試験およびミニレポートについては、総評を掲示する。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 精神看護師として勤務した実務経験をいかし、人権に配慮した関わりについて教授する。 | | | | | |
| 備考 | 適宜、補足資料を配布し、理解が深まるよう講義する。 特段、オフィスアワーは設けないが、講義終了後に質問等について対応する(この時間を活用してください)。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|---------------------------------|------------------------|----------|----------|----------------------------------|--|
| 基礎演習 | | 松野ゆかり・古田弥生（代表教員 松野ゆかり） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 1年 前学期 | 1単位(15時間) | 講義・演習 | | LCM101 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマ・ポリシー（1）看護ディプロマ・ポリシーの達成に寄与している。 | | 松野ゆかり（看護師） 古田弥生（看護師） | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| これまでの学びとは違い、大学で主体的に学ぶためのスタディスキルの習得やソーシャルスキルを磨く。また、専門職として生涯学び続けるために必要なプロフェッショナルスキルを身につけていく。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 大学で主体的に学ぶ必要性を述べることができる。 大学での学び方について理解し実践できる。 日々の授業での学習および、授業時間外学習の必要性について理解し、実践することができる。 グループワークを通して、「聞く力」「話す力」「伝え合う力」を養い、実践することができる。 卒業を目指しながら3年間の目標と課題を表現し、将来の自分の姿をイメージすることができる | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 看護学の学び方 - コミュニケーションスキル | | 松野 古田 | 講義 演習 | コミュニケーションについて調べる（120分） | 自己のコミュニケーションについて振り返る（120分） |
| 2 | 看護学の学び方 - 看護学生として大学で学ぶということ | | 松野 古田 | 講義 演習 | 高校までとは何が違うのか、教科書を読み考えをまとめる（120分） | 看護学生として3年間どのように学んでいきたいかレポートにまとめる（120分） |
| 3 | 看護学の学び方 - スタディスキル 学習に必要な資料等検索方法 | | 松野 古田 | 講義 演習 | 教科書の該当内容を読み疑問点などをあげる（120分） | 検索資料を基に課題に取り組む（120分） |
| 4 | 看護学の学び方 - スタディスキル 授業の受け方 | | 松野 古田 | 講義 演習 | 効果的な授業の受け方について調べまとめる（120分） | グループワークの意見を参考にし授業の受け方をレポートにまとめる（120分） |
| 5 | 看護学の学び方 - スタディスキル 取り方 | | 松野 古田 | 講義 演習 | 効果的なノートの取り方について調べまとめる（120分） | グループワークの意見を参考にしノートの取り方をレポートにまとめる（120分） |
| 6 | 看護学の学び方 - スタディスキル プレゼンテーション | | 松野 古田 | 講義 演習 | プレゼンテーション資料作成（120分） | 効果的な自己の学習方法についてレポートにまとめる（120分） |
| 7 | 看護学の学び方 - 看護師国家試験とはどのようなものか | | 松野 古田 | 講義 演習 | 資料を読み理解する（120分） | 国家試験に向けての取り組みをレポートにまとめる（120分） |
| 8 | 看護学の学び方 - 実習での学び方 | | 非常勤講師 | 講義 演習 | 資料を読み理解する（120分） | 実習への取り組みについて（120分） |
| | 評価（レポート） | | | | | |

| 評価基準・評価方法 | |
|--|--|
| 受講態度（28%）課題・レポート（72%） | |
| 使用教科書 | |
| 看護学生のためのよくわかる大学での学び方 / 前原澄子 他監修.--2020年5月 刊行--金芳堂, 978-4-7653-1768-9 | |
| 参考図書 | |
| | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 質問等は適宜受け付け、随時個人または全体へフィードバックします。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 将来看護師となる看護学生が、コミュニケーション力、学習力が身につけられ、継続していくことができるよう看護師の臨床経験から授業を展開していく。 |
| 備考 | 課題等は随時提示していきます。 |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|---|------------------|------|----------|-------------------------------------|--|
| 文章表現法 | | 遠藤明日香 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | 科目ナンバリング | | |
| 必修 | 1年 前学期 | 1単位(15時間) | 講義 | LCM102 | | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)の達成に寄与している。 | | 遠藤明日香(ビジネスマナー講師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| <p>将来、医療や介護等の世界で働く者にとって、患者さんやスタッフ等とのコミュニケーション力や文章作成力が極めて大切なものになってくる。そこでこの講義では、自らの国語力を知り、国語の基礎学力を高め、文章表現「書く」ことの基礎を学ぶ。敬語・文章表現における一般常識・手紙文・公用文・作文・論説文・レポート・報告書などの書き方を学ぶ。同時に就職試験における小論文を見据えて、講義を進める。</p> | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| <p>豊かで正しい国語力を身につけ、「書く」ことの重要性や常識を習得する。場面や状況に応じた適切なコミュニケーションを理解できる。 自分の意見や考えを的確な文章にして表現することができる。文章作成や自分の意見や考えを表現することへの苦手意識をなくす。 専門科目で求められるレポートや、就職試験における小論文、社会人・職業人に必要な様々な文章を作成するための基礎を理解することができる。</p> | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 講義の内容と方法についての説明。講座の動機づけ。「書く」ことの重要性を説明。言葉の機能に関する概説。 文章表現の基礎知識～原稿用紙の書き方 書き間違いやすい漢字や難読漢字 | | 遠藤 | 講義 | シラバスと教科書に目を通し、授業の意図・内容を理解しておく。(60分) | 原稿用紙の使い方の復習する。 漢字の復習(次回漢字テスト対策)(150分) |
| 2 | 文章を書く時の注意点～文章形式上の注意点・文章表現上の注意点・課題作成上の注意点を講義 漢字テスト実施 | | 遠藤 | 講義 | 教科書の該当ページ(第2章)に目を通しておく。(60分) | 授業内容を復習する。(150分) |
| 3 | レポート・小論文の様式～第2講の復習を実施。作文・論作文の文章校正を講義。テーマに沿って授業内に作文。時間内に提出する。 | | 遠藤 | 講義 | 教科書の該当ページ(第3章)に目を通しておく。(60分) | 授業内容を復習する。(150分) |
| 4 | 新しいコミュニケーションツール用いた文章作成の注意点を講義する。敬語の基礎知識を講義する。敬語のプリントを配布する。 | | 遠藤 | 講義 | 教科書の該当ページ(第4章・第6章)に目を通しておく(60分)。 | 授業内容を復習する。(150分)次回小テストの対策(敬語の復習)をする。 |
| 5 | 敬語の基礎～敬語の種類と用法 医療機関におけるビジネス用語・間違いやすい言葉 敬語の小テスト実施 | | 遠藤 | 講義 | 教科書の該当ページ(第6章復習)に目を通しておく(60分)。 | 授業内容を復習する。(150分) |
| 6 | 手紙の種類と様式～頭語と結語、前文・本文・末文など手紙を書く上の一般常識を講義。 手紙文の作成～礼状・挨拶状を書く。電子メールの一般常識を講義。 | | 遠藤 | 講義 | 教科書の該当ページ(第7章・第8章)に目を通しておく。(60分) | 授業内容を復習する。(150分) |
| 7 | 公用文の種類と様式～案内状・会議録など 就職関係文書の書き方～履歴書・エントリーシートの書き方や注意点などを講義。 | | 遠藤 | 講義 | 教科書の該当ページ(第9章)に目を通し、設問を解いておく。(60分) | 授業内容を復習する。(150分) |
| 8 | テーマ「どこの科の看護師になりたいか」小論文の作成(授業全体の総括として・就活における筆記試験対策となる) 文章表現法大切な部分の復習・定期試験にむけて。 | | 遠藤 | 講義 | 課題テーマの資料・データを収集し、文章構成を考えてくる。(150分) | 定期試験に向けて復習する。8回分の講座の大切なポイントの復習をする(180分) |
| | 定期試験 | | | | | |

| 評価基準・評価方法 | |
|--|---|
| 小テスト2回（学習態度と基礎学力を評価）10% 提出課題作文・小論文（学習意欲と文章表現力を評価）30% 定期試験（総合的な国語力と文章作成力を評価）60% | |
| 使用教科書 | |
| 日本語表現法-2 1世紀を生きる社会人のたしなみ 改訂第2版 / 庄司達也ほか.--翰林書房, 2019年, 978-4-87737-450-1 | |
| 参考図書 | |
| 必要に応じて講義中に紹介する。別途プリント配布（敬語・担当講師作のプリント） | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 小テストは真面目に取り組んだか否か、を評価して返却。また、理解度を計りたい。作文・レポート課題については改善点を補足記入しフィードバックして返却。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 若者の報告書やレポートや小論文を見ると、「書き方を知らない」ことを痛感する。社会人としての文章表現を教示する。特に職場での報告書には、人間性をも露呈させるということを動機づけにして、文章表現法を落とし込む。 |
| 備考 | 教科書には提出用の原稿用紙が綴じ込まれているので忘れずに持ってくる。別途、プリント配布（敬語等・担当講師作のプリント）もあります。質問は随時受け付けますが、学習相談などは授業時間前後に対応します。気軽に声をかけてください。 |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|--|---|-------|----------|--|---------------------------------------|
| コミュニケーション学 | | 遠藤明日香・熊田ますみ・三品弘司・松野ゆかり・古田弥生・田中季果 (代表教員 遠藤明日香) | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | 科目ナンバリング | | |
| 必修 | 1年 後学期 | 1単位(30時間) | 講義・演習 | LCM203 | | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)の達成に寄与している。 | | 熊田ますみ(看護師)、三品弘司(看護師・保健師)、松野ゆかり(看護師)、古田弥生(看護師)、田中季果(看護師・助産師)、遠藤明日香(財団法人日本電信電話ユーザ協会 もしもし検定指導者級講師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの重要性を理解する。 ・自分自身のコミュニケーションのスキルについて深く振り返り、医療現場において、患者さん・医療スタッフとの間でよりよい人間関係を構築するための具体的なコミュニケーション能力を身につける。 ・グループディスカッション、ペアワーク、PBLなど、体験や実践をとり入れた講義を行う。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| <p>言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの重要性を理解し、実践できる 年代が違う人への挨拶、返事の仕方などを理解実践でき、日常的なコミュニケーションができる 自分の気持ち・考えなどを、明確に誠実に相手に伝えることができる 相手の言葉の背景にある気持ちや考えを想像しコミュニケーションすることができる 医療現場におけるコミュニケーションの重要性と求められているスキルを学ぶ</p> | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・この講座の目的・到達目標についてオリエンテーション ・自己紹介の仕方 自己紹介の演習 ・コミュニケーションとは何か ・医療者のコミュニケーションの重要性 ・ホスピタリティとケアコミュニケーション | | 遠藤 | 講義 演習 | テキスト『看護コミュニケーション』序章部分に目を通しておく(30分) | 授業で習得したスキルを日常生活で実践する。重要ポイントを覚える(30分) |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第1章「コミュニケーションとは何か」 ・コミュニケーションの特徴を講義。 ・テキスト第2章「コミュニケーションの種類」 ・言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション グループワーク | | 遠藤 | 講義 演習 | テキスト『看護コミュニケーション』第1章第2章に目を通しておく(30分) | 授業で習得したスキルを日常生活で実践する。重要ポイントを覚える(30分)。 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第3章「コミュニケーションに影響するもの」 ・良好なコミュニケーションに必要なこと ・好感や信頼感を高める非言語表現 ・話すスキルのポイント ・テキスト第4章「医療におけるコミュニケーション」 ・患者さん中心の看護面接 ・声かけの基本 ・グループワーク | | 遠藤 | 講義 演習 | テキスト『看護コミュニケーション』第3章第4章に目を通しておく(30分) | 授業で習得したスキルを日常生活で実践する。重要ポイントを覚える(30分) |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・聴くスキル ・3つの「きく」・相槌の重要性 ・質問スキル(第5章) ・グループワーク ・テキスト第5章「良好なコミュニケーションに必要な技法」 ・テキスト第6章「積極的傾聴と共感」 ・受容し、共感する ・グループワーク | | 遠藤 | 講義 演習 | テキスト『看護コミュニケーション』第5章第6章に目を通しておく(30分) | 授業で習得したスキルを日常生活で実践する。重要ポイントを覚える(30分) |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第11章抜粋 アサーティブなコミュニケーション ・コミュニケーションパターン ・アサーティブとは ・アサーティブなコミュニケーションで使う表現 ・グループワーク | | 遠藤 | 講義 演習 | テキスト『看護コミュニケーション』第11章に目を通しておく(30分) | 授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分) |
| 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・アンコンシャスバイアスについて ・アンコンシャスバイアスとは ・知っておきたいバイアス ・アンコンシャスバイアスをコンシャスバイアスに ・ディスカッション グループワーク | | 遠藤 | 講義 演習 | | 授業で習得したスキルを日常生活で実践する。重要ポイントを覚える(60分) |
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> ・アンガーマネジメントでミスコミュニケーションを回避する～怒りをコントロールすることについて学ぶ | | 遠藤 | 講義 演習 | 最近怒ったことについて、どんな対処をしたか、どうすべきだったかを考える(30分) | 授業で習得したスキルを日常生活で実践する(30分) |
| 8 | <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションツールのあり方と知識のポイント ・生成AIについて ・注意すべきポイント ・テキスト第8章部分抜粋 患者さんとのコミュニケーションワーク ・グループワーク ・レポート課題発表 | | 遠藤 | 講義 演習 | | 課題についてレポート作成、期日までに提出する(60分) |
| 9 | <ul style="list-style-type: none"> ・医療現場でのコミュニケーションの重要性を学ぶ ・チームワークとは何かを学び、良いチームワークを発揮するためのマインド、スキルを学ぶ | | 三品 | 講義 演習 | | 医療現場でのコミュニケーションの重要性についてまとめ、提出する(60分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|--|--|------|----|------|--|---|
| 10 | ・医療スタッフとして知っておかなければならない、敬語・クッション言葉などの接遇用語を学ぶ | | 古田 | 講義演習 | 敬語とは何か、クッション言葉とは何かを調べる。また、教科書P.1～8を読む。 | 医療者としてどのような言葉遣いをしていきたいか考えレポートにまとめる(60分) |
| 11 | 高齢患者(成人含)とのコミュニケーション | | 熊田 | 講義演習 | | 授業で学んだことをまとめ、提出する(60分) |
| 12 | 小児とのコミュニケーション | | 松野 | 講義演習 | | 授業で学んだことをまとめ、提出する(60分) |
| 13 | 妊産褥婦とのコミュニケーション | | 田中 | 講義演習 | | 授業で学んだことをまとめ、提出する(60分) |
| 14 | 在宅療養者とのコミュニケーション | | 熊田 | 講義演習 | | 授業で学んだことをまとめ、提出する(60分) |
| 15 | 精神疾患を持つ患者とのコミュニケーション | | 三品 | 講義演習 | | 授業で学んだことをまとめ、提出する(60分) |
| | レポート | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度(授業への関わり方) 30% ・レポートの内容(複数回レポート提出) 70% | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 看護コミュニケーション 基礎から学ぶスキルとトレーニング 第2版 / 篠崎恵美子 / 藤井徹也.-医学書院, 2022年1月, 978-4-260-04793-7 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進行に伴って、その都度紹介する。 ・教材として使用する講師作成プリントは適宜配付する。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | ・コメントや評価を記載したレポートを返却、あるいは、口頭などでフィードバックする。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 円滑なコミュニケーションをするにあたって、ただ性格のみがその得意不得意を決定づけるわけではない。コミュニケーションのスキルを習得することによって変わることを教示する。相手に分かりやすく正確に伝えるためのスキルと、相手の話を傾聴するスキルを主に身に着けることによって、コミュニケーションが広がり、深まることを伝える。また、アンガーマネジメントや、アサーティブなコミュニケーションを習得し、ストレスを減らし、医療者としてよりよいコミュニケーションを目指す。 | | | | | |
| 備考 | 自分のコミュニケーションの問題・悩みなどなんでもいので課題をもって授業に臨んでください。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|--|-------------|------|----|---|---|
| 英語（教養英語） | | ミホト セイト マサト | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 1年 前学期 | 1単位(15時間) | 講義 | | LFL101 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)の達成に寄与している。 | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| この科目は話すおよび書くことの発信力強化を目的とした科目です。今の大学生に求められる、さまざまな情報を収集し、それらを伝える力、そして自分の考えを述べる力を高めるよう構成されています。扱っている話題は、スマートフォンやアルバイト、理想のパートナーやSNS投稿、ボランティア活動、食や睡眠といった、大学生の皆さんにとって身近なものになっています。楽しみながら、積極的にクラスメイトと意見交換をして、英語での発信力を高めていってください。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 日常の色々な場面でよく使われる決まった言い方に慣れ、一般的な質問の仕方とその答え方を身に付ける。英文雑誌記事や新聞の記事、またメールの英文に触れ、日常の話題とその英語に触れて会話力を高める。英文メールに慣れ、自分でもメール文を書ける自信をつける。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | ・Where are you from? [Subject-Verb Agreement] (主語と動詞の一致) | | ミホト | 講義 | 前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (120分) | その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭に置いておく (120分) |
| 2 | ・How are you doing? [Be Verbs & Do Verbs] (Be動詞と一般動詞) | | ミホト | 講義 | 前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (120分) | その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭に置いておく (120分) |
| 3 | ・How many classes do you have? [Countable Nouns] (数えられる名詞) | | ミホト | 講義 | 前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (120分) | その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭に置いておく (120分) |
| 4 | ・Review (Units 1-3) (ユニット1 - 3の復習) | | ミホト | 講義 | 前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (120分) | その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭に置いておく (120分) |
| 5 | ・How much food do you need for your party? [Uncountable Nouns] (数えられない名詞) | | ミホト | 講義 | 前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (120分) | その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭に置いておく (120分) |
| 6 | ・How many people are there in your family? [There is/ There are /It is/ They are] (「ある」「いる」の表現と It is /They areとの違い) | | ミホト | 講義 | 前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (120分) | その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭に置いておく (120分) |
| 7 | ・When is your report due? [Cardinal & Ordinal Numbers] (基数, 序数) | | ミホト | 講義 | 前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (120分) | その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭に置いておく (120分) |
| 8 | ・Review (Units 4-6) (ユニット4 - 6の復習) | | ミホト | 講義 | 前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく (120分) | その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭に置いておく (120分) |
| 定期試験(筆記) | | | | | | |

| 評価基準・評価方法 | |
|---|--|
| 予習復習、宿題をきちんと行い、私語なく受講し、暗唱英文等の小テストを受ける授業参加度（40％）と、定期試験の結果（60％）で評価する。 | |
| 使用教科書 | |
| Project English（アクティブに学ぶ英語コミュニケーション） / 南雲堂，2022年，978-4-52317936-8 | |
| 参考図書 | |
| | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 授業内でフィードバックする。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | |
| 備考 | 使える英語力の育成 具体的な英語の使用場面を意識しながら、inputからoutputへと進むバランスの良い活動を通して、自然な流れで英語運用能力を身につけることができる内容・構成になっています。 |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|--|-----------|------|----------|--|--------------------------|
| 英語 (日常英会話) A | | ジャリマルジャン | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | 科目ナンバリング | | |
| 選択 | 1年 後学期 | 1単位(30時間) | 講義 | LFL202 | | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。 | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| この科目は、話すおよび聞く力の強化を目的とした科目である。海外旅行や国内での外国人患者との会話において、相手の話を理解しながら自分の考えを適切に表現する能力を向上させることを目指している。授業内容は、日常生活で使用される英語表現を中心に構成されており、様々な場面を想定した実践的な練習を通じて、学生の皆さんにとってより身近で使いやすい英語コミュニケーション能力の習得を目指している。定期的な小テストを通じて、より多くの英単語やフレーズを習得し、実践的に使用できるようになる。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| リスニング力の向上 初級レベルの日常英語を聞いて、主要な内容を理解し、適切に回答できるようになる。 スピーキング能力の強化 テキストの対話文をペアワークで練習し、自発的かつ積極的に英語で会話する姿勢を身につける。 実用的な英語表現の習得 上記の目標を達成することで、日常的な英語コミュニケーションにおいて自信を持って対応できる能力を養成する。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | シラバスおよび授業流れの説明 Unit 1: On the plane,.....please, ~をお願いします、~をください | | ジャリ | 講義 | 教科書の練習問題を解いた後、ペアワークで確認し、クラス全体で答え合わせを行う。(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする。(30分) |
| 2 | 小テスト、課題の答え合わせ Unit 1: On the plane,.....please, ~をお願いします、~をください Unit 2: At the currency Exchange I'd like to ~したいのですが | | ジャリ | 講義 | 教科書の練習問題を解いた後、ペアワークで確認し、クラス全体で答え合わせを行う。(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする。(30分) |
| 3 | 小テスト、課題の答え合わせ Unit 2: At the currency Exchange I'd like to ~したいのですが Unit 3: At the Hotel 1 Could you ? ~していただけませんか | | ジャリ | 講義 | 教科書の練習問題を解いた後、ペアワークで確認し、クラス全体で答え合わせを行う。(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする。(30分) |
| 4 | 小テスト、課題の答え合わせ Unit 3: At the Hotel 1 Could you ? ~していただけませんか Unit 4: At the Hotel 2 Is / Are there ? ~ ありますか | | ジャリ | 講義 | 教科書の練習問題を解いた後、ペアワークで確認し、クラス全体で答え合わせを行う。(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする。(30分) |
| 5 | 小テスト、課題の答え合わせ Unit 4: At the Hotel 2 Is / Are there ? ~ ありますか Unit 5: On the Train / Bus Does this ? これは~しますか? | | ジャリ | 講義 | 教科書の練習問題を解いた後、ペアワークで確認し、クラス全体で答え合わせを行う。(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする。(30分) |
| 6 | 小テスト、課題の答え合わせ Unit 5: On the Train / Bus Does this ? これは~しますか Unit 6: Sightseeing 1 Where is / are ? ~はどこですか | | ジャリ | 講義 | 教科書の練習問題を解いた後、ペアワークで確認し、クラス全体で答え合わせを行う。(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする。(30分) |
| 7 | 小テスト、課題の答え合わせ Review 1, Units 1-6 の復習 | | ジャリ | 講義 | 教科書の練習問題を解いた後、ペアワークで確認し、クラス全体で答え合わせを行う。(30分) | 。学習したことを復習し、会話練習をする(30分) |
| 8 | 小テスト、課題の答え合わせ Unit 7: Shopping 1 May I ...? ~してもいいですか、~できますか | | ジャリ | 講義 | 教科書の練習問題を解いた後、ペアワークで確認し、クラス全体で答え合わせを行う。(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする。(30分) |
| 9 | 小テスト、課題の答え合わせ Unit 7: Shopping 1 May I ...? ~してもいいですか、~できますか Unit 8: Shopping 2 I'm looking for ~を探しているのですが | | ジャリ | 講義 | 教科書の練習問題を解いた後、ペアワークで確認し、クラス全体で答え合わせを行う。(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする。(30分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|----|--|------|------|----|--|--------------------------|
| 10 | 小テスト、課題の答え合わせ Unit 8: Shopping 2 I'm looking for ~を探しているのですが Unit 9: At the post office How much is / are ... ? ~はいくらですか | | ジャマリ | 講義 | 教科書の練習問題を解いた後、ペアワークで確認し、クラス全体で答え合わせを行う。(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする。(30分) |
| 11 | 小テスト、課題の答え合わせ Unit 9: At the post office How much is / are ... ? ~はいくらですか unit 10: Sightseeing 2 Do you have ... ? ~はありますか | | ジャマリ | 講義 | 教科書の練習問題を解いた後、ペアワークで確認し、クラス全体で答え合わせを行う。(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする。(30分) |
| 12 | 小テスト、課題の答え合わせ Unit 10: Sightseeing 2 Do you have ... ? ~はありますか Unit 11: At the Restaurant Could I have ...? ~をもらえますか | | ジャマリ | 講義 | 教科書の練習問題を解いた後、ペアワークで確認し、クラス全体で答え合わせを行う。(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする。(30分) |
| 13 | 小テスト、課題の答え合わせ Unit 11: At the Restaurant Could I have ...? ~をもらえますか Unit 12: At the Hospital / Pharmacy I have ~ (症状) です、~があります | | ジャマリ | 講義 | 教科書の練習問題を解いた後、ペアワークで確認し、クラス全体で答え合わせを行う。(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする。(30分) |
| 14 | 小テスト、課題の答え合わせ Unit 12: At the Hospital / Pharmacy I have ~ (症状) です、~があります | | ジャマリ | 講義 | 教科書の練習問題を解いた後、ペアワークで確認し、クラス全体で答え合わせを行う。(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする。(30分) |
| 15 | 課題の答え合わせ Review 2, Units 7-12 の復習 | | ジャマリ | 講義 | 教科書の練習問題を解いた後、ペアワークで確認し、クラス全体で答え合わせを行う。(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする。(30分) |
| | 定期試験 (筆記) | | | | | |

評価基準・評価方法

出席時の態度 (10%)、課題およびペアワーク後の発表で、授業内外の課題の完成度と発表の質 (10%)、定期的実施される小テストの成績の平均点 (20%) 定期試験の成績 (60%) で評価する。

使用教科書

My First Trip, Key Phrases for Traveling Abroad / センゲージラーニング株式会社, 978-4-86312-242-0

参考図書

| | |
|--------------------------|--|
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | スピーキング練習におけるペアワーク活動の成果発表や、授業内外で課される課題の完成度を評価し、適切なフィードバックを授業内で行う。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | |
| 備考 | 各講義で実施される小テストの成績および授業態度も評価の対象となる。授業中は複数回指名されることがあるため、積極的にクラス活動に参加をすること。試験対策としては、授業で強調した内容や確認問題を中心に学習するように。 |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|--|-------------|------|----|--------------------------------|-------------------------|
| 英語 (日常英会話) B | | ミホト セイト マサト | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 選択 | 1年 後学期 | 1単位(30時間) | 講義 | | LFL202 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。 | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 本講義では、英語によるコミュニケーション能力を総合的に向上させることをねらいとする。その際、英語の伝達的な機能のみにとどまらず、文化・社会とのかかわりについても考慮する。毎回さまざまな言語活動を行い、英語の持つ多様な機能や働きを考えることも目的の一つとする。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 英語の受信能力(リーディング・ライティング)だけではなく、発信能力(リスニング・スピーキング)を高める。英語の伝達的な機能のみではなく、英語と文化・社会とのかかわりなどへの理解を高め、多様な情報を様々な方向から理解・解釈する力の育成を目指す。授業終了時には英語の受信能力及び発信能力が向上し、実践することができる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | Week 1: Giving Directions and Helping Target: 道案内で使える英語表現 | | ミホト | 講義 | | 学習したことを復習し、会話練習をする(30分) |
| 2 | Week 2: Talking about Yourself Target: 自己紹介で使える英語表現 | | ミホト | 講義 | 教科書を読んで内容を理解し声に出してよんでくること(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする(30分) |
| 3 | Week 3: Host Family Target: 留学生などを迎える時に使える英語表現 | | ミホト | 講義 | 教科書を読んで内容を理解し声に出してよんでくること(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする(30分) |
| 4 | Week 4: Commuting by Train Target: 電車の乗換説明に使える英語表現 | | ミホト | 講義 | 教科書を読んで内容を理解し声に出してよんでくること(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする(30分) |
| 5 | Week 5: Taking Classes Target: 物事の描写に使える英語表現(1) | | ミホト | 講義 | 教科書を読んで内容を理解し声に出してよんでくること(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする(30分) |
| 6 | Week 6: Talking with a Teacher Target: 褒める時に使える英語表現 | | ミホト | 講義 | 教科書を読んで内容を理解し声に出してよんでくること(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする(30分) |
| 7 | Week 7: Finding Friends Target: 自分の趣味や好みを伝える英語表現 | | ミホト | 講義 | 教科書を読んで内容を理解し声に出してよんでくること(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする(30分) |
| 8 | Week 8: Potluck Target: パーティーなどの集まりで使える英語表現 | | ミホト | 講義 | 教科書を読んで内容を理解し声に出してよんでくること(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする(30分) |
| 9 | Week 9: Sumo Target: 物事の描写に使える英語表現(2) | | ミホト | 講義 | 教科書を読んで内容を理解し声に出してよんでくること(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする(30分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|---|------|-----|----|---------------------------------|-------------------------|
| 10 | Week 10: Four Seasons Target: 好きな季節の説明に使える英語表現 | | ミホト | 講義 | 教科書を読んで内容を理解し、声に出してよんでくること(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする(30分) |
| 11 | Week 11: Green Tea Target: 物事の描写に使える英語表現(3) | | ミホト | 講義 | 教科書を読んで内容を理解し、声に出してよんでくること(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする(30分) |
| 12 | Week 12: Japanese Food Target: 料理の説明に使える英語表現 | | ミホト | 講義 | 教科書を読んで内容を理解し、声に出してよんでくること(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする(30分) |
| 13 | Week 13: Part-time Jobs Target: アルバイト先で使える英語表現 | | ミホト | 講義 | 教科書を読んで内容を理解し、声に出してよんでくること(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする(30分) |
| 14 | Week 14: Shopping at a Clothing Shop Target: 買い物で使える英語表現 | | ミホト | 講義 | 教科書を読んで内容を理解し、声に出してよんでくること(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする(30分) |
| 15 | Week 15: Asakusa Target: オススメの場所を紹介する英語表現 | | ミホト | 講義 | 教科書を読んで内容を理解し、声に出してよんでくること(30分) | 学習したことを復習し、会話練習をする(60分) |
| | 試験(筆記) | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 授業参加態度・小テスト・・・40% , 理解度判定・・・60% | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| Welcome To Nippon, Building International Friendship / 朝日出版社, 978-4-255-15682-8 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 授業内でフィードバックする。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | | | | | | |
| 備考 | - 使える英語力の育成 具体的な英語の使用場面を意識しながら、inputからoutputへと進むバランスの良い活動を通して、自然な流れで英語運用能力を身につけることができる内容・構成になっています。皆さんの英語力とテキストの難易度をすり合わせ、無理のない進み方で行います。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|---|-------------|------|----|--|--|
| 英語（専門英語） | | ミホト セイト マサト | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 選択 | 1年 後学期 | 1単位(30時間) | 講義 | | LFL203 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。 | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 本講義では、ホスピタル・イングリッシュによるコミュニケーション能力を総合的に向上させることをねらいとする。発音や聞き取りの練習により、スピーキングやリスニングの能力を育成する。「読む」「聞く」「話す」という3つの技能を育て、英語の運用能力を総合的に養う。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 毎回さまざまな医療に関する言語活動を行い、英語の持つ多様な機能や働きを考えることを目指す。正しい発音と適切なパターンで発話することができる。医療英語によるコミュニケーションに必要なリスニング力を身につけ、状況の聞き取りができる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | オリエンテーション | | ミホト | 講義 | | その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく(60分) |
| 2 | Lesson 1: Reception Desk (救急外来受付) | | ミホト | 講義 | 前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく(30分) | その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく(30分) |
| 3 | Lesson 2: Examination Room (診察室) | | ミホト | 講義 | 前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく(30分) | その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく(30分) |
| 4 | Lesson 3: Giving Injection (注射をする) | | ミホト | 講義 | 前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく(30分) | その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく(30分) |
| 5 | Lesson 4: Explanation to a Family Member (患者の家族への説明) | | ミホト | 講義 | 前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく(30分) | その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく(30分) |
| 6 | Lesson 5: Self-Introduction and First Meal (自己紹介と初めての食事) | | ミホト | 講義 | 前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく(30分) | その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく(30分) |
| 7 | Lesson 6: Orientation to the Ward (入院病棟を案内する) | | ミホト | 講義 | 前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく(30分) | その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく(30分) |
| 8 | Lesson 7: Asking Height, Weight, and Temperature (身長、体重、体温を尋ねる) | | ミホト | 講義 | 前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく(30分) | その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく(30分) |
| 9 | Lesson 8: Obtaining the Patient's History (患者歴をとる) 小テスト | | ミホト | 講義 | 前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく(30分) | その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭にいれておく(30分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|--|------|------|----|--|--|
| 10 | Lesson 9: Checking the Patient's Condition (患者の状態をチェックする) | | ミルボト | 講義 | 前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく(30分) | その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭に置いておく(30分) |
| 11 | Lesson 10: Blood Test Explanation (血液検査の説明) | | ミルボト | 講義 | 前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく(30分) | その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭に置いておく(30分) |
| 12 | Lesson 11: Drawing a Blood Sample (採血) | | ミルボト | 講義 | 前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく(30分) | その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭に置いておく(30分) |
| 13 | Lesson 12: Explaining about the Operation: Basic Procedures (手術についての説明: 基本的手順) | | ミルボト | 講義 | 前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく(30分) | その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭に置いておく(30分) |
| 14 | Lesson 13: Explaining about the Operation: Anesthesia (手術についての説明: 麻酔) | | ミルボト | 講義 | 前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく(30分) | その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭に置いておく(30分) |
| 15 | Lesson 14: Taking the Patient into Surgery (手術室への搬送) | | ミルボト | 講義 | 前もって次に学ぶチャプターのわからない単語の意味を辞書で引いておく(30分) | その日に学んだことを復習し、単語やイディオムの意味を頭に置いておく(30分) |
| | 定期試験(筆記) | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 授業参加態度・小テスト・・・40%, 理解度判定・・・60% | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| Essential English For Nurses 5th Edition(学生版) / Paul Zito & Masako Hayano.---日総研, 978-4-7760-1861-2 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 授業内でフィードバックする。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | | | | | | |
| 備考 | 皆さんの英語力とテキストの難易度をすり合わせ、無理のない進み方で行う。学生がテキストの内容をよく理解するために各ユニットをスライドプレゼンテーションで説明する。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|----------------------------------|--------------|------|----|------------------------|--------------|
| ドイツ語 | | 安藤彰浩 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 選択 | 1年 後学期 | 1単位(30時間) | 講義 | | LFL204 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。 | | 安藤彰浩(ドイツ語通訳) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| ドイツ語における初級の基礎知識の習得を目指す。インターネット(動画サイトYou Tube 等でニュース放送を見る)を活用して、ドイツ人の話す生のドイツ語に触れる機会を設ける。ドイツ社会における時事的、文化的話題を提供して、ドイツの歴史や文化に対する興味を喚起する。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| ドイツ語の基本的な表現に親しむ。 ドイツ語学習を通じて言葉の感覚を磨き、自分をより正確に表現する力を身に付ける。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 発音。数字0~12。挨拶 | | 安藤 | 講義 | 次に扱うテキストの内容に目を通す。(30分) | 授業内容の復習(30分) |
| 2 | 自己紹介。 - 動詞の現在人称変化 ich/Sie | | 安藤 | 講義 | 次に扱うテキストの内容に目を通す。(30分) | 授業内容の復習(30分) |
| 3 | 自己紹介。 - 動詞の現在人称変化 du | | 安藤 | 講義 | 次に扱うテキストの内容に目を通す。(30分) | 授業内容の復習(30分) |
| 4 | 第三者の紹介。 - 動詞の現在人称変化 三人称単数 er/sie | | 安藤 | 講義 | 次に扱うテキストの内容に目を通す。(30分) | 授業内容の復習(30分) |
| 5 | 身の回りのもの。 - 格変化:主格(1格)。複数形 | | 安藤 | 講義 | 次に扱うテキストの内容に目を通す。(30分) | 授業内容の復習(30分) |
| 6 | 買い物・家族。直接目的格(4格)。 - 所有冠詞 | | 安藤 | 講義 | 次に扱うテキストの内容に目を通す。(30分) | 授業内容の復習(30分) |
| 7 | お土産。間接目的語(3格)。 - 人称代名詞 | | 安藤 | 講義 | 次に扱うテキストの内容に目を通す。(30分) | 授業内容の復習(30分) |
| 8 | 趣味。時間表現。曜日 - 不規則動詞の現在人称変化 | | 安藤 | 講義 | 次に扱うテキストの内容に目を通す。(30分) | 授業内容の復習(30分) |
| 9 | 道をたずねる。 - 前置詞の格支配1、命令形 | | 安藤 | 講義 | 次に扱うテキストの内容に目を通す。(30分) | 授業内容の復習(30分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|--|-------------------------------|------|----|----|------------------------|--------------|
| 10 | Eメール。月と季節 - 前置詞の格支配 2 | | 安藤 | 講義 | 次に扱うテキストの内容に目を通す。(30分) | 授業内容の復習(30分) |
| 11 | 手紙。時間表現 2 - イントネーションと文アクセント | | 安藤 | 講義 | 次に扱うテキストの内容に目を通す。(30分) | 授業内容の復習(30分) |
| 12 | 料理・レストラン - 会話表現 | | 安藤 | 講義 | 次に扱うテキストの内容に目を通す。(30分) | 授業内容の復習(30分) |
| 13 | ドイツ鉄道 - 分離動詞・非分離動詞、zu 不定詞 | | 安藤 | 講義 | 次に扱うテキストの内容に目を通す。(30分) | 授業内容の復習(30分) |
| 14 | ベルリンへの旅 - 話法の助動詞 | | 安藤 | 講義 | 次に扱うテキストの内容に目を通す。(30分) | 授業内容の復習(30分) |
| 15 | ドイツの歴史、文化について。 - 文法のおさらい | | 安藤 | 講義 | 次に扱うテキストの内容に目を通す。(30分) | 授業内容の復習(30分) |
| | 定期試験(筆記) | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 理解度、積極参加を重視 定期試験(60%)、小試験(20%)、授業への取り組み(20%) | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| シュピッツェ 1 コミュニケーションで学ぶドイツ語 / 朝日出版社, 978-4-255-25422-7 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| 必要に応じて紹介 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 課題の習得を総合的に評価してコメントする。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | | | | | | |
| 備考 | 毎回、動画サイトを使って、ドイツ人の生活や文化を紹介する。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|-----------------------------------|-----------|------|----|--|---|
| 中国語 | | 橋本永貢子 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 選択 | 1年 後学期 | 1単位(30時間) | 講義 | | LFL205 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(1)看護ディプロマポリシー(1)理学ディプロマポリシー(1)(3)作業ディプロマポリシー(1)(3)視機能ディプロマポリシー(1)(3)の達成に寄与している。 | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 現代中国語の初歩を学ぶ。基礎的な中国語の習得を通じて、中国語が一言語としてどのような特徴を持っているのかを学び、また、中国人とコミュニケーションをとる場合に必要な知識や中国語の背景にある中国の文化や社会についても理解を深める。これにより、将来医療従事者になった場合にも役に立つ教養を身に付ける。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 発音記号が読み、中国語の正確な発音を習得する 簡単な挨拶言葉を習得する 基礎的な文法を習得し、日常会話ができるようにする | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 中国事情と中国語の概要、声調 | | 橋本 | 講義 | テレビやラジオ、インターネット等で、中国語の音を聞いてみる。(30分) | 声調練習を行い、マスターする(30分) |
| 2 | 第1課 (単母音、子音) | | 橋本 | 講義 | 声調の復習をする。(30分) | 単母音と子音の発音練習を行い、マスターする。(30分) |
| 3 | 第1課 (挨拶、人称代名詞、名前の言い方、是字文) | | 橋本 | 講義 | 単母音と子音の復習をする。(30分) | 挨拶言葉を覚え、自分の名前の言い方をマスターする。(30分) |
| 4 | 第2課 (複母音、挨拶、数字) | | 橋本 | 講義 | 挨拶言葉、自分の名前「AはBだ」の言い方を復習する(30分) | 複母音、挨拶、数字の発音練習を行い、マスターする。(30分) |
| 5 | 第2課 (いろんな番号、症状を聞く会話、ドリル) | | 橋本 | 講義 | 複母音、挨拶、数字の復習をする。(30分) | 数字や症状に関する表現の発音練習をする。(30分) |
| 6 | 第3課 (鼻母音、診察時の会話) | | 橋本 | 講義 | 数字や症状に関する表現の復習をする。(30分) | 鼻母音を練習しマスターする。診察時の会話を音読する(30分) |
| 7 | 第3課 (指示代名詞、"的"、"怎么") | | 橋本 | 講義 | 鼻母音と診察時の会話を復習する(30分) | 指示代名詞や"的"、"怎么"を用いた文の発音練習を行う。(30分) |
| 8 | 第4課 (声調の変調、アール化音、発音のまとめ、場所を尋ねる会話) | | 橋本 | 講義 | 指示代名詞や"的"、"怎么"を用いた文の復習をする。(30分) | 声調の変調とアール化音の発音練習をし、場所を尋ねる会話の発音練習をする。(30分) |
| 9 | 第4課 (場所代名詞、方向表現、存在を表す表現) | | 橋本 | 講義 | 声調の変調とアール化音の発音練習をし、場所を尋ねる会話を復習する。(30分) | 場所代名詞、方向表現、存在を表す表現の発音練習をする。(30分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|--|---|------|----|----|---|--|
| 10 | 第5課 (あまり～ない、もうすぐ～だ、だろう／～しよう、～するのが～の各表現) | | 橋本 | 講義 | 場所代名詞、方向表現、存在を表す表現を復習する。(30分) | あまり～ない、もうすぐ～だ、だろう／～しよう、～するのが～の各表現の発音練習をする(30分) |
| 11 | 第5課 (入院時の症状に関する表現、練習問題) | | 橋本 | 講義 | あまり～ない、もうすぐ～だ、だろう／～しよう、～するのが～の各表現の復習をする。(30分) | 教科書第5課の会話文の発音練習を行う。(30分) |
| 12 | 第6課 (～する必要はない、主述述語文、ずっと～だの各表現) | | 橋本 | 講義 | 教科書第5課の会話文の発音練習を行う。(30分) | ～する必要はない、主述述語文、ずっと～だの各表現の発音練習を行う。(30分) |
| 13 | 第6課 (患者さんを励ます会話、練習問題) | | 橋本 | 講義 | ～する必要はない、主述述語文、ずっと～だの各表現の復習をする。(30分) | 教科書第6課本文の発音練習を行う。(30分) |
| 14 | 第7課 (～してもいい、～しなければならないの各表現) | | 橋本 | 講義 | 教科書第6課本文の発音練習を行い、練習問題を解く。(30分) | ～してもいい、～しなければならないの各表現を復習する。(30分) |
| 15 | 第7課 (退院の際の会話、練習問題) | | 橋本 | 講義 | ～してもいい、～しなければならないの各表現を復習する。(30分) | 教科書第7課本文の発音練習を行う。(30分) |
| | 定期試験(筆記) | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 発音とリスニングを重視する。毎回の授業における理解度や発音の状況(20%)と学期中数回行う小テスト(30%)、および期末テストの結果(50%)から総合的に評価する。 | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 協同学習で学ぶ 医療系中国語会話 / 李偉・管虹.--白帝社, 9784863983335 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 課題に対しては、次の授業の際に点検あるいは採点したものを返却しまた解説する。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | | | | | | |
| 備考 | 連絡先メールアドレス: hashimoto.ekuko.k7@f.gifu-u.ac.jp | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|--------------------------|-----------|------|----------|---|---------------------------------|
| 解剖生理学 | | 佐竹裕孝 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | 科目ナンバリング | | |
| 必修 | 1年 前学期 | 2単位(30時間) | 講義 | NSF101 | | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| ヒトの身体は正常時にどのように働いて恒常性が維持されているかを、人体の基本的な構造と関連づけて統合的に学び、解剖学的な構成と機能的な役割を理解し、専門基礎科目および臨床科目の礎となる人体に関する解剖学および生理学的な基礎知識を習得する。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 解剖生理学 では解剖生理学を学ぶための 基礎知識と、人体を構成する基本的な要素である 骨格筋系および 感覚器系をそれぞれ構造と機能から体系的に学習し、正常な仕組みと働きを説明できるようにする。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 総論 :細胞の構造, 組織 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第1章C 27~30・45~54頁を通読(120分) | 細胞の構造と機能について理解, ノート整理(120分) |
| 2 | 総論 :細胞膜の構造と機能 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第1章C 36~42頁を通読(120分) | 細胞膜の構造と機能について理解, ノート整理(120分) |
| 3 | 総論 :人体の構造と機能 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第1章A・B 8~27頁を通読(120分) | 人体に関する基礎的な用語と機能の理解, ノート整理(120分) |
| 4 | 骨筋系 :骨筋総論 骨, 関節 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第7章A・B 282~292頁を通読(120分) | 骨総論に関する基本事項の理解, ノート整理(120分) |
| 5 | 骨筋系 :骨筋総論 筋, 運動機能と下行伝導路 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第7章C, 第8章D 292~296, 391~392頁を通読(120分) | 筋総論に関する基本事項の理解, ノート整理(120分) |
| 6 | 骨筋系の筋 :体幹の骨格と筋 脊柱と胸郭, 背部 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第7章D 296~301頁を通読(120分) | 体幹の骨・体幹背部の筋について理解, ノート整理(120分) |
| 7 | 骨筋系 :体幹の骨格と筋 胸部・腹部の筋 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第7章D 301~306頁を通読(120分) | 体幹胸腹部の筋について理解, ノート整理(120分) |
| 8 | 骨筋系 :上肢の骨格と筋 骨格と筋群, 運動 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第7章E 306~320頁を通読(120分) | 上肢の骨・筋, 運動について理解, ノート整理(120分) |
| 9 | 骨筋系 :下肢の骨格と筋 骨格と筋群, 運動 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第7章F 320~332頁を通読(120分) | 下肢の骨・筋, 運動について理解, ノート整理(120分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|--|------|----|----|--|---------------------------------------|
| 10 | 骨筋系 : 頭頸部の骨格と筋 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第7章G 332～339頁を通読 (120分) | 頭頸部の骨・筋について理解, ノート整理 (120分) |
| 11 | 骨筋系 : 筋の収縮機構 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第7章H 339～355頁を通読 (120分) | 筋収縮機序の理解, ノート整理 (120分) |
| 12 | 感覚器系 : 感覚総論, 視覚器の構造 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第8章G 397～403頁を通読 (120分) | 感覚の性質, 視覚器の構造を理解, ノート整理 (120分) |
| 13 | 感覚器系 : 視覚器の機能 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第8章G 403～407頁を通読 (120分) | 視覚器の機能について理解, ノート整理 (120分) |
| 14 | 感覚器系 : 耳の構造と機能 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第8章H 408～413頁を通読 (120分) | 耳の構造と聴覚・平衡覚の機能について理解, ノート整理 (120分) |
| 15 | 感覚器系 : 化学覚と体性感覚(皮膚)の構造と機能 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第8章I・F 413～415, 394～397頁を通読 (120分) | 味覚・嗅覚, 体性感覚の構造と機能について理解, ノート整理 (120分) |
| | 定期試験(筆記) | | | 試験 | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 定期試験の成績(100%) | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 系統看護学講座専門基礎分野 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 / 坂井・岡田・宇賀...第11版--医学書院, 2022年, 978-4-260-04687-9 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| トートラ人体解剖生理学 原書11版(丸善)佐伯 他(編訳)2020, ISBN 978-4-621-30539-3 人体の正常構造と機能(改訂4版)(日本医事新報)坂井・河原(編)2021, ISBN 978-4-7849-3181-1 シンプル生理学(改訂8版)(南江堂)貴邑・根来(著)2021, ISBN 978-4-524-22655-9 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 提出された課題に対してコメントを付けて回答・返却する。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | | | | | | |
| 備考 | 解剖生理学 と解剖生理学 は看護教育の根底をなす解剖・生理学の講義であり、1年次前期に開講される。はじめに解剖生理学 を集中的に開講し、引き続いて植物性機能を中心とした解剖生理学 を講義する。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|----------------------------|-----------|------|----|----------------------------------|--|
| 解剖生理学 | | 佐竹裕孝 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 1年 前学期 | 2単位(60時間) | 講義 | | NSF102 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| ヒトの身体は正常時にどのように働いて恒常性が維持されているかを、人体の基本的な構造と関連づけて統合的に学び、解剖学的な構成と機能的な役割を理解し、専門基礎科目および臨床科目の礎となる人体に関する解剖学および生理学的な基礎知識を習得する。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 解剖生理学では、消化器系、呼吸器系、血液、心循環系、腎泌尿器系、内分泌器系、生殖器系、体温、および神経系をそれぞれ構造と機能から体系的に学修し、正常な仕組みと動きを正しく説明できるようにする。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 消化器系 : 消化器総論。口・咽頭・食道の構造と機能 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第2章A 56～67頁を通読 (20分) | 消化管の基本事項、および上部消化管の構造と機能について理解、ノート整理(60分) |
| 2 | 消化器系 : 腹部消化管(胃・小腸・大腸)の構造 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第2章B 67～76, 80～84頁を通読(30分) | 腹部消化管の構造について理解、ノート整理(60分) |
| 3 | 消化器系 : 腹部消化管(胃・小腸・大腸)の機能 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第2章B 67～76, 80～84頁を通読(30分) | 腹部消化管の機能について理解、ノート整理(60分) |
| 4 | 消化器系 : 栄養の消化と吸収 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第2章B 76～80頁を通読(15分) | 栄養の消化・吸収の機序を理解、ノート整理(60分) |
| 5 | 消化器系 : 肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能、腹膜 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第2章C 84～93頁を通読(20分) | 肝臓、胆嚢、膵臓の構造と機能を理解、ノート整理(60分) |
| 6 | 呼吸器系 : 呼吸器の構造 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第3章A 96～107頁を通読(20分) | 呼吸器の構造について理解、ノート整理(60分) |
| 7 | 呼吸器系 : 呼吸 呼吸運動の機構、呼吸気量 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第3章B 108～115頁を通読(20分) | 呼吸機序、呼吸気量の理解、ノート整理(60分) |
| 8 | 呼吸器系 : 呼吸 ガス交換、呼吸運動の調節 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第3章B 116～126頁を通読(20分) | ガス交換の機序を理解、ノート整理(60分) |
| 9 | 血液 : 赤血球、白血球、血小板 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第3章C 126～140頁を通読(30分) | 血液固体成分について理解、ノート整理(60分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|----|-----------------------------|------|----|----|-----------------------------------|---|
| 10 | 血液 : 血漿タンパク質、凝固線溶系、血液型 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第3章C 140～148頁を通読 (20分) | 血液液体成分、凝固反応について理解、ノート整理(60分) |
| 11 | 心循環系 : 心臓の構造 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第4章A・B 150～157頁を通読 (20分) | 心臓の構造について理解、ノート整理(60分) |
| 12 | 心循環系 : 心臓の機能 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第4章C 157～167頁を通読 (20分) | 心臓の興奮と心電図を理解、ノート整理(60分) |
| 13 | 心循環系 : 心臓の機能 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第4章C 167～175頁を通読 (20分) | 心臓の収縮と心周期を理解、ノート整理(60分) |
| 14 | 心循環系 : 末梢循環系の構造 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第4章D 175～186頁を通読 (30分) | 血管の一般的な構造、主要な動静脈について理解、ノート整理(60分) |
| 15 | 心循環系 : 血液循環の調節 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第4章E 187～195頁を通読 (20分) | 血圧、血液循環を理解、ノート整理(60分) |
| 16 | 心循環系 : 血液循環の調節、リンパとリンパ管 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第4章E 195～208頁を通読 (30分) | 血圧調節、リンパ系について理解、ノート整理(60分) |
| | 中間試験(筆記)(消化器系、呼吸器系、血液、心循環系) | ~ | | | | |
| 17 | 腎泌尿器系 : 腎の構造と機能、ネフロンの構造と機能 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第5章A 210～223頁を通読 (15分) | 腎臓の肉眼的・微小構造、機能の理解、ノート整理(60分) |
| 18 | 腎泌尿器系 : クリアランス、排尿路の構造と機能 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第5章A・B 223～230頁を通読 (30分) | クリアランスの理解、排尿路について理解、ノート整理(60分) |
| 19 | 腎泌尿器系 : 体液とその調節、体液とホメオスタシス | | 佐竹 | 講義 | 教科書第5章C 230～237頁を通読 (20分) | 体液の理解、体液のpHについて理解、ノート作成(60分) |
| 20 | 内分泌器系 : 内分泌総論、調節系、視床下部、下垂体 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第6章B 249～259頁を通読 (20分) | 内分泌総論、視床下部・下垂体のホルモンについて理解、ノート整理(60分) |
| 21 | 内分泌器系 : 甲状腺、副甲状腺、膵臓、副腎、性腺 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第6章C 259～273頁を通読 (30分) | 甲状腺、副甲状腺、膵臓、副腎、性腺のホルモンについて理解、ノート整理(60分) |
| 22 | 内分泌器系 : ホルモンによる調節 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第6章D・E 273～280頁を通読 (20分) | ホルモンによる調節について理解、ノート整理(60分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|-------------------------------------|------|----|----|----------------------------------|---------------------------------------|
| 23 | 生殖器系 : 男性生殖器 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第10章A 460～466頁を通読 (15分) | 男性生殖器について理解, ノート整理 (60分) |
| 24 | 生殖器系 : 女性生殖器 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第10章B 466～475頁を通読 (20分) | 女性生殖器について理解, ノート整理 (60分) |
| 25 | 体温とその調節 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第9章C 451～456頁を通読 (20分) | 体温の調節機序を理解, ノート整理 (60分) |
| 26 | 神経系 : 神経系の構造と機能 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第8章A 358～368頁を通読 (20分) | 神経細胞の構造と機能, 神経系の構造について理解, ノート整理 (60分) |
| 27 | 神経系 : 脊髄と脳 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第8章B 368～383頁を通読 (30分) | 脊髄と脳について構造と機能を理解, ノート整理 (60分) |
| 28 | 神経系 : 脊髄神経と脳神経 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第8章C 383～391頁を通読 (20分) | 脊髄神経と脳神経について理解, ノート整理 (60分) |
| 29 | 神経系 : 自律神経の構造と機能 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第6章A 240～249頁を通読 (20分) | 自律神経の構造と機能について理解, ノート整理 (60分) |
| 30 | 神経系 : 脳の高次機能 | | 佐竹 | 講義 | 教科書第8章K 420～432頁を通読 (30分) | 脳の高次機能について理解, ノート整理 (60分) |
| | 定期試験 筆記 (腎泌尿器系、内分泌系、生殖器系、体温と調節、神経系) | ~ | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 中間試験の成績 (50%), および定期試験の成績 (50%) | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 系統看護学講座専門基礎分野 人体の構造と機能 (1) 解剖生理学 / 坂井・岡田・宇賀...第11版--医学書院, 2022年, 978-4-260-04687-9 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| トートラ人体解剖生理学 原書11版 (丸善) 佐伯 他 (編訳) 2020, ISBN 978-4-621-30539-3 人体の正常構造と機能 (改訂4版) (日本医事新報) 坂井・河原 (編) 2021, ISBN 978-4-7849-3181-1 シンプル生理学 (改訂8版) (南江堂) 貴邑・根来 (著) 2021, ISBN 978-4-524-22655-9 | | | | | | |
| 課題 (試験やレポート) に対するフィードバック方法 | 提出された課題に対してコメントを付して回答・返却する。 | | | | | |

| | |
|---------------|--|
| 実務経験をいかした教育内容 | |
| 備考 | 解剖生理学 と解剖生理学 は看護教育の根底をなす解剖・生理学の講義であり、1年次前期に開講される。はじめに解剖生理学 を集中的に開講し、引き続いて植物性機能を中心とした解剖生理学 を講義する。解剖生理学 は30コマ（60時間）の講義であるため、開講期間の前半に中間試験（筆記）を実施する。 |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|---|-----------------------|------|----------|--|---|
| 生活者の解剖生理 | | 眞田正世・加藤清人（代表教員 眞田正世） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 1年 後学期 | 1単位(15時間) | 講義 | | NSF203 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 眞田正世（看護師）、加藤清人（作業療法士） | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 自身の日常生活行動から「からだ」の仕組みを理解し、看護の視点で「からだ」の解剖生理学的知識を深める。また、主体的な学習方法を行い、グループ学習で自分の考えをまとめたり発表するコミュニケーションスキルを身につける。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 自身の「からだ」を見つめなおし、解剖生理学的な知識を深める。看護の役割である日常生活援助や診療の補助技術に必要となる、解剖生理学の知識を深める。協同学習を通して「聴く力」「話す力」「伝え合う力」を養い、実践することができる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | ・看護と解剖生理学との関連 ・人間が行動をする為に必要な身体の構造と機能：グループワーク (GW) 1. 生きる為の恒常性 2. 行動する為のエネルギー産生やガス交換 3. 行動する為の認識：脳からの指令 4. 筋肉や関節の動き | | 眞田 | 講義 GW | 教科書の第1章を読んで講義に臨むこと。(120分) | 人間が行動をする為に必要な身体の構造と機能について再学習する。(180分) |
| 2 | ・人間が行動をする為に必要な身体の構造と機能：GW ・人間が行動をする為に必要な身体の構造と機能：発表 | | 眞田 | 講義 GW | 人間が行動をする為に必要な身体の構造と機能についてまとめ、発表原稿を作成する。(60分) | 発表を聞き、人間が行動をする為に必要な身体の構造と機能について自己の不足内容を再学習する。(180分) |
| 3 | ・人間が行動をする為に必要な身体の構造と機能：講義、解説 | | 眞田 | 講義 | 人間が行動をする為に必要な身体の構造と機能について、不明な点を抽出し、講義に臨む。(60分) | 講義を聴き、人間が行動をする為に必要な身体の構造と機能を再学習する。(180分) |
| 4 | ・食べる 1. 食欲 2. 食行動 3. 咀嚼と嚥下 4. 消化と吸収 | | 加藤 | 講義 | 教科書の第5章を読んで講義に臨むこと。(60分) | 講義内容の再学習をし、まとめる。(180分) |
| 5 | ・排泄するとは：GW 1. 人間が排尿をする為に必要な身体の構造と機能 尿の生成 排尿のメカニズム 2. 人間が排便をする為に必要な身体の構造と機能 排便のメカニズム 3. 人間の自立した排泄行動に必要な身体の構造と機能 | | 眞田 | 講義 GW | 人間が排泄する為に必要な解剖生理学を再学習する。(60分) | 人間が排泄する為に必要な解剖生理学をGWでまとめる。(120分) |
| 6 | ・排泄するとは：グループ発表 ・人間が排泄する為に必要な身体の構造と機能：講義、解説 ・人間が会話をする為に必要な身体の構造と機能：GW 発声ができる 聞くことができ、聞いたことが理解できる 話として言葉が構成でき、伝えることができる | | 眞田 | 講義 GW | 人間が排泄する為に必要な解剖生理学の発表原稿を作成する。(60分) | 人間が会話をする為に必要な身体の構造と機能について再学習し、まとめる。(120分) |
| 7 | ・会話をすると：発表 ・人間が会話をする為に必要な身体の構造と機能：講義、解説 ・人間の出血凝固・線溶の機能、感染防御システム：GW 1) 出血凝固・線溶：血液の役割 血液凝固・線溶システム 2) 感染防御システム 皮膚の機能 感染防御システム | | 眞田 | 講義 GW | 人間が会話をする為に必要な身体の構造と機能の発表原稿作成。(60分) | 人間の出血凝固・線溶の機能、感染防御システムについて再学習し、まとめる。(180分) |
| 8 | 事例患者の身体の状態と行動の関係をアセスメントし、発表する。 | | 眞田 | 講義 演習 | 人間の出血凝固・線溶の機能、感染防御システムの発表原稿を作成する。(60分) | GWの資料をすべてまとめ提出する。(180分) |
| 定期試験：筆記試験またはレポート | | | | | | |

| 評価基準・評価方法 | |
|--|---|
| 定期試験（80％）、課題レポート・演習参加態度（20％） | |
| 使用教科書 | |
| 目でみるからだのメカニズム / 堺章.--医学書院, 2016年, 978-4-260-02776-2 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能 / 坂井 建雄 他.--医学書院, ISBN978-4-260-03171-4 | |
| 参考図書 | |
| 解剖生理学 (医学書院) 看護形態機能学 生活行動からみるからだ (日本看護協会出版社) | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 講義時間中や終了後に適宜質問を受け付ける。各講師の質問等については、次の講義かクラスルームを通して説明し、フィードバックします。課題レポートの内容が不十分な場合はコメントをつけて返却し再提出を求めることがあります。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実際の臨床場面で必要となる解剖生理学を事例を説明しながら講義する |
| 備考 | 講義時間中や終了後に適宜質問を受け付ける。各講師の質問等については、次の講義等で説明し、フィードバックします。 |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|---|-----------|------|----------|------------------------------------|-------------------------------------|
| 生化学 | | 亀山泰永 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | 科目ナンバリング | | |
| 必修 | 1年 前学期 | 1単位(30時間) | 講義 | NSF104 | | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| <p>ヒトの生命現象の仕組みを科学的に理解するために、生体内で営まれている物質代謝をはじめとする数々の現象について学習する。具体的には、人体を構成している様々な物質、特に糖質、タンパク質、脂質などの化学的性質や役割と機能について学び、人体の正常な機能とどのように関わっているかを学習する。また、遺伝子の構造や遺伝情報についても学習し、遺伝子の変異が疾病とどのように関連しているかを学習する。さらに、多細胞生物のヒトの細胞内、細胞間の情報伝達の方法についても学習する。病気は正常な営みの欠陥により起こるものであり、正常な仕組みを理解することが病気を理解するためにも重要である。</p> | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| <p>生化学を学ぶことにより、人体の正常な営みと仕組みを分子レベルで科学的に理解し、説明できる。 関連する病気の原因を生化学的に正しく理解し、説明できる。 さらに、国家試験合格レベルにスキルアップする。</p> | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 【 】内は「臨床生化学」テキストの該当する章を記載 オリエンテーション(生化学の基礎知識) 代謝総論:代謝とは?,異化と同化【1章1節】の解説 1 細胞の構造と機能 1) 細胞膜と細胞質,核,細胞小器官と細胞骨格【序章3節】の解説 | | 亀山 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し,専門用語の意味を調べておく。(30分) | 講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。(30分) |
| 2 | 2 遺伝子と遺伝情報 1) 核酸とヌクレオチド【3-4章1節】 2) 遺伝情報を担う物質:DNA【6章1節】の解説 | | 亀山 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し,専門用語の意味を調べておく。(30分) | 講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。(30分) |
| 3 | 3 細胞分裂 1) 染色体の複製と有糸分裂【6章1節2項・2節】の解説 | | 亀山 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し,専門用語の意味を調べておく。(30分) | 講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。(30分) |
| 4 | 2) タンパク合成(DNAからRNAへの転写, RNAからタンパク質への翻訳,修飾)【6章1節・3節・4節】の解説 | | 亀山 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し,専門用語の意味を調べておく。(30分) | 講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。(30分) |
| 5 | 4 遺伝と遺伝子の変化 1) 病気と遺伝子:遺伝子疾患【6章1節・5節】 2) 遺伝子診断,遺伝子治療【6章6節】と先天性代謝異常【7章】の解説 | | 亀山 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し,専門用語の意味を調べておく。(30分) | 講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。(30分) |
| 6 | 5 物質代謝 1) 同化作用と異化作用【1章1節2項・2節】 2) 酵素(役割,性質,分類,アイソザイム,臨床診断等)【2章】の解説 | | 亀山 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し,専門用語の意味を調べておく。(30分) | 講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。(30分) |
| 7 | 3)-1 生命維持に必要な栄養素:炭水化物(糖質)の構造と性質【3-1章1節】の解説 | | 亀山 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し,専門用語の意味を調べておく。(30分) | 講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。(30分) |
| 8 | 3)-2 炭水化物(糖質)の代謝(糖類,解糖のしくみ,グリコーゲンの合成と分解,ペントースリン酸回路,糖新生,血糖の調整とホルモンの作用等)【3-1章2~7節】の解説 | | 亀山 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し,専門用語の意味を調べておく。(30分) | 講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。(30分) |
| 9 | 4)-1 生命維持に必要な栄養素:脂肪(脂質)の構造と性質【3-2章1節】の解説 | | 亀山 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し,専門用語の意味を調べておく。(30分) | 講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。(30分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|---|------|----|----|---|-------------------------------------|
| 10 | 4)-2 脂肪（脂質）の代謝（脂質の構成，脂肪酸の分解，ケトン体の代謝，コレステロールの代謝 エイコサノイド等）【3- 2 章 2～11節】の解説 | | 亀山 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し，専門用語の意味を調べておく。（30分） | 講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。（30分） |
| 11 | 5)-1 生命維持に必要な栄養素：タンパク質の構造と性質【3- 3 章1節】の解説 | | 亀山 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し，専門用語の意味を調べておく。（30分） | 講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。（30分） |
| 12 | 5)-2 タンパク質の代謝（アミノ酸とタンパク質，アミノ酸代謝，先天性代謝異常，ヘムの生合成とビリルビンの代謝等）【3- 3 章 2～6節】の解説 | | 亀山 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し，専門用語の意味を調べておく。（30分） | 講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。（30分） |
| 13 | 6) 核酸・ヌクレオチドの代謝（ヌクレオチド，合成，分解，抗がん剤の作用等）【3- 4 章】の解説 7) ビタミン・ミネラルの代謝【2章6節】の解説 | | 亀山 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通し，専門用語の意味を調べておく。（30分） | 講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。（30分） |
| 14 | 6 ホルモンとサイトカイン（ホルモンの分類と作用点，ホルモン，サイトカイン各論等）【1章3節，プリント配布】の解説 | | 亀山 | 講義 | 教科書の該当ページおよび配布プリントに目を通し，専門用語の意味を調べておく。（30分） | 講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。（30分） |
| 15 | 7 細胞内、細胞間情報（シグナル）伝達 1) 情報伝達の概要，2) イオンチャネル型受容体，代謝調節型受容体，細胞内受容体，核内受容体【1章3節】の解説 | | 亀山 | 講義 | 教科書の該当ページおよび配布プリントに目を通し，専門用語の意味を調べておく。（30分） | 講義プリントおよび教科書で授業の内容を説明できるようにする。（30分） |
| | 定期試験；筆記 | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 定期試験(筆記試験)(70%)，小テスト(20%)，授業態度(10%) | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| ナーシンググラフィカ人体の構造と機能(2) 臨床生化学 / 宮澤 恵二 編.--第7版 --M C メディカ出版，2024年，978-4-8404-8155-7 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| リップンコットシリーズ イラストレイテッド 生化学 石崎泰樹，丸山敬監訳 原著8版 丸善出版 2023年11月 ISBN978-4-621-30852-3 目でみるからだのメカニズム 堺 章著 第2版 医学書院 2016年11月 ISBN978-4-260-02776-2 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 定期試験：解説プリントの掲示，小テスト：試験実施後に解説 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | | | | | | |
| 備考 | 講師の連絡先；メールアドレス；ykameyama@ccn.aitai.ne.jp | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|------------------------------|-----------|------|----|-------------------------|-------------------------------|
| 栄養学 | | 久保和弘 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 1年 後学期 | 1単位(30時間) | 講義 | | NSF205 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| <p>栄養学の学習では、生化学と連動した学問と位置づけ、特に看護の対象である人間にとっての栄養の意義を理解し、人間の成長発達や生命の維持に必要な栄養素の種類と体内の代謝について学習する。また、健康な一生を送るために生活習慣病の予防や乳児から高齢期を通じて各ライフステージの栄養を学ぶ。</p> | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| <p>栄養素の種類、役割、消化、吸収、体内代謝について説明できる。 各ライフステージにおける栄養素とエネルギーの必要量、過不足、関連する疾患について説明できる。</p> | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 栄養の概念 | | 久保 | 講義 | 資料及び教科書該当ページに目を通す。(30分) | 各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(30分) |
| 2 | 炭水化物の栄養 | | 久保 | 講義 | 資料及び教科書該当ページに目を通す。(30分) | 各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(30分) |
| 3 | 糖質代謝と疾病 | | 久保 | 講義 | 資料及び教科書該当ページに目を通す。(30分) | 各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(30分) |
| 4 | 脂質の栄養 | | 久保 | 講義 | 資料及び教科書該当ページに目を通す。(30分) | 各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(30分) |
| 5 | 脂質代謝と疾病 | | 久保 | 講義 | 資料及び教科書該当ページに目を通す。(30分) | 各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(30分) |
| 6 | タンパク質の栄養 | | 久保 | 講義 | 資料及び教科書該当ページに目を通す。(30分) | 各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(30分) |
| 7 | アミノ酸代謝、酵素の役割 | | 久保 | 講義 | 資料及び教科書該当ページに目を通す。(30分) | 各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(30分) |
| 8 | エネルギー代謝(生体利用エネルギー、身体活動エネルギー) | | 久保 | 講義 | 資料及び教科書該当ページに目を通す。(30分) | 各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(30分) |
| 9 | 水溶性ビタミンの栄養 | | 久保 | 講義 | 資料及び教科書該当ページに目を通す。(30分) | 各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(30分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|----|--------------|------|----|----|-------------------------|-------------------------------|
| 10 | 脂溶性ビタミンの栄養 | | 久保 | 講義 | 資料及び教科書該当ページに目を通す。(30分) | 各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(30分) |
| 11 | 多量ミネラルの栄養 | | 久保 | 講義 | 資料及び教科書該当ページに目を通す。(30分) | 各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(30分) |
| 12 | 微量ミネラルの栄養 | | 久保 | 講義 | 資料及び教科書該当ページに目を通す。(30分) | 各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(30分) |
| 13 | 食事摂取基準の理解 | | 久保 | 講義 | 資料及び教科書該当ページに目を通す。(30分) | 各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(30分) |
| 14 | 国民健康・栄養調査の理解 | | 久保 | 講義 | 資料及び教科書該当ページに目を通す。(30分) | 各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(30分) |
| 15 | 栄養と遺伝、食文化 | | 久保 | 講義 | 資料及び教科書該当ページに目を通す。(30分) | 各回授業後にその内容を説明できるようにまとめる。(30分) |
| | 定期試験(筆記) | | | | | |

評価基準・評価方法

定期試験(100%)により評価する。

使用教科書

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔3〕 栄養学 / 小野章文ほか.--第13版--医学書院, 2020年, 978-4-260-03861-4

参考図書

いずれも閲覧・ダウンロード可
 日本人の食事摂取基準
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/eiyuu/syokujiki_jyun.html
 国民健康・栄養調査 http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyuu_chousa.html
 日本食品標準成分表 https://www.mext.go.jp/a_menu/syokuhinseibun/index.htm

課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法

提出された課題について、適宜、授業中に補足的な解説を行う。

実務経験をいかした教育内容

備考

教科書、プリントを中心に授業をすすめる。

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|-----------------------------|-----------------------|------|----|------------------------------------|---|
| 疾病論 | | 武内康雄・林 将大 (代表教員 武内康雄) | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 1年 後学期 | 1単位(30時間) | 講義 | | NDR201 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 武内康雄(医師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| <p>疾病論 の学習では、病気(疾病)の成り立ちを病理学と関連付けて理解し、疾患の病因・病態・肉眼的、顕微鏡的变化について学習する。これらの理解は、疾患を抱えた患者のケアにあたる看護師にとって大変重要である。また、生体起こっている変化の原因を知り、対象の疾病や障害を維持、回復に向けるための基礎的知識として必要となる。</p> | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| <p>変性と化生、炎症と免疫、循環障害の病態病理の概要を説明できる。 代謝障害、遺伝子異常、先天異常の概要を説明できる。 腫瘍の病理学的分類を説明でき、腫瘍発生のメカニズムや治療法を説明できる。 生活習慣と環境因子による生体の障害の概要を説明できる。 血液・造血器系疾患・内分泌系疾患の成り立ちを説明できる。</p> | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 病理学で学ぶこと、病因論、細胞・組織の障害と修復(1) | | 武内 | 講義 | 講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分) | 授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。(30分) |
| 2 | 細胞・組織の障害と修復(2)、循環障害(1) | | 武内 | 講義 | 講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分) | 授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。(30分) |
| 3 | 循環障害(2) | | 武内 | 講義 | 講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分) | 授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。(30分) |
| 4 | 代謝障害(1) | | 武内 | 講義 | 講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分) | 授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。(30分) |
| 5 | 炎症と免疫、移植と再生医療(1) | | 林 | 講義 | 講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分) | 授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。(30分) |
| 6 | 炎症と免疫、移植と再生医療(2) | | 林 | 講義 | 講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分) | 授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。(30分) |
| 7 | 感染症と感染症対策(1) | | 林 | 講義 | 講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分) | 授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。(30分) |
| 8 | 感染症と感染症対策(2) | | 林 | 講義 | 講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分) | 授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。(30分) |
| 9 | 代謝障害(2)、老化と死 | | 武内 | 講義 | 講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分) | 授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。(30分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|---------------------------------|------|----|----|------------------------------------|---|
| 10 | 先天異常と遺伝子異常 | | 武内 | 講義 | 講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分) | 授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。(30分) |
| 11 | 腫瘍(1) | | 武内 | 講義 | 講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分) | 授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。(30分) |
| 12 | 腫瘍(2) | | 武内 | 講義 | 講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分) | 授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。(30分) |
| 13 | 生活習慣と環境因子による生体の障害 | | 武内 | 講義 | 講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分) | 授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。(30分) |
| 14 | 血液・造血器系疾患 | | 武内 | 講義 | 講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分) | 授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。(30分) |
| 15 | 血液・造血器系疾患 | | 武内 | 講義 | 講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読んでおくこと。(30分) | 授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認しておくこと。(30分) |
| | 定期試験(筆記) | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 期末筆記試験(100%) | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 疾病のなりたちと回復の促進[1]病理学 / 大橋健一ほか.--第5版--医学書院 , 2021年, 978-4-260-04203-1 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| 小林正伸著 「なるほど なっとく!病理学病態形成の基本的なしくみ」 (南山堂) | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 試験解答の一部を公開する | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 法医学での経験をもとに、病気の成り立ちについて講義を展開する。 | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|-----------|----------------------------|------|----|--|--|
| 疾病論 | | 武内康雄・國島明久・林 将大 (代表教員 武内康雄) | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 1年 後学期 | 1単位(30時間) | 講義 | | NDR202 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 武内康雄(医師)、國島明久(医師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 疾病論 では、人間の生命維持の中心となる呼吸、循環器の疾患の病態、診断、治療について学習する。また、身体の調節機構としての代謝疾患、栄養を司る消化器疾患などの病態、診断、治療についても学び、疾患を持つ対象を理解する。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 各臓器、器官の生理的役割を理解し、正常と異常の違いと疾患について説明できる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 循環器の形態と機能 | | 國島 | 講義 | 教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分) | 授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分) |
| 2 | 循環器疾患 | | 國島 | 講義 | 教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分) | 授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分) |
| 3 | 循環器疾患 | | 國島 | 講義 | 教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分) | 授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分) |
| 4 | 循環器疾患 | | 國島 | 講義 | 教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分) | 授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分) |
| 5 | 循環器疾患 | | 國島 | 講義 | 教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分) | 授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分) |
| 6 | 呼吸器の形態と機能 | | 武内 | 講義 | 教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分) | 授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分) |
| 7 | 呼吸器疾患 | | 武内 | 講義 | 教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分) | 授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分) |
| 8 | 呼吸器疾患 | | 武内 | 講義 | 教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分) | 授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分) |
| 9 | 呼吸器感染症 | | 林 | 講義 | 教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分) | 授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|--|------|----|----|--|--|
| 10 | 呼吸器感染症 | | 林 | 講義 | 教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分) | 授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分) |
| 11 | 呼吸器感染症 | | 林 | 講義 | 教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分) | 授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分) |
| 12 | 消化器疾患 | | 武内 | 講義 | 教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分) | 授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分) |
| 13 | 消化器疾患 | | 武内 | 講義 | 教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分) | 授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分) |
| 14 | 消化器疾患 | | 武内 | 講義 | 教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分) | 授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分) |
| 15 | 消化器疾患 | | 武内 | 講義 | 教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。(30分) | 授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。(30分) |
| | 定期試験 筆記 | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 定期試験 (90%)、小テスト(10%) | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 成人看護学[2]呼吸器 / 浅野浩一郎ほか.--第16版--医学書院, 2024年01月, 978-4-260-05309-9 成人看護学[3]循環器 / 松田直樹ほか.--第16版--医学書院, 2024年01月, 978-4-260-05311-2 成人看護学[5]消化器 / 南川雅子ほか.--第16版--医学書院, 2024年01月, 978-4-260-05300-6 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 小テストなどにコメントして返却など | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 法医学、循環器内科等での経験をもとに、病気の成り立ちについて講義を展開する。 | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|-----------|--|------|----|------------------------------------|-------------------------------|
| 疾病論 | | 武内康雄・細江英夫・多田晃司・平野聡子・犬塚将之・大江直行・中山則之（代表教員 武内康雄） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 1年 後学期 | 1単位(30時間) | 講義 | | NDR203 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 武内康雄(医師)、細江英夫(医師)、多田晃司(医師)、平野聡子(医師)、犬塚将之(医師)、大江直行(医師)、中山則之(医師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 疾病論では、人間の生命維持、生殖、身体各部の機能や活動のよりどころになる脳・神経系、運動器、女性生殖器、眼科疾患の病態、検査、診断、治療について学習する。また、液体の恒常性の維持を司る腎・泌尿器系疾患について学習し、腎不全に対する透析治療についても学び理解を深める。講義では、双方向システムを活用し学びを深めていく。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 内分泌系の主要な疾患を説明できる。 運動器系の主要な疾患を説明できる。 腎・泌尿器系の主要な疾患を説明できる。 女性生殖器の主要な疾患を説明できる。 感覚器の中の主要な眼科疾患を説明できる。 脳腫瘍、神経変性疾患等を説明できる。 脳血管障害の主要な疾患について概略を説明できる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 内分泌系疾患 | | 武内 | 講義 | 指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。(30分) | 授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。(30分) |
| 2 | 外傷、骨折 | | 細江 | 講義 | 指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。(30分) | 授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。(30分) |
| 3 | 関節疾患 | | 細江 | 講義 | 指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。(30分) | 授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。(30分) |
| 4 | 脊椎疾患、骨粗鬆症 | | 細江 | 講義 | 指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。(30分) | 授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。(30分) |
| 5 | 腎・泌尿器疾患 | | 多田 | 講義 | 指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。(30分) | 授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。(30分) |
| 6 | 腎・泌尿器疾患 | | 多田 | 講義 | 指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。(30分) | 授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。(30分) |
| 7 | 腎・泌尿器疾患 | | 多田 | 講義 | 指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。(30分) | 授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。(30分) |
| 8 | 女性生殖器疾患 | | 平野 | 講義 | 指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。(30分) | 授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。(30分) |
| 9 | 女性生殖器疾患 | | 平野 | 講義 | 指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。(30分) | 授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。(30分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|---|------|----|----|------------------------------------|-------------------------------|
| 10 | 感覚器（眼科疾患） | | 犬塚 | 講義 | 指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。（30分） | 授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。（30分） |
| 11 | 感覚器（眼科疾患） | | 犬塚 | 講義 | 指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。（30分） | 授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。（30分） |
| 12 | 脳・神経系疾患（主に脳血管障害、水頭症、先天性奇形など） | | 大江 | 講義 | 指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。（30分） | 授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。（30分） |
| 13 | 脳・神経系疾患（主に脳血管障害、水頭症、先天性奇形など） | | 大江 | 講義 | 指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。（30分） | 授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。（30分） |
| 14 | 脳・神経疾患（主に脳腫瘍、パーキンソン病などの変性疾患、てんかんなど） | | 中山 | 講義 | 指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。（30分） | 授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。（30分） |
| 15 | 脳・神経疾患（主に脳腫瘍、パーキンソン病などの変性疾患、てんかんなど） | | 中山 | 講義 | 指定教科書の該当ページを読み、専門用語の意味を調べておく。（30分） | 授業後に学習した内容を説明できるようにまとめる。（30分） |
| | 定期試験（筆記） | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 筆記試験（100%） | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 成人看護学[7]脳・神経 / 井手隆文ほか.--第16版--医学書院, 2024年1月, 978-4-260-05313-6 成人看護学[8]腎・泌尿器 / 今井亜矢子ほか.--第16版--医学書院, 2024年1月, 978-4-260-05314-3 成人看護学[9]女性生殖器 / 末岡浩ほか.--第15版--医学書院, 2019年, 978-4-260-03567-5 成人看護学[10]運動器 / 田中栄ほか.--第16版--医学書院, 2025年1月, 978-4-260-05679-3 成人看護学[13]眼 / 大鹿哲郎ほか.--第15版--医学書院, 2025年1月, 978-4-260-05680-9 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| | | | | | | |
| 課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法 | レポート、課題は実施しない。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 各分野の専門医より、実務経験を生かした具体的な症例提示などを交えて講義をおこなう。 | | | | | |
| 備考 | 講義時、講義後に適宜質問を受け付ける。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|-----------------------|-----------|------|----|---------------------------|-----------------------------------|
| 微生物学 | | 林 将大 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 1年 後学期 | 1単位(15時間) | 講義 | | NDR204 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 微生物学の基礎知識を学ぶとともに、感染症に関する主要な病原微生物について性質および特徴を学習する。さらに、感染・発症に関わる生体防御機能のメカニズム、化学療法、感染予防対策および関連法規等について理解を深める。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 医療従事者として必要な病原微生物および感染予防対策についての知識を身に付けることができる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 微生物と微生物学、細菌の性質 | | 林 | 講義 | 教科書を読み、概要を理解しておくこと。(105分) | 授業内容に関するプリントを配布するので、復習すること。(120分) |
| 2 | ウイルスの性質、感染と感染症 | | 林 | 講義 | 教科書を読み、概要を理解しておくこと。(105分) | 授業内容に関するプリントを配布するので、復習すること。(120分) |
| 3 | 感染に対する生体防御 | | 林 | 講義 | 教科書を読み、概要を理解しておくこと。(105分) | 授業内容に関するプリントを配布するので、復習すること。(120分) |
| 4 | 感染源・感染経路からみた感染症、滅菌と消毒 | | 林 | 講義 | 教科書を読み、概要を理解しておくこと。(105分) | 授業内容に関するプリントを配布するので、復習すること。(120分) |
| 5 | 感染症の検査と診断、感染症の治療 | | 林 | 講義 | 教科書を読み、概要を理解しておくこと。(105分) | 授業内容に関するプリントを配布するので、復習すること。(120分) |
| 6 | 細菌感染症、ウイルス感染症 | | 林 | 講義 | 教科書を読み、概要を理解しておくこと。(105分) | 授業内容に関するプリントを配布するので、復習すること。(120分) |
| 7 | 真菌感染症、原虫感染症 | | 林 | 講義 | 教科書を読み、概要を理解しておくこと。(105分) | 授業内容に関するプリントを配布するので、復習すること。(120分) |
| 8 | 総括講義 | | 林 | 講義 | 教科書を読み、概要を理解しておくこと。(105分) | 授業内容に関するプリントを配布するので、復習すること。(120分) |
| | 定期試験(筆記) | | | | | |

| 評価基準・評価方法 | |
|---|-------------------|
| 定期試験で評価する（100％） | |
| 使用教科書 | |
| 系統看護学講座専門基礎分野疾病のなりたちと回復の促進〔4〕微生物学 / 南嶋洋一ほか.--第14版--医学書院, 2022年, 978-4-260-04702-9 | |
| 参考図書 | |
| | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | レポート、課題等は実施しない。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | |
| 備考 | 質問は授業中にすることを推奨する。 |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|-------------|---------------|------|----|---------------------|------------------------------|
| 公衆衛生学 | | 川地俊明 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 1年 後学期 | 1単位(30時間) | 講義 | | NDR205 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 川地俊明(診療放射線技師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 公衆衛生学は個人を対象として疾病の治療を目指すより、集団を対象に疾病予防や健康増進に重点をおくものである。そのため疾病の原因を明らかにするための方法論から公衆衛生実践のための地方や国の行政の関わりなどを広く学び、理解を深める。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 基本的な概念と基礎知識を学んだ後、各論に進み、公衆衛生的見方や知識を身につけることができる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 公衆衛生概論 | | 川地 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通す(30分) | 講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する(30分) |
| 2 | 公衆衛生概論 | | 川地 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通す(30分) | 講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する(30分) |
| 3 | 環境、国際保健 | | 川地 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通す(30分) | 講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する(30分) |
| 4 | 疫学 | | 川地 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通す(30分) | 講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する(30分) |
| 5 | 衛生の指標 | | 川地 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通す(30分) | 講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する(30分) |
| 6 | 衛生の指標 | | 川地 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通す(30分) | 講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する(30分) |
| 7 | 健康危機管理、災害保健 | | 川地 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通す(30分) | 講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する(30分) |
| 8 | 食品衛生・感染症 | | 川地 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通す(30分) | 講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する(30分) |
| 9 | 母子保健 | | 川地 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通す(30分) | 講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する(30分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|--|------|----|----|---------------------|------------------------------|
| 10 | 学校保健 | | 川地 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通す(30分) | 講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する(30分) |
| 11 | 成人保健、歯科保健 | | 川地 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通す(30分) | 講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する(30分) |
| 12 | 産業保健 | | 川地 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通す(30分) | 講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する(30分) |
| 13 | 高齢者保健 | | 川地 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通す(30分) | 講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する(30分) |
| 14 | 精神保健 | | 川地 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通す(30分) | 講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する(30分) |
| 15 | 障害者保健、難病 | | 川地 | 講義 | 教科書の該当ページに目を通す(30分) | 講義で習った部分を教科書や資料で確認し復習する(30分) |
| | 定期試験(筆記) | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 筆記試験(100%) | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 系統看護学講座専門基礎分野健康支援と社会保障制度〔2〕 公衆衛生 / 神馬征峰ほか.--第15版--医学書院, 2024年 国民衛生の動向 2025/2026 / 厚生労働統計協会 , | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| その都度指示する。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 定期試験について全体の総評コメントを掲示にて公開 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 長年にわたる病院勤務、疫学・予防医学分野研究の経験から具体的な事例を交えて、公衆衛生に必要な視点が身につけられるよう授業を展開する。 | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|--|-----------|------|----|-----------------------------------|--------------------------------|
| 薬理学 | | 足立哲夫 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 1年 後学期 | 1単位(30時間) | 講義 | | NDR206 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 現在の医療において薬物療法の果たす役割は非常に大きい。医療機関において、患者と向き合う時間が圧倒的に多い看護師には、薬物療法による症状の変化や副作用の発現をいち早く察知し、他の医療スタッフとその情報を交換・共有することで患者ベネフィットの向上に貢献することが求められる。そのために医療の場で用いられている主な医薬品の効果を発揮するメカニズム(作用機序)、副作用発現メカニズム、使用上の注意点を理解することが必要である。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 薬物の使用目的や薬物療法における看護師の役割について説明できる。 薬物の取扱いと法的規制、投与された医薬品が作用する仕組みを説明できる。 各種疾患に使用する医薬品の薬理作用、副作用、使用上の注意について説明できる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 薬理学総論 薬理学を学ぶにあたって | | 足立 | 講義 | プリントを読んで、わからないところを事前に把握しておく。(30分) | 習ったことを復習しまとめる。プリントの問題を解く。(30分) |
| 2 | 薬理学総論 薬が作用する仕組み、投与された薬の体内動態、薬の取り扱いに関する法的規制 | | 足立 | 講義 | プリントを読んで、わからないところを事前に把握しておく。(30分) | 習ったことを復習しまとめる。プリントの問題を解く。(30分) |
| 3 | 薬理学各論 抗感染症薬 | | 足立 | 講義 | プリントを読んで、わからないところを事前に把握しておく。(30分) | 習ったことを復習しまとめる。プリントの問題を解く。(30分) |
| 4 | 薬理学各論 抗がん薬 | | 足立 | 講義 | プリントを読んで、わからないところを事前に把握しておく。(30分) | 習ったことを復習しまとめる。プリントの問題を解く。(30分) |
| 5 | 薬理学各論 免疫治療薬 | | 足立 | 講義 | プリントを読んで、わからないところを事前に把握しておく。(30分) | 習ったことを復習しまとめる。プリントの問題を解く。(30分) |
| 6 | 薬理学各論 抗アレルギー薬・抗炎症薬 | | 足立 | 講義 | プリントを読んで、わからないところを事前に把握しておく。(30分) | 習ったことを復習しまとめる。プリントの問題を解く。(30分) |
| 7 | 薬理学各論 末梢神経に作用する薬物 | | 足立 | 講義 | プリントを読んで、わからないところを事前に把握しておく。(30分) | 習ったことを復習しまとめる。プリントの問題を解く。(30分) |
| 8 | 薬理学各論 中枢神経に作用する薬物 | | 足立 | 講義 | プリントを読んで、わからないところを事前に把握しておく。(30分) | 習ったことを復習しまとめる。プリントの問題を解く。(30分) |
| 9 | 薬理学各論 降圧薬、狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬 | | 足立 | 講義 | プリントを読んで、わからないところを事前に把握しておく。(30分) | 習ったことを復習しまとめる。プリントの問題を解く。(30分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|--|---|------|----|----|-----------------------------------|--------------------------------|
| 10 | 薬理学各論 利尿薬、脂質異常症治療薬、血液凝固系・線溶系に作用する薬物、血液に作用する薬物 | | 足立 | 講義 | プリントを読んで、わからないところを事前に把握しておく。(30分) | 習ったことを復習しまとめる。プリントの問題を解く。(30分) |
| 11 | 薬理学各論 呼吸器・消化器に作用する薬物、生殖器に作用する薬物 | | 足立 | 講義 | プリントを読んで、わからないところを事前に把握しておく。(30分) | 習ったことを復習しまとめる。プリントの問題を解く。(30分) |
| 12 | 薬理学各論 糖尿病薬、内分泌代謝系に作用する薬物 | | 足立 | 講義 | プリントを読んで、わからないところを事前に把握しておく。(30分) | 習ったことを復習しまとめる。プリントの問題を解く。(30分) |
| 13 | 薬理学各論 皮膚科用薬・眼科用薬、救急の際に使用される薬物、漢方薬、消毒薬 | | 足立 | 講義 | プリントを読んで、わからないところを事前に把握しておく。(30分) | 習ったことを復習しまとめる。プリントの問題を解く。(30分) |
| 14 | 薬理学各論 輸液製剤・輸血薬、医薬品情報 | | 足立 | 講義 | プリントを読んで、わからないところを事前に把握しておく。(30分) | 習ったことを復習しまとめる。プリントの問題を解く。(30分) |
| 15 | 消毒薬の希釈調製、輸液の調製と投与、重要な医薬品 | | 足立 | 講義 | プリントを読んで、わからないところを事前に把握しておく。(30分) | 習ったことを復習しまとめる。プリントの問題を解く。(30分) |
| | 期末試験(筆記) | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 小テストの成績(40%)、期末試験の成績(60%)及び授業態度等を総合的に判断して評価する。 | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| なし / | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| 系統看護学講座専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔3〕薬理学 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | プリントの章末問題(看護師国家試験過去問)や小テストの問題についてフィードバックします。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | | | | | | |
| 備考 | 質問等については講義終了後に受けます。必要に応じて、次回の講義時に全員にフィードバックします。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|--------------|---|------|----|---|---|
| 病態心理学 | | 大井一高・杉山俊介・藏満彩結実・高井健太郎・藤兼大輔・武藤恭昌・藤田浩司・村上拓紀 (代表教員 大井一高) | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 2年 前学期 | 1単位(30時間) | 講義 | | NDR407 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 大井一高(医師)、武藤恭昌(医師)、杉山俊介(医師)、藏満彩結実(医師)、高井健太郎(医師)、藤兼大輔(医師)、藤田浩司(医師)、村上拓紀(医師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| プライマリ・ケアを含め、一般外来、入院など、どの場面でも遭遇するような精神疾患について、概念、症状、治療について学ぶ。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 心身に心理的ストレスがどのような影響を及ぼすかについて理解する。それぞれの問題への対処法の概略を理解する。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 総論 | | 武藤 | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
| 2 | 心身症 | | 杉山 | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
| 3 | 神経症・ストレス関連障害 | | 藤田 | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
| 4 | 睡眠障害 | | 藏満 | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
| 5 | 摂食障害 | | 藏満 | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
| 6 | 統合失調症 | | 武藤 | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
| 7 | アルコール・薬物関連障害 | | 武藤 | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
| 8 | 脳の急性障害 | | 杉山 | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
| 9 | 性格のかたより | | 高井 | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|--|---|------|----|----|---|---|
| 10 | 気分障害 | | 大井 | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
| 11 | 情緒と行動の障害 | | 村上 | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
| 12 | 発達障害, 精神遅滞 | | 大井 | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
| 13 | 脳の慢性障害 | | 高井 | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
| 14 | 精神保健福祉法 | | 藤兼 | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
| 15 | 司法精神医学 | | 藤兼 | 講義 | マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分) | 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分) |
| | 定期試験(筆記) | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 授業毎のレポート(60%)と筆記試験(40%)にて、<目標> への理解度を評価する。 | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 精神医学ハンドブック - 医学・保健・福祉の基礎知識 / 山内 格.--第8版--日本評論社, 2022年, 978-4-535-98427-1 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| 対話で学ぶ 精神医学入門 コメディカル・学生のために / 細川 大雅. 医療コミュニケーションセンター, 2017年, ISBN978-4909141002 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 課題に関して、授業の中で教員と学生がディスカッションを行う。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 岐阜大学医学部附属病院での臨床経験から、実際の臨床現場で役立つ知識を提供する。 | | | | | |
| 備考 | 積極的に考えたことを発言するよう求める。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|---|--------------|------|----------|------------------------------------|---|
| リハビリテーション概論 | | 長谷部武久 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | 科目ナンバリング | | |
| 必修 | 2年 前学期 | 1単位(15時間) | 講義 | NDR408 | | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 長谷部武久(理学療法士) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| リハビリテーション医療の対象となる「障害」に関する理解を深める。看護師におけるリハビリテーションチームの一員としての関わり、地域におけるリハビリテーションの役割やリハビリテーションを受ける対象を取り巻く環境についても学習する。この講義を通じて、リハビリテーションの「知識」ではなく、その「考え方」がICTを活用した双方向授業を通じて身に付くことを期待する。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| リハビリテーション医療の対象である「障害」について述べるができる リハビリテーション医療の過程とチーム医療の一員としての看護師の位置付けについて述べるができる | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | リハビリテーションとは、障害論全般 | | 長谷部 | 講義 | シラバスを熟読する(120分) | リハビリテーション医療の理念とその対象についてまとめる(120分) |
| 2 | 国際障害分類と国際生活機能分類(機能障害について) | | 長谷部 | 講義 | 資料「リハビリテーション概論」を熟読する(120分) | 障害の分類、機能障害についてまとめる(120分) |
| 3 | 国際障害分類と国際生活機能分類(能力低下について) | | 長谷部 | 講義 | 資料「リハビリテーション概論」を熟読する(120分) | 障害の分類、能力低下とADLについてまとめる(120分) |
| 4 | 国際障害分類と国際生活機能分類(社会的不利益について) | | 長谷部 | 講義 | 資料「リハビリテーション概論」を熟読する(120分) | 障害の分類、社会的不利益の意味をまとめる(120分) |
| 5 | 機能障害の原因疾患 | | 長谷部 | 講義 | 資料「リハビリテーション概論」を熟読する(120分) | 原因疾患と廃用症候群についてまとめる(120分) |
| 6 | リハビリテーション医療の過程(急性期と回復期) | | 長谷部 | 講義 | 資料「リハビリテーション概論」を熟読する(120分) | 急性期及び回復期リハビリテーションの目的と介入手段についてまとめる(120分) |
| 7 | リハビリテーション医療の過程(生活期・維持期)、リハビリテーション・チームについて | | 長谷部 | 講義 | 資料「リハビリテーション概論」を熟読する(120分) | 生活期・維持期リハビリテーションの目的と介入手段についてまとめる(120分) |
| 8 | リハビリテーションの評価から治療の流れ(症例提示) | | 長谷部 | 講義 | 資料「リハビリテーション概論」資料「症例提示」を熟読する(120分) | リハビリテーション医療で行われる評価についてまとめる(120分) |
| | 定期試験(筆記) | | | | | |

| 評価基準・評価方法 | |
|-------------------------------------|--|
| 小テスト10% 定期試験90% | |
| 使用教科書 | |
| 資料を配布する 資料 「リハビリテーション概論」 資料 症例提示 | |
| 参考図書 | |
| 適宜紹介する | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | フィードバックとして、理解度確認の小テストを実施直後に解答の解説を行う。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | この授業では、総合病院や訪問リハビリテーションにて30年間にわたりリハビリテーション(理学療法)に携わってきた職務経験に基づき、障害に応じたリハビリテーションの在り方とその実践について講義を行う。 |
| 備考 | 講義終了後、もしくはメールにて質問を受け付ける メール：t.hasebe@heisei-iryuu.ac.jp |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|--|--------------|-------|------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| カウンセリング論 | | 古田信宏 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 2年 前学期 | 1単位(15時間) | 講義・演習 | | NDR409 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 古田 信宏(小学校教員) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 心と体の健康を考え、医療におけるカウンセリングについて理解を深める。 心理療法の種類や概要を学び、理解を深める。 カウンセリングの理論と技法を学ぶ。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| <p>看護活動に必要とされるカウンセリングの知識を学び、運用できる技法を身に付けることができる。 授業での演習活動を通して、カウンセリングの知識と技能を日常の活動に生かせるようにすることができる。 自己を適切に把握し、社会スキルの向上を図ることができる。</p> | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | カウンセリングとは:「カウンセリング」の概念、心理療法における位置づけを理解する | | 古田 | 講義 | 「カウンセリング」について自分なりのイメージを整理する。(90分) | 授業内容を実生活で実践する。ポートフォリオを作成する。(150分) |
| 2 | 「看護カウンセリングの特徴と心理療法」 ・看護カウンセリングの特徴を理解する。 ・様々な心理療法について理解する。 | | 古田 | 講義 | 「看護カウンセリング」についてイメージを整理する。(90分) | 授業内容を実生活で実践する。ポートフォリオを作成する。(150分) |
| 3 | 「カウンセリングの基本姿勢」(1) ・傾聴することの意義を理解する。 ・傾聴姿勢を演じ、自己課題を考える。 | | 古田 | 講義演習 | 自己の日常会話について振り返り、課題を把握する。(90分) | 授業内容を実生活で実践する。ポートフォリオを作成する。(150分) |
| 4 | 「カウンセリングの基本姿勢」(2) ・より良いカウンセリングが成立する条件を理解する。 ・傾聴姿勢を高める自己課題を考える。 | | 古田 | 講義演習 | 自己の日常会話について振り返り、課題を把握する。(90分) | 授業内容を実生活で実践する。ポートフォリオを作成する。(150分) |
| 5 | 「カウンセリングの技法」(1) ・カウンセリングの基本的援助技法(受容、支持、繰り返し)について理解し、演じてみる。 | | 古田 | 講義演習 | 自己の日常会話について振り返り、課題を把握する。(90分) | 授業内容を実生活で実践する。ポートフォリオを作成する。(150分) |
| 6 | 「カウンセリングの技法」(2) ・カウンセリングの基本的援助技法(明確化、質問、リフレーミング)について理解し、演じてみる。 | | 古田 | 講義演習 | 自己の日常会話について振り返り、課題を把握する。(90分) | 授業内容を実生活で実践する。ポートフォリオを作成する。(150分) |
| 7 | 「カウンセリングと心理療法」(1) ・交流分析(エゴグラム)演習により自我状態を知り、自己をより高める方法について考える。 | | 古田 | 講義演習 | 自己について、多面的、客観的な理解を試みる。(90分) | 授業内容を実生活で実践する。ポートフォリオを作成する。(150分) |
| 8 | 「カウンセリングと心理療法」(2) ・投影法(風景構成法)演習により自我状態を知り、自己をより高める方法について考える。 | | 古田 | 講義演習 | 自己について、多面的、客観的な理解を試みる。(90分) | 授業内容を実生活で実践する。ポートフォリオを作成する。(150分) |
| | | | | | | |

| 評価基準・評価方法 | |
|--|--|
| 評価基準：看護活動において、患者や家族の精神面でのケアを担える知識、理解、思考、判断、実践力 評価方法：毎回の学修レポート 80% 授業態度 20% | |
| 使用教科書 | |
| 特に利用しない。担当教員が資料を用意する | |
| 参考図書 | |
| 看護カウンセリング（医学書院：広瀬寛子著）9784260332576 はじめての傾聴術（ナツメ社；古宮昇著）9784816353475 解決志向ブリーフセラピー（ほんの森出版；森俊夫、黒沢幸子著）9784938874278 メディカルスタッフのための基礎からわかるカウンセリングと心理療法（南山堂；山蔦圭輔著）9784525504816 ナースのためのアサーション（金子書房；平木典子・沢崎達夫・野末聖香編著）9784760895335 | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 毎時間ごとに学修レポートを課すことで学習内容の定着を目指す。 学修レポートに対し、評価とフィードバックを記載する。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 岐阜県教育委員会学校支援課教育相談担当(3年)及び特別支援教育担当(3年)における職務経験からの相談機能、30年以上にわたる学校教員として悩みを抱える子どもやその保護者への理解と対応等、具体的事例を交えながら、支援する者、看護する者として必要とされる知識や技能、思考力、実践力が身に付けられるよう授業を展開する。 |
| 備考 | 相談がある場合は、事前に連絡して場所と時間を設定。 個人的相談はメールにて対応可能(初回のみとし、2回目後は面談にて対応) |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|---|-----------------------|------|----------|--|-----------------------------------|
| 保健統計学 | | 眞田正世・澤村彰吾 (代表教員 眞田正世) | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | 科目ナンバリング | | |
| 必修 | 3年 後学期 | 1単位(15時間) | 講義 | NHS801 | | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 澤村彰吾(理学療法士) 眞田正世(看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 医療や看護の現場では、EBM/EBN(科学的根拠に基づく医療/看護の実践)が求められる。また、科学的根拠を示すためには、多くの診療・看護症例を対象にデータに基づいて統計学的に処理、分析、結果をまとめる能力が不可欠となる。本講義では、EBNの実践に必要な統計学の理解と活用について学び、理解を深める。また、診療・看護現場での活用を目標に、EXCELを用いたデータの収集・グラフ化・分析と仮説検定手法を講義する。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 看護に関する統計データの取り扱いとEBNの実践に活用するための統計手法を理解する。 知識： 医療・看護現場で発生する種々のデータを収集・分析・処理・活用を実践できる能力を身につける。 技術： 医療・看護現場で発生するデータの分析結果を判断・検定し、データが示す意味を正しく理解し、報告書にまとめる能力を身につける。 態度： 医療・看護の現場で収集したデータは、医療従事者と患者が共に共有し、効果的な医療・看護の提供に貢献できるものでなければならない。患者が理解しやすい内容で説明できる姿勢に尽力する。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 第1章 データの種類とまとめ方 統計学とは何か データの種類とまとめ方 1. データには種類がある 2. データの特徴を表す値 3. 代表値とは 4. パラメータとは Excelの使い方 合計、平均、最大値、最小値、その他 | | 澤村 | 講義 | 統計学とは何かについて自己で調べまとめておく。不明な点は抽出しておく(120分) | 講義内容を再確認する。エクセルを試してみる(120分) |
| 2 | 表と図の利用 1. 度数分布表 2. ヒストグラム 3. 箱ひげ図 4. グラフでデータを見る 代表的な確率分布 1. 確率分布とは 2. 正規分布とは 3. 標準偏差とは | | 澤村 | 講義 | 前回の講義内容を十分に理解しておくこと(120分) | 課題の練習問題を行う(120分) |
| 3 | 第2章 2種類のデータの関係性 相関 1. 扱うデータを2種類にする 2. データ間関係が分かる相関と散布図 3. どれだけ強い関係かわかる相関係数 | | 澤村 | 講義 | 前回の講義内容を十分に理解しておくこと(120分) | 課題の練習問題を行う(120分) |
| 4 | 回帰 1. 片方から片方を予測する回帰分析 | | 澤村 | 講義 | 前回の講義内容を十分に理解しておくこと(120分) | 課題の練習問題を行う(120分) |
| 5 | 第3章 検定の基礎 ・推定と検定 1. 記述統計と推測統計 2. 推定 3. 検定 | | 澤村 | 講義 | 前回の講義内容を十分に理解しておくこと(120分) | 課題の練習問題を行う(120分) |
| 6 | t検定 1. 2つのグループの違いはあるか 2. 対応のあるt検定 3. F検定 4. 対応のないt検定 第4章 検定の応用の紹介 3群間の比較、ノンパラメトリック検定、ウィルコクソン、マンホイットニー | | 澤村 | 講義 | 前回の講義内容を十分に理解しておくこと(120分) | 学んだ内容を再学習し、可能であれば練習問題を置こうなう(120分) |
| 7 | 第5章 人口統計 1. 人口静態統計 2. 人口動態統計 3. 生命表 4. 練習問題 | | 眞田 | 講義 | 前回の講義内容を十分に理解しておくこと(120分) | 学んだ内容を再学習する(120分) |
| 8 | 第6章 保健統計調査 1. 基幹統計 2. 統計調査 3. 医療経済統計 4. 疾病・障害の分類 | | 眞田 | 講義 | 前回の講義内容を十分に理解しておくこと(120分) | 学んだ内容を再学習する(120分) |
| 定期試験 | | | | | | |

| 評価基準・評価方法 | |
|---|---|
| 課題（50％）態度（10％）筆記試験（40％）。 | |
| 使用教科書 | |
| ていねいな保健統計学 / 白戸亮吉、鈴木研太.--羊土社, 2022年2月, 978-4-7581-0976-5 国民衛生の動向 厚生指標 増刊 第70巻第9号 通巻第1096号 2023/2024 / 一般財団法人 厚生労働統計協会- 一般財団法人 厚生労働統計協会, | |
| 参考図書 | |
| EXCELの基本的な活用については事前に学習しておくことが望ましい。練習問題を行い、理解度を確認しながら進める。 | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 全体の理解度を確認し、理解不十分な点は次の講義で説明する。成績が基準点に達しない場合には、追試試験または、レポートの提出を求める。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 看護師の業務や研究に必要な統計学について学び、学習内容によっては実際にパソコンを使用し、統計手法を実践する。 |
| 備考 | 講義時間に比して、授業内容はボリュームがある。したがって、看護学生として学ぶべき内容として、EXCELの活用や統計学の基本的な理解を中心とした学習とする。実践的な授業であるため、データの収集・分析・報告書作成能力やエクセルの事前の活用スキルが求められる。 |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|--|-----------|------|----|-----------------------------------|-----------------|
| 看護と法律 | | 眞田正世 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 3年 後学期 | 1単位(15時間) | 講義 | | NHS802 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 眞田正世(看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 法令に関する一般的事項を学んだ後、看護関係法令の基本及び厚生行政のしくみを学び、保健師助産師看護師法をはじめとする看護師業務に関係の深い関係法令を系統だてて学ぶ。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 看護師として必要な医療関係、福祉関係の法令について学び、理解を深める。 患者さんを取り巻く法令を理解し支援する能力を身につけることができる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 第1章 法 の概念 ・法の概念 ・衛生法 第2章 看護法 ・保健師助産師看護師法 ・看護師等の人材確保の促進に関する法律 ・医療過誤 | | 眞田 | 講義 | 看護と法律との関係を1年次に学んだ講義から再学習する(120分) | 講義内容全般に学習(120分) |
| 2 | 第3章 医事法 ・医療法 ・医療に関する資格 ・医療を支える法 | | 眞田 | 講義 | 医療法とは何かについて学習(120分) | 講義内容全般に学習(120分) |
| 3 | 第4章 保健衛生法 ・共通保健法令 ・分野別保健法令 | | 眞田 | 講義 | 保険に関する法律について各領域の講義から再学習する。(120分) | 講義内容全般に学習(120分) |
| 4 | 第5章 薬務法 ・医薬品・医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律 ・薬害被害者の救済 ・麻薬・毒物などの規制 ・医療を支える法 第6章 社会保険法 ・医療・介護の費用保障 ・年金 | | 眞田 | 講義 | 既習学習の薬に関する法律について学ぶ(120分) | 講義内容全般に学習(120分) |
| 5 | 第7章 福祉法 ・福祉の基礎となる法令 ・高齢分野 ・障害分野 第8章 労働政策に関わる法律 ・労働基準法 ・労働者災害補償保険法 ・雇用保険法 ・育児・介護休業法 | | 眞田 | 講義 | 高齢看護学で学んだ介護福祉法について再学習する(120分) | 講義内容全般に学習(120分) |
| 6 | 第9章 国民衛生の動向から学ぶ法律 1. 地域保健法 2. 災害対策基本法 3. 健康増進法 4. 母子保健法 5. 母体保護法 6. 障害者総合支援法 7. 精神保健福祉法 8. 発達障害者支援法 9. 自殺対策基本法 10. がん対策基本法 11. 臓器移植に関する法律 12. 医療法 | | 眞田 | 講義 | 精神保健、母子保健について既に学んだ講義から再学習する(120分) | 講義内容全般に学習(120分) |
| 7 | 第10章 国民衛生の動向から学ぶ法律 1. 保健師助産師看護師法 2. 看護師等の人材確保の推進に関する法律 3. 医療保険各法 4. 年金保険法 5. 生活保護法 6. 社会福祉法 7. 児童福祉法 8. 児童虐待防止法 9. DV防止法 10. 男女雇用機会均等法 | | 眞田 | 講義 | 保助看法について一般的に学習(120分) | 講義内容全般に学習(120分) |
| 8 | 第11章 国民衛生の動向から学ぶ法律 1. 労働基準法 2. 育児・介護休業法 3. 障害者基本法 4. 老人福祉法 5. 高齢者虐待防止法 6. 医薬品・医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律 7. 麻薬及び向精神薬取締法 8. 食衛生法 9. 労働安全衛生法・雇用保険法 10. 環境基本法 11. 総合的な問題 | | 眞田 | 講義 | 国家試験問題を学習し、不明な点を抽出する(120分) | 講義内容全般に学習(120分) |
| 試験：筆記試験 | | | | | | |

| 評価基準・評価方法 | |
|--|-------------------------------|
| 試験（筆記試験又はレポート）90%，GWの参加状況やレポート10% | |
| 使用教科書 | |
| 国民衛生の動向 2023/2024 / 一般財団法人 厚生労働統計協会--厚生労働統計協会，2023年， | |
| 参考図書 | |
| | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 次の講義時に説明・解説等を行う。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 地域や臨床で関わる法令について実際の事例を挙げて説明する。 |
| 備考 | 質問は講義時間中や終了後に受け付ける。 |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|-----------------|-----------------------|------|----|----------------------|--------------------------|
| 共生社会と福祉 | | 加藤清人・住若智子（代表教員 加藤清人） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 3年 前学期 | 1単位(15時間) | 講義 | | NHS703 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 加藤清人(作業療法士)、住若智子(看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| <p>共生社会と福祉の学習では、少子高齢社会による人口減少が進行してきているなか、福祉へのニーズも多様化してきている。障害のある人が地域において人間的な自立生活が可能な福祉がどのようなものでなければならないかを学ぶ。また、地域包括支援体制を構築すること、支え合う環境整備や地域住民の参画といった誰もが支え合う共生社会の実現についても学ぶ。各講義において、それぞれの要点整理をする時間を設定し、学習理解を深める。</p> | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| <p>共生社会が必要となった経緯について学び、これからの共生社会づくりについて述べることができる。 障害福祉に関する基礎を学び、障害者を取り巻く地域環境について自己の考えも踏まえ説明することができる。 地域包括ケアシステムと法制度の概略について説明することができる。</p> | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 共生社会とは | | 加藤 | 講義 | 配布した資料を事前に目を通す(120分) | 講義内容の概要と自身の見解をまとめる(120分) |
| 2 | 障害者福祉における思想 | | 加藤 | 講義 | 配布した資料を事前に目を通す(120分) | 講義内容の概要と自身の見解をまとめる(120分) |
| 3 | リハビリテーションの現状と課題 | | 加藤 | 講義 | 配布した資料を事前に目を通す(120分) | 講義内容の概要と自身の見解をまとめる(120分) |
| 4 | 共生社会にむけたまちづくり | | 加藤 | 講義 | 配布した資料を事前に目を通す(120分) | 講義内容の概要と自身の見解をまとめる(120分) |
| 5 | 障害者福祉(1) | | 住若 | 講義 | 配布した資料を事前に目を通す(120分) | 講義内容の概要と自身の見解をまとめる(120分) |
| 6 | 障害者福祉(2) | | 住若 | 講義 | 配布した資料を事前に目を通す(120分) | 講義内容の概要と自身の見解をまとめる(120分) |
| 7 | 高齢者福祉・介護保険制度 | | 住若 | 講義 | 配布した資料を事前に目を通す(120分) | 講義内容の概要と自身の見解をまとめる(120分) |
| 8 | 地域包括ケアシステム | | 住若 | 講義 | 配布した資料を事前に目を通す(120分) | 講義内容の概要と自身の見解をまとめる(120分) |
| | レポート課題 | | | | | |

| 評価基準・評価方法 | |
|--------------------------|---|
| 2回の小テスト（100％）で評価する。 | |
| 使用教科書 | |
| | |
| 参考図書 | |
| 講義の際に適宜ビデオと資料を活用する。 | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 各担当最終講義時に全体にむけてフィードバックを行う。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 保健・医療・福祉分野の多岐にわたる臨床経験ならびに地域における生活支援の観点から共生社会を目指すうえで地域包括ケアシステムの概要や社会福祉の動向，さらには医療職の関わりについて触れながら授業を展開していく。 |
| 備考 | 毎回、授業開始時に資料を配布する。 主体的に取り組むこと。質問は随時受け付ける。 |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|---|--------------|------|----|----------------------------------|----------------------------|
| 医療と経済 | | 塩野美里 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 3年 後学期 | 1単位(15時間) | 講義 | | NHS804 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 塩野美里(医療法人勤務) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 経済学・行動経済学・経営学・医療サービス、TQM(総合的質経営)の観点から医療について考えることで、医療を多角的にとらえる視点を養い、医療経営や医療の質向上のための知識・スキルを習得する。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 日本の医療がおかれている現状と今後の展望について理解し、自分の言葉で説明できる。 経済学・行動経済学・経営学の観点から、医療の特性について、自分の言葉で説明できる。 医療経営の質向上のための具体的な提案ができる。 サービス業の観点から、医療の特性について、自分の言葉で説明できる。 医療の質向上のための具体的な提案ができる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | オリエンテーション、講義の進め方と成績評価の説明。日本の医療の現状について考える。 | | 塩野 | 講義 | 日本の医療の現状について考えてくる(120分) | 講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する(120分) |
| 2 | 日本の医療のこれからについて考える。 | | 塩野 | 講義 | 日本の医療のこれからについて考えてくる(120分) | 講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する(120分) |
| 3 | 経済学の観点から医療について考える。 | | 塩野 | 講義 | 経済学の観点から医療について考えてくる(120分) | 講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する(120分) |
| 4 | 行動経済学の観点から医療について考える。 | | 塩野 | 講義 | 行動経済学の観点から医療について考えてくる(120分) | 講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する(120分) |
| 5 | 経営学の観点から医療について考える。 | | 塩野 | 講義 | 経営学の観点から医療について考えてくる(120分) | 講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する(120分) |
| 6 | 医療組織の経営分析の手法を学び、経営の質向上のための取組みについて考える。 | | 塩野 | 講義 | 経営分析の観点から医療について考えてくる(120分) | 講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する(120分) |
| 7 | サービス業として医療をとらえる意義や、患者満足度・職員満足度の重要性や満足度向上の取組みについて考える | | 塩野 | 講義 | サービス業の観点から医療について考えてくる(120分) | 講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する(120分) |
| 8 | TQM(総合的質経営)の重要性や取組みについて考える | | 塩野 | 講義 | 医療サービスの質向上の観点から医療について考えてくる(120分) | 講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する(120分) |
| | 定期試験 課題 | | | | | |

| 評価基準・評価方法 | |
|-----------------------------------|--|
| 課題レポート（100％）を総合的に評価する。定期試験は実施しない。 | |
| 使用教科書 | |
| なし | |
| 参考図書 | |
| 適宜講義にて紹介する。 | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 全体の総評コメントを講義にて行う |
| 実務経験をいかした教育内容 | 医療機関にて医療経営に携わっている教員が、その実務経験を活かして、看護師に求められる医療経営や医療の質向上のための知識・スキルを習得するための教育を行う |
| 備考 | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|---|-------------|------|----|--|--|
| 社会福祉学 | | 高野晃伸 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 1年 後学期 | 2単位(30時間) | 講義 | | NHS205 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 高野晃伸(介護福祉士) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 我が国の人々の生活を支える様々な保健医療福祉制度の成り立ちを理解し、保健医療行政と社会保障制度の役割、意義及び展望について学習する。人間のライフサイクルに沿った保健医療福祉サービスの展開を学び、日々の看護活動に活かせるよう学習する。また、社会保障の基盤である社会権(法)の基本的理解の問題や資本主義市場と社会保障との関係を社会福祉の現場実践と関係づけて学ぶ。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 社会福祉と社会保障の目的や機能、歴史について説明できる。 社会福祉と社会保障の対象・領域と制度・サービスについて説明できる。 社会福祉と社会保障の諸制度(医療保障・介護保障・所得補償・公的扶助等)と日々の生活との関連について説明できる。 社会福祉と看護と多職種連携や支援の必要性・内容について説明できる。 ライフサイクルと社会保障制度と看護の関わりについて説明できる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 社会保障制度と社会福祉 | | 高野 | 講義 | テキスト第1章を熟読すること。(120分) | 授業内容を再確認し、不明な点を残さないようにする。(120分) |
| 2 | 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 | | 高野 | 講義 | テキスト第2章を熟読すること。(120分) | 授業内容を再確認し、不明な点を残さないようにする。(120分) |
| 3 | 医療保障：医療保障制度の沿革・体系，健康保険制度 | | 高野 | 講義 | テキスト第3章の対象箇所を熟読すること。(120分) | 授業内容を再確認し、不明な点を残さないようにする。(120分) |
| 4 | 医療保障：高齢者医療制度，保険診療・公費負担，国民医療費の動向 | | 高野 | 講義 | テキスト第3章の対象箇所を熟読すること。(120分) | 授業内容を再確認し、不明な点を残さないようにする。(120分) |
| 5 | 介護保障：介護保険制度の沿革・歴史，介護保険制度の概要，介護保険の財政，介護保険制度の課題 | | 高野 | 講義 | テキスト第4章を熟読すること。(120分) | 授業内容を再確認し、不明な点を残さないようにする。(120分) |
| 6 | 所得保障：所得補償制度の概要，年金保険制度 | | 高野 | 講義 | テキスト第5章の対象箇所を熟読すること。(120分) | 授業内容を再確認し、不明な点を残さないようにする。(120分) |
| 7 | 所得保障：社会手当(児童手当・扶養手当・障害者手当)、労働保険制度 | | 高野 | 講義 | テキスト第5章の対象箇所を熟読すること。(120分) | 授業内容を再確認し、不明な点を残さないようにする。(120分) |
| 8 | 公的扶助：目的制度の概要，生活保護制度中間試験の実施 | | 高野 | 講義 | テキスト第6章の対象箇所を熟読すること。また中間試験に向けた準備をする。(120分) | 授業内容を再確認し、不明な点を残さないようにする。中間試験の復習をする。(120分) |
| 9 | 公的扶助：低所得者対策，近年の動向 | | 高野 | 講義 | テキスト第6章の対象箇所を熟読すること。(120分) | 授業内容を再確認し、不明な点を残さないようにする。(120分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|---|------|----|----------|----------------------------|---------------------------------|
| 10 | 社会福祉の分野とサービス： 高齢者福祉，障がい者福祉 | | 高野 | 講義 | テキスト第7章の対象箇所を熟読すること。（120分） | 授業内容を再確認し、不明な点を残さないようにする。（120分） |
| 11 | 社会福祉の分野とサービス： 児童家庭福祉，少子化対策・子育て支援・児童虐待対策 | | 高野 | 講義 | テキスト第7章の対象箇所を熟読すること。（120分） | 授業内容を再確認し、不明な点を残さないようにする。（120分） |
| 12 | 社会福祉の実践と医療・看護： 社会福祉援助・個別援助・集団援助 | | 高野 | 講義 | テキスト第8章の対象箇所を熟読すること。（120分） | 授業内容を再確認し、不明な点を残さないようにする。（120分） |
| 13 | 社会福祉の実践と医療・看護： 間接・関連援助，社会福祉援助の課題 | | 高野 | 講義 演習 | テキスト第8章の対象箇所を熟読すること。（120分） | 授業内容を再確認し、不明な点を残さないようにする。（120分） |
| 14 | 社会福祉の実線と医療・看護： 医療・看護の連携，多職種連携 | | 高野 | 講義 演習 | テキスト第8章の対象箇所を熟読すること。（120分） | 授業内容を再確認し、不明な点を残さないようにする。（120分） |
| 15 | 社会福祉の歴史 | | 高野 | 講義 | テキスト第9章を熟読すること。（120分） | 授業内容を再確認し、不明な点を残さないようにする。（120分） |
| | 定期試験 | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 定期試験（60％）、中間試験（20％）、授業の態度や課題レポート（20％） | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 社会保障・社会福祉 / 福田素生.--医学書院，2023年，978-4-260-05087-6 配布プリントを使用する。 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 講義時間中や終了後に適宜質問を受け付けます。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 高齢者福祉施設や介護事業所で計13年程勤務し、介護職、生活相談員、介護支援専門員、施設長などを歴任した経験から、社会福祉全般の仕組みや社会保障に関する現状と課題について、事例を交えた授業を展開していく。 | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|------------------------------------|------------|-------|----------|------------------------------------|--|
| 看護学概論 | | 眞田正世 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | 科目ナンバリング | | |
| 必修 | 1年 前学期 | 1単位(30時間) | 講義・演習 | NPF101 | | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 眞田 正世(看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 看護の概念・看護の定義, 看護の主要概念(人間・健康・環境・看護)と相互の関連を学び、看護・看護教育の歴史の変遷を通して、看護の法律・施策に基づいた役割と機能の変化を学ぶ。また、看護理論・概念モデルと看護過程の関係を理解すると共に、看護における倫理を学ぶ。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 看護の概念・看護の定義について説明できる。 看護の主要概念(人間・健康・環境・看護)と相互の関連を説明できる。 看護・看護教育の歴史の変遷を通して、看護の法律・施策に基づいた役割と機能の変化・今後の課題を説明できる。 看護理論・概念モデルと看護過程の関係について説明できる。 看護における倫理について説明できる。 看護と看護教育における今後の課題を述べるができる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 看護とは 看護の本質：看護の概念、看護の定義、看護の主要概念 | | 眞田 | 講義 | | 「看護の定義について」のレポート作成(60分) |
| 2 | 看護の役割と機能：看護ケア、看護実践と質の保証 | | 眞田 | 講義 | 今まで考えていた「看護」についてのイメージをまとめてくる(30分) | 「看護について分かったこと」のレポート作成(30分) |
| 3 | 看護の対象の理解：人間とは、人間のこころとからだ | | 眞田 | 講義 演習 | | 人間のこころとからだについての関連をレポート(30分) |
| 4 | 看護の対象の理解：人間の発達と暮らし | | 眞田 | 講義 演習 | 自己の考える「人間の成長と生活」とはをまとめてくる(30分) | 「人間とは」のレポート作成・提出(60分) |
| 5 | 健康とは：健康のとらえ方、障がいとは、健康と生活 | | 眞田 | 講義 演習 | 自己の考える「健康とは」レポート作成(30分) | 「健康とは」のレポート作成(30分) |
| 6 | 国民の健康と生活：国民の健康状況、ライフサイクル | | 眞田 | 講義 演習 | 自己の考える「健康を障害する事象」とは(30分) | 「健康とは」のレポート作成・提出(30分) |
| 7 | 看護の提供者：看護の歴史、看護職の資格、制度、継続教育 | | 眞田 | 講義 | 「日本の看護の歴史」の知りえることをレポート作成(30分) | 「看護の歴史と現在の看護について」レポート作成(30分) |
| 8 | 看護の法律(保健師助産師看護師法等)・施策 | | 眞田 | 講義 | 教科書の「保健師助産師看護師法」を読む(30分) | 国試過去問から看護の法律や施策について理解したことをまとめレポート作成(30分) |
| 9 | 看護提供のしくみ：サービスとしての看護、場、制度、看護管理、医療安全 | | 眞田 | 講義 演習 | 「看護提供の仕組み」について教科書P220～222まで読む(30分) | 「看護のサービス提供の場」についてレポート作成(30分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|---|------|----|------|------------------------------------|--------------------------------|
| 10 | 看護理論・看護研究と看護実践（看護過程）のつながり | | 眞田 | 講義 | 教科書の「看護倫理・看護研究と看護実践」を読む（30分） | 講義で学んだことを復習し、レポート作成（30分） |
| 11 | 看護理論（家）と看護実践（看護過程）：バージニアヘンダーソン・オレム他 | | 眞田 | 講義演習 | 該当する「看護理論と看護実践」に関する内容について予習する（30分） | 講義・演習で学んだことを復習し、レポート作成（30分） |
| 12 | 看護理論（家）と看護実践（看護過程）：オーランド・ロイ・ペナー他 | | 眞田 | 講義演習 | 該当する「看護理論と看護実践」に関する内容について予習する（30分） | 講義・演習で学んだことを復習し、レポート作成・提出（30分） |
| 13 | 看護における倫理：倫理の概念，医療・看護における倫理と社会 | | 眞田 | 講義演習 | 医療倫理的問題について新聞記事を読む。（30分） | 講義内容資料を確認し、意見をまとめる（30分） |
| 14 | 看護における倫理的課題 | | 眞田 | 講義演習 | 看護の倫理的問題について新聞記事を読む（30分） | 「現代の看護倫理の問題点」についてレポート・提出（30分） |
| 15 | 看護と看護教育における今後の課題 | | 眞田 | 講義演習 | 「自己の考える看護」のレポート作成（30分） | 「看護学概論の講義で理解できたこと」のレポート提出（30分） |
| | 試験（筆記） | | 眞田 | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 記述試験（70%），レポート・GW・クラスでの意見発表の参加度等（30%） | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 看護学概論 / 茂野香おる他.--第17版--医学書院，2024年，978-4-260-03862-1 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 / 秋葉公子他.--第5版--ヌーヴェルヒロカワ，2023年，978-4-86174-079-4 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| 黒田裕子監修：やさしく学ぶ看護理論，改訂第4版，日総研，ISBN978-4-7760-1817-9 筒井 真優美（編）：看護理論 看護理論20の理解と実践への応用，改訂第3版，南江堂，ISBN978-4-524-24948-0 勝又 正直：はじめての看護理論，第2版，医学書院，ISBN 9784260333870 | | | | | | |
| 課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法 | 事前学習課題は、授業中のグループワーク等で発表し、必要により解説する。事後学習レポートは必要時解説し、評価を行う。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 看護とは何かについて、実際の臨床や地域、保健における看護師の業務を具体的に事例を挙げながら講義する。 | | | | | |
| 備考 | 講義順及び内容・評価基準・担当者がレポート課題の追加等により、変更になる場合がある。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|----------------------------|--------------------------------|----------------|----|-------------------------|------------------------------|
| 基礎看護技術 | | 眞田正世・坂本裕子・島崎清香・福田優子（代表教員 眞田正世） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 1年 前学期 | 2単位(45時間) | 講義・演習 | | NPF102 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 眞田正世・坂本裕子・島崎清香・福田優子（看護師） | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 看護技術の基盤となる考え方を学ぶ。看護技術の共通要素としての感染予防・環境・ボディメカニクス等の知識と技術を基本とし、リネン交換・清拭・寝衣交換・頭髪・口腔の清潔・褥法・移動の知識・技術・態度を学ぶ。演習において対象者への援助を行う中で、羞恥心に配慮した技術と態度を学ぶ。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 看護技術の基盤となる考え方を説明できる。 看護技術の共通要素としての感染予防・環境・ボディメカニクス等の看護技術が実施できる。 リネン交換・全身清拭・寝衣交換・頭髪・口腔の清潔・移動の看護技術が実施できる。 対象者への羞恥心の配慮を考えた上で看護技術が実施できる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 看護技術の基盤となる考え方 コミュニケーション | | 眞田 | 講義 | 教科書を読み疑問点を明確にする(60分) | 講義資料の内容を見直し、まとめる(60分) |
| 2 | 療養環境と環境整備 スタンダードプリコーション | | 福田 | 講義 | 教科書を読み疑問点を明確にする(60分) | 講義資料の内容を見直し、まとめる(60分) |
| 3 | 感染予防の実際 | | 福田 坂本 島崎 | 演習 | 視聴教材を使用し、知識を深める(60分) | 演習で学んだこと、今後の課題について振り返る(60分) |
| 4 | ボディメカニクス・安楽な体位と体位変換 | | 福田 | 講義 | 教科書を読み、疑問点を明確にしておく(60分) | 講義資料の内容を見直し、まとめる(60分) |
| 5 | ボディメカニクス・臥床患者の体位変換 | | 福田 | 講義 | 視聴教材を使用し、知識を深める(60分) | 演習で学んだこと、今後の課題について振り返る(60分) |
| 6 | ボディメカニクス・安楽な体位と体位変換 | | 福田 坂本 島崎 | 演習 | 教科書を読み疑問点を明確にする(60分) | 講義資料の内容を見直し、まとめる(60分) |
| 7 | 臥床患者のリネン交換 | | 福田 坂本 島崎 | 演習 | 視聴教材を使用し、知識を深める(120分) | |
| 8 | 臥床患者のリネン交換 | | 福田 坂本 島崎 | 演習 | | 演習で学んだこと、今後の課題について振り返る(120分) |
| 9 | 清潔の意義・全身の清拭・衣生活の意義 | | 坂本 | 講義 | 教科書を読み疑問点を明確にする(60分) | 講義資料の内容を見直し、まとめる(60分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|----|--------------------|------|----------------|-------|-----------------------|------------------------------|
| 10 | 清潔の意義・全身の清拭・衣生活の意義 | | 坂本 | 講義 | 教科書を読み疑問点を明確にする(60分) | 講義資料の内容を見直し、まとめる(60分) |
| 11 | 臥床患者の全身清拭・寝衣交換の援助 | | 坂本 島崎 福田 | 演習 | 視聴教材を使用し、知識を深める(180分) | |
| 12 | 臥床患者の全身清拭・寝衣交換の援助 | | 坂本 島崎 福田 | 演習 | | |
| 13 | 臥床患者の全身清拭・寝衣交換の援助 | | 坂本 島崎 福田 | 演習 | | 演習で学んだこと、今後の課題について振り返る(180分) |
| 14 | 手足の清潔 | | 坂本 | 講義 | 教科書を読み、疑問点を明確にする(60分) | 講義資料の内容を見直し、まとめる(60分) |
| 15 | 手足の清潔の援助 | | 坂本 島崎 福田 | 演習 | 視聴教材を使用し、知識を深める(60分) | 演習で学んだこと、今後の課題について振り返る(60分) |
| 16 | 頭髪の清潔 | | 坂本 | 講義 | 教科書を読み疑問点を明確にする(60分) | 講義資料の内容を見直し、まとめる(60分) |
| 17 | 頭髪の清潔の援助 | | 坂本 島崎 福田 | 演習 | 視聴教材を使用し、知識を深める(120分) | |
| 18 | 頭髪の清潔の援助 | | 坂本 島崎 福田 | 演習 | | 演習で学んだこと、今後の課題について振り返る(120分) |
| 19 | 口腔の清潔 | | 坂本 | 講義 | 教科書を読み疑問点を明確にする(60分) | 講義資料の内容を見直し、まとめる(60分) |
| 20 | 口腔の清潔の援助 | | 坂本 島崎 福田 | 演習 | 視聴教材を使用し、知識を深める(60分) | 演習で学んだこと、今後の課題について振り返る(60分) |
| 21 | 電法 | | 坂本 | 講義・演習 | 教科書を読み、疑問点を明確にする(60分) | 演習で学んだこと、今後の課題について振り返る(60分) |
| 22 | 運動・活動の意義 | | 福田 | 講義 | 教科書を読み、疑問点を明確にする(60分) | 講義資料の内容を見直し、まとめる(60分) |
| 23 | 運動・活動の援助 | | 福田 坂本 島崎 | 演習 | 視聴教材を使用し、知識を深める(60分) | 演習で学んだこと、今後の課題について振り返る(60分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|--|------|----|----|------|------|
| | 試験（筆記） | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 認知領域（知識）：筆記試験 50% 精神運動・情意領域（技術・態度）：態度10% 技術試験40% | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 系統看護学講座専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 / 茂野香おる他.--第19版--医学書院, 2023年, 978-4-260-04992-4 系統看護学講座専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術 / 任 和子他.--第19版--医学書院, 2025年, 978-4-260-05688-5 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・岡庭豊：看護技術がみえるvol1.2臨床看護技術，メディックメディア ・竹内修二・松永保子編：解剖生理の視点でわかる看護技術の根拠Q &A，照林社 | | | | | | |
| 課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法 | 各講義時にレポートに対する内容説明や、小テストの解答・説明を行っていく | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 臨床経験を活かし、基礎看護技術で修得すべき必要な基礎知識・実践力を身につけられるよう授業を展開していく | | | | | |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・欠課した場合は、必ず担当教員に申し出て指示を仰ぐ。 ・課題・演習に関して、講義・演習時に説明する。 ・演習前の課題等を行っていない又は確認ができない場合は見学とする。 ・演習前に身だしなみが整っていない場合（髪型・爪・服装等）は見学とする。 ・質問には次回の授業で回答し、フィードバックする。 ・技術については技術試験を行う。実施する内容は適宜説明する。 ・講義や演習内容・担当者は変更することがある。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|-----------------------|--------------------------------|----------------|----|------------------------|------------------------------|
| 基礎看護技術 | | 眞田正世・坂本裕子・島崎清香・福田優子（代表教員 眞田正世） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 1年 後学期 | 2単位(30時間) | 講義・演習 | | NPF203 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 眞田正世・坂本裕子・島崎清香・福田優子（看護師） | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 日常生活援助の基本である食事・排泄の看護技術を学ぶ。また、診療の補助技術の基本である滅菌物の取り扱い・検体検査の看護技術を学ぶ。演習において対象者への援助を行う中で、羞恥心に配慮した技術と態度を学ぶ。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 食事・排泄についての看護技術が実施できる。 滅菌物の取り扱い・検体の取り扱いについての看護技術が実施できる。 対象者への羞恥心の配慮を考えた上で看護技術が実施できる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 食事の援助 | | 坂本 | 講義 | 教科書を読み、疑問点を明確にする（120分） | 講義資料の内容を見直し、まとめる（120分） |
| 2 | 食事の援助 | | 坂本 | 講義 | 教科書を読み、疑問点を明確にする（120分） | 講義資料の内容を見直し、まとめる（120分） |
| 3 | 食事の援助の実際 | | 坂本 島崎 福田 | 演習 | 視聴教材を使用し、知識を深める（120分） | 演習で学んだこと、今後の課題について振り返る（120分） |
| 4 | 非経口栄養法（経管栄養法・中心静脈栄養法） | | 坂本 | 講義 | 教科書を読み、疑問点を明確にする（180分） | 講義資料の内容を見直し、まとめる（180分） |
| 5 | 経管栄養の実際 | | 坂本 島崎 福田 | 演習 | 視聴教材を使用し、知識を深める（240分） | |
| 6 | 経管栄養の実際 | | 坂本 島崎 福田 | 演習 | | 演習で学んだこと、今後の課題について振り返る（240分） |
| 7 | 排泄の援助 | | 坂本 | 講義 | 教科書を読み、疑問点を明確にする（240分） | 講義資料の内容を見直し、まとめておく（240分） |
| 8 | 排泄の援助の実際 | | 坂本 島崎 福田 | 演習 | 視聴教材を使用し、知識を深める（240分） | |
| 9 | 排泄の援助の実際 | | 坂本 島崎 福田 | 演習 | | 演習で学んだこと、今後の課題について振り返る（240分） |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|----|--|------|----------------|----|----------------------------|------------------------------|
| 10 | 滅菌物の取り扱い | | 島崎 | 講義 | 教科書を読み、疑問点を明確にする (120分) | 講義資料の内容を見直し、まとめる (120分) |
| 11 | 無菌操作 | | 島崎 坂本 福田 | 演習 | 視聴教材を使用し、知識を深める (240分) | |
| 12 | 無菌操作 | | 島崎 坂本 福田 | 演習 | | 演習で学んだこと、今後の課題について振り返る(240分) |
| 13 | 症状・生体機能管理技術の基礎知識 検体検査(静脈血採血以外)・身体計測 | | 島崎 | 講義 | 教科書を読み、疑問点を明確にする (120分) | 講義資料の内容を見直し、まとめる (120分) |
| 14 | 診察・治療・処置における技術 生体検査 | | 島崎 | 講義 | 教科書を読み、疑問点を明確にする (120分) | 講義資料の内容を見直し、まとめる (120分) |
| 15 | 診察・治療・処置における技術 生体検査 | | 島崎 | 講義 | 教科書を読み、疑問点を明確にする (120分) | 講義資料の内容を見直し、まとめる (120分) |
| | 試験(筆記) | | | | | |

評価基準・評価方法

認知領域(知識):筆記試験 50%
精神運動・情意領域(技術・態度):態度10% 技術試験 40%

使用教科書

系統看護学講座専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 / 茂野香おる他.--第19版--医学書院,2023年,978-4-260-04992-4
系統看護学講座専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術 / 任 和子他.--第19版--医学書院,2025年,978-4-260-05688-5

参考図書

- ・岡庭豊:看護技術がみえるvol.2臨床看護技術,メディックメディア
- ・竹内修二・松永保子編:解剖生理の視点でわかる看護技術の根拠Q&A,照林社

| | |
|--------------------------|--|
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 各講義時にレポートに対する内容説明や、小テストの解答・説明を行っていく |
| 実務経験をいかした教育内容 | 臨床経験を活かし、基礎看護技術で修得すべき必要な基礎知識・実践力を身につけられるよう授業を展開していく |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・欠課した場合は、必ず担当教員に申し出て指示を仰ぐ。 ・課題・演習に関して、講義・演習時に説明する。 ・演習前の課題等を行っていない又は確認ができない場合は見学とする。 ・演習前に身だしなみが整っていない場合(髪型・爪・服装等)は見学とする。 ・質問には次回の授業で回答し、フィードバックする。 ・技術については技術試験を行う。実施する内容は適宜説明する。 ・講義や演習内容・担当者は変更することがある。 |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|------------|--------------------------------|----------------|----------|------------------------|------------------------------|
| 基礎看護技術 | | 眞田正世・坂本裕子・島崎清香・福田優子（代表教員 眞田正世） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | 科目ナンバリング | | |
| 必修 | 2年 前学期 | 2単位(45時間) | 講義・演習 | NPF404 | | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 眞田正世・坂本裕子・島崎清香・福田優子(看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 診療の補助技術である浣腸・導尿・吸引・包帯法・薬物療法・静脈血採血を学ぶ。演習において対象者への援助を行う中で、侵襲に伴う負担や羞恥心に配慮した技術と態度を学ぶ。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 看護者が実践する看護技術の基本が実施できる。 看護技術の実施にあたり、解剖生理を理解し根拠となる知識が説明できる。 対象者への侵襲に伴う負担や羞恥心の配慮を考えた上で看護技術が実施できる。 浣腸・導尿・吸引・薬物療法・静脈血採血についての看護技術が実施できる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 浣腸・摘便 | | 坂本 | 講義 | 教科書を読み、疑問点を明確にする(60分) | 講義資料の内容を見直し、まとめる(60分) |
| 2 | 浣腸の実際 | | 坂本 島崎 福田 | 演習 | 視聴教材を使用し、知識を深める(120分) | |
| 3 | 浣腸の実際 | | 坂本 島崎 福田 | 演習 | | 演習で学んだこと、今後の課題について振り返る(120分) |
| 4 | 導尿 | | 福田 | 講義 | 教科書を読み、疑問点を明確にする(120分) | 講義資料の内容を見直し、まとめる(60分) |
| 5 | 導尿の実際 | | 福田 坂本 島崎 | 演習 | 視聴教材を使用し、知識を深める(180分) | |
| 6 | 導尿の実際 | | 福田 坂本 島崎 | 演習 | | 演習で学んだこと、今後の課題について振り返る(120分) |
| 7 | 吸引・酸素療法 | | 坂本 | 講義 | 教科書を読み、疑問点を明確にする(60分) | 講義資料の内容を見直し、まとめる(60分) |
| 8 | 吸引・酸素療法の実際 | | 坂本 島崎 福田 | 演習 | 視聴教材を使用し、知識を深める(180分) | |
| 9 | 包帯法 | | 島崎 | 講義 演習 | 視聴教材を使用し、知識を深める(60分) | 講義資料の内容を見直し、まとめる(60分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|----|--------------------------|------|----------------------|----|----------------------------|------------------------------|
| 10 | 薬物療法における基礎知識 | | 島崎 | 講義 | 教科書をよく読み疑問を明確にする (60分) | 講義資料の内容を見直し、まとめる (60分) |
| 11 | 注射器の取り扱い、針刺し事故防止 | | 島崎 | 講義 | 教科書を読み、疑問点を明確にする (60分) | 講義資料の内容を見直し、まとめる (60分) |
| 12 | 静脈血採血の実施方法(血液検体の取り扱い) | | 島崎 | 講義 | 教科書を読み、疑問点を明確にする (60分) | 講義資料の内容を見直し、まとめる (60分) |
| 13 | 静脈血採血の実際 | | 島崎 坂本 福田 眞田 | 演習 | 視聴教材を使用し、知識を深める (120分) | |
| 14 | 静脈血採血の実際 | | 島崎 坂本 福田 眞田 | 演習 | | 演習で学んだこと、今後の課題について振り返る(120分) |
| 15 | 注射適応の援助(筋肉内注射・皮下注射・皮内注射) | | 島崎 | 講義 | 教科書を読み、疑問点を明確にする (120分) | |
| 16 | 注射適応の援助(筋肉内注射・皮下注射・皮内注射) | | 島崎 | 講義 | | 講義資料の内容を見直し、まとめる (120分) |
| 17 | 筋肉内注射の実際 | | 島崎 坂本 福田 眞田 | 演習 | 視聴教材を使用し、知識を深める (240分) | |
| 18 | 筋肉内注射の実際 | | 島崎 坂本 福田 眞田 | 演習 | | |
| 19 | 筋肉内注射の実際 | | 島崎 坂本 福田 眞田 | 演習 | | |
| 20 | 筋肉内注射の実際 | | 島崎 坂本 福田 眞田 | 演習 | | 演習で学んだこと、今後の課題について振り返る(240分) |
| 21 | 静脈内注射・点滴静脈内注射 | | 島崎 | 講義 | 教科書を読み、疑問点を明確にする (180分) | |
| 22 | 静脈内注射・点滴静脈内注射 | | 島崎 | 講義 | | |
| 23 | 静脈内注射・点滴静脈内注射 | | 島崎 | 講義 | | 講義資料の内容を見直し、まとめる (180分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|---|------|----|----|------|------|
| | 試験（筆記） | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 認知領域（知識）：筆記試験 50% 精神運動・情意領域（技術・態度）：態度10% 技術試験 40% | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 系統看護学講座専門分野 基礎看護学（3） 基礎看護技術 / 任 和子他.--第18版--医学書院，2023年，978-4-260-04212-3 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・岡庭豊：看護技術がみえるvol.2臨床看護技術，メディックメディア ・竹内修二・松永保子編：解剖生理の視点でわかる看護技術の根拠Q&A，照林社 | | | | | | |
| 課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法 | 各講義時にレポートに対する内容説明や、小テストの解答・説明を行っていく | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 臨床経験を活かし、基礎看護技術で修得すべき必要な基礎知識・実践力を身につけられるよう授業を展開していく | | | | | |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・欠課した場合は、必ず担当教員に申し出て指示を仰ぐ。 ・課題・演習に関して、講義・演習時に説明する。 ・演習前の課題等を行っていない又は確認ができない場合は見学とする。 ・演習前に身だしなみが整ってない場合（髪型・爪・服装等）は見学とする。 ・質問には次回の授業で回答し、フィードバックする。 ・技術については技術試験を行う。実施する内容は適宜説明する。 ・講義や演習内容・担当者は変更することがある。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|--|--------------------------------|-------|----|--|--------------------------|
| 基礎看護技術 | | 眞田正世・坂本裕子・島崎清香・福田優子（代表教員 眞田正世） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 2年 前学期 | 2単位(30時間) | 講義・演習 | | NPF405 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 眞田正世・坂本裕子・島崎清香・福田優子（看護師） | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 事例を通じて看護の対象の健康段階や健康障害に応じた看護の展開方法（情報収集の方法、情報の分析・解釈、関連図の作成、看護計画立案・実施、看護計画の評価・修正）を学ぶ。看護計画の実施の演習に当たっては、安全・安楽・自立を考慮し、メンバーの一員としての役割を理解し、協調性や責任ある行動がとれるようにする。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| クリティカルシンキング・看護過程の意義、事例展開の目的・方法を説明できる。 事例をもとに、科学的根拠に基づいて分析し、看護問題を抽出することができる。 対象に応じた看護計画・日常生活の援助計画を立案できる。 日常生活援助技術を対象に応じて安全・安楽に実施できる。 実施した援助を振り返り評価・修正できる。 メンバーの一員としての役割を理解し、協調性や責任ある行動がとれる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | クリティカルシンキング・看護過程の意義 | | 眞田 | 講義 | 事例患者の疾患について解剖生理・病態生理をまとめ（240分） | |
| 2 | 看護過程の構成要素 ヘンダーソンの看護理論 アセスメント（情報収集） | | 眞田 | 講義 | | 事例の対象疾患や治療等の学習をする（240分） |
| 3 | アセスメント（分析） 常在条件 病理的状態 | | 眞田 | 講義 | | 常在条件・病理的状態を記入する（240分） |
| 4 | アセスメント（分析） 基本的ニード | | 眞田 | 講義 | | 常在条件・病理的状態を記入する（240分） |
| 5 | アセスメント（分析・統合） 情報の関連（関連図） | | 眞田 | 講義 | 常在条件・病理的状態を提出する | 基本的欲求の状態を記入する（240分） |
| 6 | アセスメント（分析・統合） 情報の関連（関連図） | | 眞田 | 講義 | | 基本的欲求の状態を記入する（240分） |
| 7 | 看護問題の明確化 | | 眞田 | 講義 | | 基本的欲求の状態を修正する（240分） |
| 8 | 看護問題の明確化 優先順位の検討 | | 眞田 | 講義 | 分析した結果から看護問題の抽出をする（90分） 基本的欲求の状態を提出する | 分析した結果から看護問題の抽出をする（240分） |
| 9 | 看護計画の立案 看護目標・評価日の設定 | | 眞田 | 講義 | | 看護問題を修正する（240分） |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|---|------|----------------------|----|--------------------------------|------------------------------|
| 10 | 看護計画立案：OP、TP、EP | | 眞田 | 講義 | 看護計画を立案する（90分） 看護問題の抽出を提出する | 看護計画を立案する 援助計画を立案する（240分） |
| 11 | 看護計画立案：OP、TP、EP | | 眞田 | 講義 | 看護計画を提出する 援助計画を提出する | 看護計画を修正する 援助計画を修正する（240分） |
| 12 | 看護計画の実施・記録 | | 眞田 | 講義 | | 看護計画の加筆・修正をする（240分） |
| 13 | 看護計画の評価・修正 | | 眞田 | 講義 | | 看護計画の加筆・修正をする（240分） |
| 14 | 看護活動の具体的方法：援助計画（VS） | | 眞田 坂本 島崎 福田 | 演習 | | 看護計画の評価をする（240分） |
| 15 | 看護活動の具体的方法：援助計画（VS） | | 眞田 坂本 島崎 福田 | 演習 | | 看護計画の評価・修正をする（240分） |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 認知領域・精神運動（知識、技術）：課題レポート 90% 情意領域（態度）：最終レポート10% | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第5班 / 秋葉公子他.--第4版--ヌーヴェルヒロカワ, 2023年, 978-4-86174-079-4 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| ・茂野香おる他：系統看護学講座専門分野 基礎看護学（2）基礎看護技術 , 医学書院 ・任 和子他：系統看護学講座専門分野 基礎看護学（3）基礎看護技術 , 医学書院 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | レポート・演習に関して、講義・演習時に説明を行う。 質問には次回の授業で回答し、フィードバックする。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 看護過程の展開の説明は、呼吸器疾患患者の事例を用いて、実際に即した展開方法を教授する。 また、看護過程の実施では、計画の一部を実際に実習室で技術展開させる。 | | | | | |
| 備考 | ・課題・演習に関して、講義・演習時に説明する。 ・質問には次回の授業で回答し、フィードバックする。 ・講義や演習内容・担当者は変更することがある。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|---------------------------------------|--------------------------------|----------------------|----------|-----------------------------|-----------------------------|
| フィジカルアセスメント | | 眞田正世・坂本裕子・島崎清香・福田優子（代表教員 眞田正世） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | 科目ナンバリング | | |
| 必修 | 1年 後学期 | 1単位(15時間) | 講義・演習 | NPF206 | | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 眞田正世・福田優子・坂本裕子・島崎清香(看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 看護におけるフィジカルアセスメントの概念と目的を理解し、対象者の健康状態を把握するために必要なフィジカルアセスメントに必要な知識と観察技術を習得する。人間の生命徴候(バイタルサイン)について、そのメカニズムを理解し、それらに影響を及ぼす要因を学ぶ。これらの学習を通して、呼吸・循環・体温を科学的な視点から観察し、分析・評価する方法と技術を講義・演習・技術試験を通じて習得する。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 看護におけるフィジカルアセスメントの概念と目的、必要性を理解できる。 フィジカルアセスメントに必要な観察技術・基本的技術を理解できる。 対象の体温測定・脈拍測定・呼吸測定・血圧測定の必要性を理解し、適した方法を選択し実施できる。 体温・脈拍・呼吸・血圧の正常と異常が判断できる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | フィジカルアセスメントとは フィジカルアセスメントに共通する技術 | | 眞田 福田 | 講義 | 解剖生理学の基礎知識(120分) | フィジカルアセスメントとは(120分) |
| 2 | バイタルサインとは バイタルサインの観察(体温・脈拍・呼吸) | | 眞田 福田 | 講義 | 呼吸器の解剖生理学(120分) | 体温・脈拍・呼吸・酸素飽和濃度の観察(120分) |
| 3 | バイタルサイン観察(血圧測定) | | 眞田 福田 | 講義 | 循環器系・脳神経系の解剖生理学(120分) | 血圧・意識状態の観察(120分) |
| 4 | バイタルサインの観察の実際(体温・脈拍・呼吸) | | 眞田 福田 | 講義 | 体温・脈拍・呼吸・血圧・意識状態の観察(120分) | 体温・脈拍・呼吸・血圧・意識状態の観察(120分) |
| 5 | バイタルサイン観察の実際(意識状態、記録方法) | | 眞田 福田 | 演習 | 体温・脈拍・呼吸・血圧・意識状態の観察方法(120分) | 体温・脈拍・呼吸・血圧・意識状態の観察方法(120分) |
| 6 | フィジカルアセスメントに共通する技術に共通する技術(バイタルサインの観察) | | 眞田 福田 坂本 島崎 | 演習 | 体温・脈拍・呼吸・血圧・意識状態の観察方法(120分) | 体温・脈拍・呼吸・血圧・意識状態の観察方法(120分) |
| 7 | フィジカルアセスメントに共通する技術に共通する技術(バイタルサインの観察) | | 眞田 福田 坂本 島崎 | 演習 | 体温・脈拍・呼吸・血圧・意識状態の観察方法(120分) | 体温・脈拍・呼吸・血圧・意識状態の観察方法(120分) |
| 8 | フィジカルアセスメントに共通する技術に共通する技術(バイタルサインの観察) | | 眞田 福田 坂本 島崎 | 演習 | 体温・脈拍・呼吸・血圧・意識状態の観察方法(120分) | |
| | 試験(筆記) | | | | | |

| 評価基準・評価方法 | |
|---|--|
| 認知領域（知識）： 筆記試験60% 精神運動・情意領域（技術・態度）： 態度・技術試験40% | |
| 使用教科書 | |
| フィジカルアセスメントガイドブック目と手でここまでわかる / 山内豊明.--第2版--医学書院, 2022年, 978-4-260-01384-0 系統看護学講座専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 / 茂野香おる他.--第19版--医学書院, 2023年, 978-4-260-04992-4 | |
| 参考図書 | |
| ・日比原重明：フィジカルアセスメントナースに必要な診断の知識と技術 第4版 医学書院 2006年 ・藤崎 都：フィジカルアセスメント完全ガイド 第2版 Gakken 2012年 | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 質問等については、次の講義時に説明し、フィードバックする |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実際の臨床に即した技術演習を中心に教授する。 |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・欠課した場合は、必ず担当教員に申し出て指示を仰ぐ。 ・課題・演習に関して、講義・演習時に説明する。 ・演習前の課題等を行っていない又は確認ができない場合は見学とする。 ・演習前に身だしなみが整っていない場合（髪型・爪・服装等）は見学とする。 ・質問には次回の授業で回答し、フィードバックする。 ・技術については技術試験を行う。実施する内容は適宜説明する。 ・講義や演習内容・担当者は変更することがある。 |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|--|---|----------------------|----------|--|---|
| フィジカルアセスメント | | 眞田正世・河合克尚・坂本裕子・島崎清香・福田優子（代表教員 眞田正世） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 2年 前学期 | 1単位(30時間) | 講義・演習 | | NPF407 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 眞田正世(看護師)・河合克尚(理学療法士)・坂本裕子・島崎清香・福田優子(看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| <p>「フィジカルアセスメント」で学んだフィジカルアセスメントの知識・観察技術を基盤とし、看護の対象者の健康状態をアセスメントする方法を、より実践的に学ぶ。特に症状をもつ成人期の患者へのアセスメント方法について理解し、実践できるようにする。さまざまな健康障害とレベルにある人に適切な看護を行うためのフィジカルアセスメントに必要な技術を習得する。</p> | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| <p>フィジカルアセスメント・フィジカルイグザミネーションそれぞれの意義と必要性を理解できる。 フィジカルイグザミネーションに必要な基本的技術を習得することができる。 フィジカルアセスメントに必要な基本的技術を習得することができる。 フィジカルイグザミネーションで情報から、フィジカルアセスメントができ、対象の健康状態を知ることができる。</p> | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 身体機能別のフィジカルアセスメント 呼吸器系と循環器系のフィジカルアセスメント 呼吸系のフィジカルイグザミネーション | | 眞田 | 講義 | 呼吸器系の解剖生理学(60分) | 呼吸器系のフィジカルアセスメント(30分) |
| 2 | 身体機能別のフィジカルアセスメント 循環器系、消化器系のフィジカルイグザミネーション | | 眞田 | 講義 | 循環器系の解剖生理学(60分) | 循環器系のフィジカルアセスメント(30分) |
| 3 | 呼吸器・循環器・消化器のフィジカルイグザミネーション | | 眞田 | 講義 演習 | 呼吸器系・循環器系・消化器系フィジカルイグザミネーション(60分) | 呼吸器系のフィジカルイグザミネーションの実際(30分) |
| 4 | 呼吸器・循環器・消化器のフィジカルイグザミネーション | | 眞田 坂本 島崎 福田 | 演習 | 呼吸器・循環器・消化器系フィジカルイグザミネーション(30分) | 循環器系・消化器系フィジカルイグザミネーションの実際(30分) |
| 5 | 呼吸系・循環系・消化器系のフィジカルアセスメント(異常) | | 眞田 | 講義 | 循環器系解剖生理学 閉塞性肺疾患・拘束性肺疾患・心不全・弁の異常(60分) | 呼吸器・循環器フィジカルアセスメント(30分) |
| 6 | 感覚系・中枢神経系のフィジカルアセスメント | | 眞田 | 講義 | 脳神経・感覚器系の解剖生理学 呼吸器のフィジカルアセスメント(60分) | 脳神経・感覚器系のフィジカルアセスメント(30分) |
| 7 | 呼吸器系・循環器系・消化器系のフィジカルアセスメント(正常と異常) | | 眞田 坂本 島崎 福田 | 演習 | 呼吸器・循環器・脳神経・感覚器系のフィジカルイグザミネーション(30分) | 呼吸器・循環器・脳神経・感覚器系のフィジカルイグザミネーションの実際(30分) |
| 8 | 呼吸器系・循環器系・消化器系のフィジカルアセスメント(正常と異常) | | 眞田 坂本 島崎 福田 | 演習 | 呼吸器・循環器・脳神経・感覚器系のフィジカルイグザミネーション(30分) | 呼吸器・循環器・脳神経・感覚器系のフィジカルイグザミネーションの実際(30分) |
| 9 | 運動系のフィジカルアセスメント | | 河合 | 講義 | 運動器系の解剖生理学(30分) | 運動器系のフィジカルアセスメント(30分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|--|------|----------------------|----|--------------------------|-----------------------------|
| 10 | 運動系のフィジカルアセスメント | | 河合 | 演習 | 運動器系のフィジカルイグザミネーション(30分) | 運動器系のフィジカルイグザミネーションの実際(30分) |
| 11 | 主な症状のアセスメント | | 眞田 | 講義 | | 症状徴候のアセスメント(30分) |
| 12 | 主な症状のアセスメント | | 眞田 | 講義 | | 症状徴候のアセスメント(30分) |
| 13 | 事例に沿ったアセスメント | | 眞田 | 講義 | 事例に沿ったアセスメント(30分) | 事例に沿ったアセスメント(30分) |
| 14 | 事例に沿ったアセスメント | | 眞田 | 講義 | 事例に沿ったアセスメント(30分) | 事例に沿ったアセスメント(30分) |
| 15 | 総合技術演習 | | 眞田 坂本 島崎 福田 | 演習 | 身体機能別フィジカルイグザミネーション(90分) | |
| | 試験(筆記) | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 認知領域(知識): 筆記試験50% 精神運動・情意領域(技術・態度): 演習レポート10% 技術試験40% | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| フィジカルアセスメントガイドブック目と手でここまでわかる / 山内豊明.--第2版--医学書院, 2019年, 978-4-260-01384-0 系統看護学講座専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 / 茂野香おる他.--第18版--医学書院, 2022年, 978-4-260-04211-6 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| ・日比原重明: フィジカルアセスメントナースに必要な診断の知識と技術 第4版 医学書院 2006年 ・藤崎 都: フィジカルアセスメント完全ガイド 第2版 Gakken 2012年 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 質問等については、次の講義時に説明し、フィードバックする | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 実際に臨床で実施されている場面を説明しながら講義を行う。実際の臨床に即した技術演習を行う。 | | | | | |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・欠課した場合は、必ず担当教員に申し出て指示を仰ぐ。 ・課題・演習に関して、講義・演習時に説明する。 ・演習前の課題等を行っていない又は確認ができない場合は見学とする。 ・演習前に身だしなみが整っていない場合(髪型・爪・服装等)は見学とする。 ・質問には次回の授業で回答し、フィードバックする。 ・技術については技術試験を行う。実施する内容は適宜説明する。 ・講義や演習内容・担当者は変更することがある。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|---|--------------------------------|------|----------|------|------|
| 基礎看護学実習 | | 眞田正世・坂本裕子・島崎清香・福田優子（代表教員 眞田正世） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | 科目ナンバリング | | |
| 必修 | 1年 前学期 | 1単位(30時間) | 実習 | NPF108 | | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 眞田正世・坂本裕子・島崎清香(看護師)・福田優子(助産師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| <p>実際の医療現場・施設の見学を通し、病院・施設の役割・機能・設備などを学ぶ。また、看護の対象者にとっての療養環境の実際を学ぶ。看護師が行う援助場面の見学を通して、看護師の役割を知り、基本的な看護実践につながる能力を養う。看護を学ぶ者としての自覚を持ち、ふさわしい身だしなみや言動を身につけ、グループメンバーの一員としての自覚と責任を持つことができる。</p> | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| <p>人々が療養生活を送る病院・施設の概要を知ることができる。 看護の対象者にとっての療養環境の実際を知ることができる。 看護師が行う援助場面の見学を通して、看護師の役割を知ることができる。 看護を学ぶ者として自覚がもて、ふさわしい身だしなみや言動を身につくことができる。 グループメンバーの一員としての自覚と責任を持つことができる</p> | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| | ・実習目的 | | | | | |
| | <p>実際の医療現場の見学を通し、看護活動の実際や療養中の患者の生活環境を理解するとともに、看護を学ぶものとしての自覚を持つことができる。</p> | | | | | |
| | ・実習目標 | | | | | |
| | <p>1. 人々が療養生活を送る病院・施設の概要を理解できる。 2. 看護の対象者にとっての療養環境を理解できる。</p> | | | | | |
| | <p>3. 看護師が行う援助場面の見学を通して、看護師の役割を理解できる。 4. 看護を学ぶ者として自覚がもち、ふさわしい身だしなみや行動を身につけることができる。</p> | | | | | |
| | ・実習方法 | | | | | |
| | <p>1. 実習単位 : 1単位 30時間 2. 実習時間 : 6時間×5日間 3. 実習場所 : 平野総合病院・介護老人保健施設 岐阜リハビリテーションホーム・特別養護老人ホーム やすらぎの里 川部苑</p> | | | | | |
| | <p>4. その他 1) 事前に学内オリエンテーションを受ける。 2) 療養生活の環境・病室の環境のアセスメントと調整について事前学習を行う。</p> | | | | | |
| | <p>3) 病院・施設のオリエンテーションを行う。 4) 病院の病棟・施設オリエンテーションを通じて療養環境を知り、病院の看護師と行動を共にしながら看護の実際を見学する。</p> | | | | | |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|-------------------------------|------|----|----|------|------|
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 目標達成度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。 | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 実習記録の添削、口頭にて説明する。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 臨床経験を活かし、実習指導を行う | | | | | |
| 備考 | 履修前提条件：看護学概論、基礎看護技術 を履修中であること | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|--|--------------------------------|------|----------|------|------|
| 基礎看護学実習 | | 眞田正世・坂本裕子・島崎清香・福田優子（代表教員 眞田正世） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | 科目ナンバリング | | |
| 必修 | 2年 前学期 | 2単位(60時間) | 実習 | NPF409 | | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 眞田正世・坂本裕子・島崎清香・福田優子(看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 受け持ち患者を1名持ち、その患者のアセスメント、看護問題の抽出、看護計画の立案、実施、評価までの一連の過程を学ぶ。臨地実習における看護学生としての学習態度を学ぶ。臨地実習で学んだ学習内容を学内で確認し、一連の看護過程を振り返る。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| <p>対象の全体像を把握するための情報を収集することができる。 科学的根拠に基づいたアセスメントが実施できる。 対象の看護問題が抽出できる。 対象の個性を考慮した看護計画を立案することができる。 看護計画に基づいた援助を実施することができる。 看護計画の評価・修正ができる。 対象で展開した看護技術を学内で評価し不足部分を補うことができる。 臨地実習で学んだ学習内容を学内で確認し、一連の看護過程を説明できる。 看護学生として必要な責任ある行動ができ周囲との関係を築くことができる。</p> | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| | ・実習目的 | | | | | |
| | 受け持ち患者の看護過程の展開を行うとともに、看護学生としての実習態度を学ぶ。 | | | | | |
| | ・実習目標 | | | | | |
| | 1.受け持ち患者のアセスメントができる 2.科学的根拠に基づいたアセスメントから看護問題の抽出ができる | | | | | |
| | 3.受け持ち患者の個性を考慮した看護計画を立案することができる 4.看護計画に基づいた援助を実施することができる | | | | | |
| | 5.看護計画の評価・修正ができる 6.援助計画を立案し、実施・評価・修正ができる | | | | | |
| | 7.看護学生として責任ある行動ができる | | | | | |
| | ・実習方法 | | | | | |
| | 1.実習単位：2単位 60時間 2.実習時間：7.5時間×8日間 3.実習施設：平野総合病院、岩砂病院・岩砂マタニティ、岐阜清流病院、山内ホスピタル、西濃厚生病院、岐北厚生病院 | | | | | |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|--|------|----|----|------|------|
| | 4.その他 1) 事前に学内でオリエンテーションを受け、事前学習および看護技術練習等を行う。 2) 1グループ4~6人のグループに分かれ各病棟で実習を行う。 | | | | | |
| | 3) 原則として、学生1~2名で患者1名を受け持ち、看護過程の展開を行う。 4) 各病棟において毎日ショートカンファレンスを行い、実習内容の共有や疑問等の解決を図る。 5) 学内の演習については指導教員の指示に従う。 | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 目標達成度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。 | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 実習記録の添削と指導および技術の指導に含める。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 臨床経験を活かし、実習指導を行う | | | | | |
| 備考 | 履修前提条件：1年次の専門基礎科目全て、看護学概論、基礎看護技術・基礎看護学実習を単位修得済みであること。基礎看護技術・フィジカルアセスメントを履修中であること。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|---|--|------|----|---|--------------------------------|
| 地域・在宅看護概論 | | 熊田ますみ・堀祐貴子・山田剛司（代表教員 熊田ますみ） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 1年 後学期 | 1単位(15時間) | 講義 | | NNA201 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 熊田ますみ(看護師)、堀祐貴子(保健師、看護師)、山田剛司(訪問看護認定看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 地域で暮らすあらゆる年代の療養者や多様な健康課題をもつ人々とその家族に対して、看護の対象と状態に応じた援助方法を学ぶ。また、在宅療養を支える保健、医療、福祉の包括的支援や連携の重要性と法制度の理解を深め、対象や家族それを取りまく地域・コミュニティの健康へとつながることを学ぶ。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 地域・在宅看護の目的と基本理念を説明できる。 地域・在宅看護の対象を生活者としてとらえる意義を説明できる。 在宅療養を支える訪問看護の特徴を説明できる。 在宅療法および健康増進のための社会資源および制度を説明できる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 地域と生活と健康： 地域と生活と健康 地域包括ケアシステムと共生社会 地域アセスメント | | 熊田 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 重要用語等に関するレポート作成。(120分) |
| 2 | 地域看護： 地域看護と在宅看護 地域・在宅看護の背景 地域看護の実践 | | 熊田 | 講義 | 予習においてはテキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 重要用語等に関するレポート作成。(120分) |
| 3 | 在宅看護： 在宅看護の基盤 地域療養を支える在宅看護の役割・機能 地域・在宅看護における倫理 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携 | | 熊田 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 重要用語等に関するレポート作成。(120分) |
| 4 | 地域・在宅看護の対象者： 地域・在宅看護の対象者 在宅看護の対象者とサービス提供者の条件 在宅療養の場における家族のとらえ方 在宅療養者の家族への看護 | | 熊田 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 重要用語等に関するレポート作成。(120分) |
| 5 | 在宅療養を支える訪問看護： 訪問看護の特徴 在宅ケアを支える訪問看護ステーション 訪問看護師による健康危機・災害時対応 | | 山田 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 講義内容を復習してレポート課題を作成し提出する。(120分) |
| 6 | 在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント | | 堀 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 重要用語等に関するレポート作成。(120分) |
| 7 | 地域療養を支える法・制度： 法・制度を学ぶにあたって 社会資源の活用 | | 熊田 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 重要用語等に関するレポート作成。(120分) |
| 8 | 地域・在宅看護の動向と今後の発展： 海外における在宅看護の先駆的取り組み 日本における地域・在宅看護の動向 これからの地域・在宅看護の発展に向けて | | 熊田 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 重要用語等に関するレポート作成。(120分) |
| 定期試験 | | | | | | |

| 評価基準・評価方法 | |
|---|--|
| 評価：定期試験（90％）、授業態度・課題レポート（10％） | |
| 使用教科書 | |
| ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論 地域療養を支えるケア 第8版 / 石田千絵・臺 有桂・山下留理子他 .--石田千絵・臺 有桂・山下留理子 --メディカ出版，2025年，978-4-8404-8471-8 | |
| 参考図書 | |
| 都度紹介する。 | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 事前学習及び課題は講義内容に反映させる。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 行政等における保健、福祉、医療での業務経験から、地域・在宅看護全般の役割や機能、課題等事例等を交えて、支援に必要な知識、判断力が身につけられるよう講義を展開する。また、訪問看護の立場から、必要とされる技術や技能、考え方や判断力等事例を交えて講義を行う。 |
| 備考 | 講義時間中や終了後に適宜質問を受け付ける。講義順及び内容・担当者が変更になる場合がある。 |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|--|--|------|----|--|----------------------------------|
| 地域・在宅看護活動論 | | 熊田ますみ・住若智子・堀 信宏・中川幸代・清水美智子・塚原稔世・山田剛司 (代表教員 熊田ますみ) | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 2年 前学期 | 2単位(30時間) | 講義 | | NNA402 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 熊田ますみ(看護師)、住若智子(認定看護師)、堀信宏(理学療法士)、中川幸代(認定看護師)、清水美智子(認定看護師)、塚原稔世(看護師)、山田剛司(認定看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 医療処置に伴う援助技術を必要とする在宅療養者や家族の療養状況、生活を理解し、必要な技術の実際を学習する。在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、CAPD、褥創ケア、在宅中心静脈栄養、吸引などについて、施設内での援助方法をもとに在宅で実践する場合の応用や緊急時の対処および家族への指導方法を中心に学習する。また、療養者の自立支援とQOLの保持に向けた在宅リハビリテーションの特徴と住宅改修のポイントについて学習する。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 対象の特性に応じたアセスメントの内容を説明できる。 療養者の状況に応じた在宅看護の特異的なケアを具体的に説明できる。 在宅における療養者とその家族の生活上の課題を検討し説明できる。 在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援や医療管理の方法を検討し説明できる。 地域・在宅療養者における多職種連携の必要性が理解できる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 訪問看護技術： 家庭訪問・初回訪問 在宅療養における看護過程の展開技術 在宅におけるアセスメント技術 | | 熊田 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。(120分) |
| 2 | 在宅療養生活を支える基本的な技術： コミュニケーション 在宅におけるアセスメント技術 | | 熊田 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。(120分) |
| 3 | 在宅療養生活を支える基本的な技術： 環境整備 感染予防 | | 熊田 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。(120分) |
| 4 | 在宅療養生活を支える基本的な技術： 生活リハビリテーション | | 堀(信) | 講義 | 「住環境・動作」に関わる範囲を確認する。(120分) | 授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。(120分) |
| 5 | 日常生活を支える看護技術： 食生活 排泄 清潔 | | 住若 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。(120分) |
| 6 | 日常生活を支える看護技術： 肢位の保持と移動 呼吸 睡眠 | | 住若 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。(120分) |
| 7 | 症状等に応じた看護技術・療養を支える看護技術： 医療ケアの原理原則 発熱症状 消化器症状 薬物療法 がん外来化学療法 | | 住若 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。(120分) |
| 8 | 療養を支える看護技術(医療ケア)： 足病変のケア インスリン自己注射 在宅CAPD管理 | | 住若 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。(120分) |
| 9 | 療養を支える看護技術(医療ケア) 排痰ケア 気管カニューラ管理 | | 山田 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。(120分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|--|--|------|----|----|--|-------------------------------------|
| 10 | 療養を支える看護技術（医療ケア） 在宅酸素療法（HOT） 在宅人工呼吸療法（HMV）：非侵襲的陽圧換気療法（NPPV） 在宅人工呼吸療法（HMV）：気管切開下間欠的陽圧換気療法（TPPV） | | 山田 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分） | 授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。（120分） |
| 11 | 療養を支える看護技術（医療ケア） 排尿ケア ストーマ管理 褥瘡管理 | | 清水 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分） | 授業で学習した内容を復習し、レポート課題を作成し提出する。（120分） |
| 12 | 療養を支える看護技術（医療ケア） 在宅経管栄養法（HEN） 輸液管理（在宅中心静脈栄養法、末梢静脈栄養法） | | 中川 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分） | 授業で学習した内容を復習し、レポート課題を作成し提出する。（120分） |
| 13 | 在宅療養生活を支える基本的な技術 疼痛管理・ターミナルケア | | 塚原 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分） | 授業で学習した内容を復習する。（120分） |
| 14 | 在宅療養生活を支える基本的な技術 疼痛管理・ターミナルケア | | 塚原 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分） | 授業で学習した内容を復習し、レポート課題を作成し提出する。（120分） |
| 15 | 療養を支える看護技術（多職種連携ケアの実際） | | 熊田 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分） | 授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。（120分） |
| | 定期試験 | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 定期試験（70％）、課題レポート、授業態度・参加度等（30％） | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論 在宅療養を支える技術 第3版 / 石田千絵・臺 有桂・山下留理子他 --石田千絵・臺 有桂・山下留理子 --メディカ出版、2025年1月、978-4-8404-8472-5 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| 都度紹介する。 | | | | | | |
| 課題（試験やレポート）に対するフィードバック方法 | 事前学習及び課題は講義内容に反映する | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 保健や福祉、訪問、在宅看護、理学療法士等の実務経験を活かし、それぞれの教員が訪問看護、在宅看護の実際や継続のための支援等、具体例を交えて講義を展開する。講義を通して、現場で必要となる知識や考え方、判断力、現場で求められる技術や技能が身につけられるよう配慮している。 | | | | | |
| 備考 | 講義順及び内容・評価基準・担当者がレポート課題等の追加により、変更になる場合がある。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|--------------------------|---|-------|----------|---|---|
| 地域・在宅看護活動論 | | 熊田ますみ・松野ゆかり・古田弥生・三輪陽子・住若智子・山田剛司・飯沼温美・宇佐美之規 (代表教員 熊田ますみ) | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 2年 後学期 | 1単位(30時間) | 講義・演習 | | NNA503 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 熊田ますみ(看護師)松野ゆかり(看護師)古田弥生(看護師)三輪陽子(看護師)住若智子(認定看護師)飯沼温美(看護師)山田剛司(看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 地域包括ケアシステムの推進のなかで、病院だけではなく地域の施設・在宅において、終末期にある人の心身の変化とトータルペインを理解し、緩和ケアと終末期のケアにおける看護師の役割について学習する。また、スピリチュアルケアやグリーフケアについて議論し、自身の死生観を養うとともに、他職種連携の理解を深めることができる。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 死を迎えつつある対象及び家族の特徴を知り看護について説明できる。 発達段階に合わせた緩和ケア・終末期看護について説明できる。 在宅・地域における緩和ケア・終末期看護について説明できる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 死生観 | | 飯沼 | 講義 | 死生観とは何かを調べまとめる。(30分) | 死生観について教科書・資料を基に講義内容を復習する。(30分) |
| 2 | 身体的苦痛の緩和 | | 飯沼 | 講義 | 終末期における身体的苦痛について調べまとめる。(30分) | 身体的苦痛の緩和の看護について、教科書・資料を基に講義内容を復習する。(30分) |
| 3 | 緩和ケアの考え方 | | 飯沼 | 講義 | 緩和ケアとは何かを調べまとめる。(30分) | 緩和ケアについて、教科書・資料を基に講義内容を復習する。(30分) |
| 4 | 緩和ケアにおける薬物療法 | | 飯沼 | 講義 | 緩和ケアにおける薬物療法について調べまとめる。(30分) | 緩和ケアにおける薬物療法について、教科書・資料を基に講義内容を復習する。(30分) |
| 5 | 死について考える (僧侶より説法を受ける) | | 宇佐美 | 講義 | | 説法を受け死について考えたことをレポート用紙1枚にまとめ提出する。(60分) |
| 6 | 終末期とは | | 住若 | 講義 | 終末期・緩和ケアとは何か調べまとめる。(30分) | 授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。(30分) |
| 7 | 死を迎えるとは | | 住若 | 講義 | 終末期を過ごす場所、環境、家族について自己の考えをまとめる。(30分) | 授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。(30分) |
| 8 | 小児期にある人の終末期看護 | | 松野 | 講義 | こどもの終末期に関する新聞記事、手記、またはブログを読んで、内容と感想をレポート用紙1枚にまとめる。(30分) | 講義中に示した関連する過去問題について時、答え合わせをして分からなかったところを調べる。(30分) |
| 9 | 成人期にある人の終末期看護 | | 古田 | 講義 演習 | 社会的苦痛とは何か教科書P.202~214を読み考える。(30分) | 授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。(30分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|--|---|------|----------------|----|--|----------------------------------|
| 10 | 老年期にある人の終末期看護 | | 三輪 | 講義 | 高齢者の終末期について調べまとめる。(30分) | 授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。(30分) |
| 11 | 地域の施設・在宅で死を迎える人の支援 | | 山田 | 講義 | 教科書P.254～273の地域・在宅緩和ケアについて精読する。(30分) | 授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。(30分) |
| 12 | 地域の施設・在宅で死を迎える人の支援 | | 山田 | 講義 | 教科書P.254～273の地域・在宅緩和ケアについて精読する。(30分) | 授業で学習した内容を、まとめレポートを作成し提出する。(30分) |
| 13 | 死にゆく人、家族へのケアを考える (社会的ケア・スピリチュアルケア・家族ケア) | | 松野 古田 三輪 | 演習 | 演習事前学習課題を実施する。(30分) | 演習課題を実施する。(30分) |
| 14 | 死にゆく人、家族へのケアを考える・ディスカッション (社会的ケア・スピリチュアルケア・家族ケア) | | 松野 古田 三輪 | 演習 | 演習事前学習課題を実施する。(30分) | 意見交換して学んだことをレポートにまとめ提出する。(30分) |
| 15 | 終末期看護の在り方 | | 熊田 | 講義 | 今までの講義資料を読み返し、緩和ケア・終末期看護について復習する。(30分) | 自己の終末期看護の考えをまとめ提出する。(30分) |
| | 定期試験(筆記) | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 認知領域(知識): 定期試験(70%)、課題レポート、授業態度・参加度等(30%) | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| ナーシンググラフィカ 成人看護学 緩和ケア / 宮下 光令 他.--第3版第1刷--メディカ出版, 2022年, 978-4-8404-7540-2 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| 必要に応じて紹介する。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | オムニバス形式のため各担当教員の授業時に課題の振り返りを行う。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 緩和ケア病棟の師長を務める緩和ケア認定看護師の実務経験より得られた看護について講義を行う。また、死と向き合うことの多い僧侶から看護以外の視点で死について学習できる機会を設ける。さらに、小児、成人、高齢者、地域・在宅の視点を持った教員がライフステージに合わせたそれぞれの専門性を活かして終末期の看護を学ぶことができるよう授業を展開する。 | | | | | |
| 備考 | 質問等には、その都度対応します。講義順及び内容・評価基準・担当者がレポート課題の追加等により、変更になる場合がある。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|--|-------------------------------------|---------------|----|--|-----------------------------|
| 地域・在宅看護活動論 | | 熊田ますみ・堀祐貴子・住若智子（代表教員 熊田ますみ） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 2年 後学期 | 1単位(15時間) | 講義・演習 | | NNA504 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 熊田ますみ(看護師)堀祐貴子(保健師、看護師)、住若智子(認定看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| <p>疾病や障害を持ちながら在宅で療養、生活する人とその家族を対象とし、各人のニーズに基づく生活行動の支援方法や社会資源の活用方法を理解し、関係職種との役割や連携を学ぶ。</p> | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| <p>在宅ケアを支える法制度や社会資源を説明できる。 在宅ケアにおけるケアマネジメントや関係機関、関係職種との連携を理解できる。 療養者の状況に応じた在宅看護の特異的なケアを具体的に説明できる。 在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援や医療管理の方法を検討し説明できる 地域・在宅看護における多職種連携の必要性が理解できる。 在宅療養者とその家族にとって、健康危機・災害対策が必要であることが理解できる。</p> | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 地域療養を支える法・制度：在宅看護療養者の権利を擁護する制度と社会資源・医療保険制度 | | 熊田 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 講義内容をまとめる。(120分) |
| 2 | 多職種医療教育(IPE) | | 熊田 堀 住若 | 演習 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 演習の学びとレポート課題を作成し提出する。(120分) |
| 3 | 多職種医療教育(IPE) | | 熊田 堀 住若 | 演習 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 演習の学びとレポート課題を作成し提出する。(120分) |
| 4 | 地域療養を支える法・制度：介護保険制度・高齢者施策・難病法 | | 住若 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 講義内容をまとめる。(120分) |
| 5 | 地域療養を支える法・制度：障害者に関連する法律・子どもの在宅療養を支える制度と社会資源・生活保護制度 | | 住若 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 講義内容をまとめる。(120分) |
| 6 | 疾患・病期に応じた看護：疾患等に応じた看護(医療的ケア児・認知症・精神疾患等) | | 堀 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 講義内容をまとめる。(120分) |
| 7 | 疾患・病期に応じた看護：病期に応じた在宅療養者への看護(慢性期・急性増悪時等疾患) | | 熊田 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 講義内容をまとめる。(120分) |
| 8 | 在宅療養を支える健康危機・災害管理：在宅療養における健康危機・災害対策、地域包括システムにおける危機管理・災害対策、災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理 | | 熊田 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 講義内容をまとめる。(120分) |
| | 定期試験 | | | | | |

| 評価基準・評価方法 | |
|---|---|
| 定期試験（80％）、課題および授業態度・参加度（20％） | |
| 使用教科書 | |
| <p>ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論 地域療養を支えるケア 第7版 / 臺有桂・石田千絵・山下留理子 他. -臺有桂・石田千絵・山下留理子 --メディカ出版，2024年，978-4-8404-7543-3 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論 在宅療養を支える技術 第3版 / 石田千絵・臺有桂・山下留理子 他. -石田千絵・臺有桂・山下留理子 --メディカ出版，2025年，978-4-8404-8472-5</p> | |
| 参考図書 | |
| 都度紹介する。 | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 各講師の質問等については、次の講義がクラスルームを通して説明し、フィードバックする。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 行政等における保健や福祉等の業務経験から、具体的な事例を交えて役割や機能、課題等講義を行う。また、医療から在宅への過程、在宅療養継続のための支援等、具体例を通して支援に必要な知識や判断力が身につけられるよう講義を展開する。 |
| 備考 | 講義順及び内容・評価基準・担当者がレポート課題等の追加により、変更となる場合がある。 |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|---------------------------------|---|---------------|----------|--|----------------------------------|
| 地域・在宅看護活動論 | | 熊田ますみ・堀祐貴子・住若智子・鈴木留理子・福井郁子（代表教員 熊田ますみ） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 3年 前学期 | 1単位(15時間) | 講義・演習 | | NNA705 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 熊田ますみ(看護師)、堀祐貴子(保健師、看護師)、住若智子(認定看護師)、鈴木留理子(看護師)、福井郁子(看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 疾患や障害、健康課題を持ちながら在宅で療養や生活する人とその家族を対象とし、看護対象のニーズに基づく生活行動の支援、社会資源の活用方法など在宅看護の展開方法を学習する。また、在宅看護における看護対象との信頼関係形成や多職種との連携の重要性を理解する。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 在宅でのコミュニケーションや面接技術、訪問時のマナーについて説明できる。 地域・在宅看護論実習における学生の動き方や、実習で学ぶ内容を説明できる。 地域・在宅看護論実習における情報収集の視点や、在宅看護という特性を考えた看護過程の展開について説明できる。 地域・在宅看護実習における患者とその家族のQOLや自立支援に向けた社会資源の根拠について説明できる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 在宅ケアの看護過程の展開とケアマネジメント | | 熊田 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 講義の内容をまとめる。(120分) |
| 2 | 在宅療養を支える訪問看護 訪問看護の特徴と訪問看護ステーション | | 福井 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 講義の学びとレポート課題を作成し提出する。(120分) |
| 3 | 看護過程展開 アセスメント | | 熊田 堀若 | 演習 | 事例の病態生理、検査、治療、看護を学習する。(120分) | 情報を整理する。(120分) |
| 4 | 看護過程展開 アセスメント | | 熊田 堀若 | 演習 | 情報のアセスメント(120分) | 情報のアセスメントの追加。(120分) |
| 5 | 看護過程展開 看護課題の明確化 | | 熊田 住若 堀 | 演習 | 看護課題を思考する。(120分) | 看護課題を再度思考する。(120分) |
| 6 | 看護過程展開 看護課題の明確化と優先順位の検討 | | 熊田 堀若 | 演習 | 看護課題を修正する。(120分) | 看護課題の優先順位を思考し、すべての課題を提出する。(120分) |
| 7 | 療養の場の移行に伴う看護(退院支援・退院調整) | | 鈴木 | 講義 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 講義の学びとレポート課題を作成し提出する。(120分) |
| 8 | 訪問時のマナーと倫理 | | 熊田 堀若 | 講義 演習 | テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。(120分) | 講義・演習の学びとレポート課題を作成し提出する。(120分) |
| 9 | | | | | | |

| 評価基準・評価方法 | |
|---|--|
| 課題レポート（90％）、グループワークの参加度・発表（10％） | |
| 使用教科書 | |
| <p>ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論 地域療養を支えるケア 第7版 / 臺有桂・石田千絵・山下留理子 編 .--第7版--株式会社メディカ出版，2022年，978-4-8404-7543-3 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論 在宅療養を支える技術 第2版 / 臺有桂・石田千絵・山下留理子 他 .--有桂・石田千絵・山下留理子--メディカ出版，2023年，978-4-8404-7544-0</p> | |
| 参考図書 | |
| 都度紹介する。 | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 事前学習及び課題は講義内容に反映させる。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 行政等における介護保険や福祉等の業務経験から、具体的な事例を交えて役割や機能、課題等講義を行う。各教員が医療、訪問看護の立場から、医療から在宅への過程、在宅療養継続のための支援や具体策、訪問看護の実際等具体例を通して支援に必要な知識や判断力が身につけられるよう講義を展開する。 |
| 備考 | 講義順及び内容・評価基準・担当者がレポート課題の追加等により、変更になる場合がある。 |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|---|-------------------------------------|---------------|----|-----------------------------------|--|
| 地域・環境実習 | | 熊田ますみ・堀祐貴子・住若智子（代表教員 熊田ますみ） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 1年 後学期 | 2単位(60時間) | 実習 | | NNA206 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 熊田ますみ(看護師)堀祐貴子(保健師、看護師)、住若智子(認定看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 地域で生活する様々なライフサイクルと健康障害レベルにある人々を対象に、触れ合いや交流を通して地域で生活する人々の健康課題に対する看護の必要性や支援方法を学ぶ。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 地域で生活する様々な人々に応じた保健・医療・福祉の現状について学ぶ。 地域で生活する様々な人々の特徴とその人らしい生活について学ぶ。 地域で生活する様々な人々に対する基本的な知識や看護支援、健康の保持・増進の方法について理解する。 支援場面の関わりを通しての学ができる。 看護学生として責任ある行動ができる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| | ・実習施設 | | 熊田 堀 住若 | 実習 | | |
| | 心や体に何らかの障害や健康課題をもつこどもや学童、成人、高齢者等が利用する、入所や通所型施設、福祉工場や就労継続支援事業所等。 | | 熊田 堀 住若 | 実習 | | |
| | ・実習方法 | | 熊田 堀 住若 | 実習 | | |
| | ・実習前オリエンテーションを行う。 ・2～4名程度のグループで、1か所1週間実習し、計2週間の実習を行う。 | | 熊田 堀 住若 | 実習 | 保健、医療、福祉のサービス等、社会資源の現状を学習する。 | |
| | ・臨地実習では、施設のオリエンテーションや見学、レクリエーションや作業の共有体験等を通して学習する。 ・利用者とのコミュニケーションをとる。 | | 熊田 堀 住若 | 実習 | | ・実習施設の特徴、法制度など学習したことをまとめる。 ・関わりやコミュニケーションを振り返る。 |
| | ・対象の健康や障害レベルについては、法制度や根拠、施設の役割、利用者の特徴を学習し、対象の健康状態や障害レベル、健康課題について理解する。 | | 熊田 堀 住若 | 実習 | | ・対象や利用者の健康状態やその人のもてる力、その人らしい生活やQOLを振り返る。 |
| | ・目的や対象の1日の生活の日課については、利用者の生活を、看護の視点で理解する。 | | 熊田 堀 住若 | 実習 | | ・必要な看護支援や技術を理解する。 |
| | ・対象と関わる看護職やスタッフの専門性については、役割や仕事内容、利用者との関わりについて理解する。 | | 熊田 堀 住若 | 実習 | | ・多職種の役割と多職種間の連携を理解する。 |
| | ・学内実習日には学んだことをグループワークする。グループでまとめた内容を発表し、ディスカッションを通して情報を共有する。 | | 熊田 堀 住若 | 実習 | ・自己の学びをまとめ、振り返りを行うことで、次の課題を明確にする。 | ・グループ内の意見交換や発表を聞くことで、自己の学びを深める。 |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|--|------|----|----|------|------|
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 目標到達度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。 | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論 地域療養を支えるケア 第8版 2025年 / 石田 千絵 臺 有桂 山下 留理子他.--石田 千絵 臺 有桂 山下 留理子--メディカ出版, 978-4-8404-8471-8 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| 適宜紹介する。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 分からないことがあれば、担当教員もしくは臨地実習指導者に質問する。その都度対応する。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 各教員が高齢者看護、行政や福祉等の業務経験をいかし、地域や在宅療養で必要となる知識や技能、対象や家族および多職種との関わり等が身につけられるよう指導、支援する。 | | | | | |
| 備考 | 履修前提条件：1年生前学期の[専門基礎]全科目。看護学概論、基礎看護技術、基礎看護学実習が単位修得済みであること。 また、基礎看護技術、フィジカルアセスメント、地域・在宅看護概論、高齢者看護学概論が履修登録済みであること。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|---|--------------------------------------|---------------|----|--|--|
| 地域・環境実習 | | 熊田ますみ・堀祐貴子・住若智子（代表教員 熊田ますみ） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 2年 後学期 | 2単位(60時間) | 実習 | | NNA507 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 熊田ますみ(看護師)、堀祐貴子(保健師、看護師)、住若智子(認定看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 介護老人保健施設や介護老人福祉施設など施設を生活の場とする高齢者の関わりを通して、利用者の生活を支える医療、福祉職の役割や専門性、多職種間の連携を学ぶ。また、利用者との関わりを通して看護の視点で生活を支える看護師の関わりを理解する。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 施設で療養する高齢者の生活環境を理解する。 対象の加齢による変化とADL能力を理解する。 対象のQOL向上に必要な日常生活の援助方法を理解する。 介護保険施設における看護のあり方と多職種連携および支援体制を理解する。 高齢者を一人の個人と捉え、尊重した態度で接することができる。 看護学生として責任ある行動ができる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| | 1. 実習施設 | | 熊田 堀 住若 | 実習 | | |
| | 介護老人保健施設 岐阜リハビリテーションホーム、介護老人保健施設 寺田ガーデン、山内ホスピタル介護老人保健施設、各務原リハビリテーション介護医療院 | | 熊田 堀 住若 | 実習 | | |
| | 特別養護老人ホーム やすらぎの里川部苑、特別養護老人ホーム 黒野あそか苑、特別養護老人ホーム ナーシングケア寺田等 2週間、同一施設で実習する。 | | 熊田 堀 住若 | 実習 | | |
| | . 実習方法 | | 熊田 堀 住若 | 実習 | | |
| | . 1グループ4～6名で編成し、成人・高齢者看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習と共にローテーションで行う。 | | 熊田 堀 住若 | 実習 | | |
| | . 実習前オリエンテーションを行う。 . 一人の高齢者を受け持ち、コミュニケーション等により高齢者の理解を深める。 | | 熊田 堀 住若 | 実習 | | |
| | . 実習は、教員・臨床指導者の指導を受けながら、対象の全体像を把握し、対象に応じた日常生活の援助方法を見学し実施する。 | | 熊田 堀 住若 | 実習 | . 介護保険施設の特徴、介護保険施設における看護師の役割、介護保険施設における多職種連携および支援体制について学習する。 | . オリエンテーションを受け、介護保険施設の特徴、介護保険施設における看護師の役割、介護保険施設における多職種連携および支援体制についてまとめる。 . 自分で観察した施設の構造の特徴や安全面への配慮等記載する。 . 多職種カンファレンスへの出席、多職種との連携場面を追加記載する。 |
| | . 対象とコミュニケーションを図り、対象の思いや入所前の生活背景を理解する。また、グループでレクリエーションを計画し実施する。 | | 熊田 堀 住若 | 実習 | | |
| | . 実習最終日に、実習施設で教員・臨床指導者と共に実習のまとめや反省会を行う。 | | 熊田 堀 住若 | 実習 | . 自己の学びをまとめ、振り返りを行うことで、次への課題を明確にする。 | . グループ内の意見交換より、自己の学び、課題を再度考察する。 |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|--|--|------|-------|----|------|------|
| | ・事後学内実習で、グループワークを行い、学習した内容を発表する。他のグループとディスカッションをし、各施設の特徴や実際、看護師の役割、多職種との連携等情報共有をし学びを深める。 | | 熊田堀住若 | 実習 | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 目標到達度、出席状況、実習態度など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。 | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 生活機能からみた 老年看護過程 + 病態・生活機能関連図 / 山田律子他.--山田律子・内ヶ島慎也--医学書院, 第4版, 978-4-260-04274-1 ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論 地域療養を支えるケア / 臺有桂・石田千絵・山下留理子他.--臺有桂・石田千絵・山下留理子--メディカ出版, 第7版, 978-4-8404-7543-3 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| 都度、紹介する。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 実習記録は添削し指導する。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 各教員が高齢者看護、行政や福祉等の業務経験をいかし、地域や在宅療養で必要となる知識や技能、対象や家族および多職種との関わり等が身につけられるよう指導、支援する。 | | | | | |
| 備考 | 専門科目の健康を支えるための看護の原理と基礎のすべて、地域・在宅看護概論、地域・在宅看護活動論 の単位を修得済みであること。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|---|--------------------------------------|---------------|----------|--|----------------------|
| 地域・在宅看護論実習 | | 熊田ますみ・堀祐貴子・住若智子（代表教員 熊田ますみ） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | 科目ナンバリング | | |
| 必修 | 3年 前学期 | 2単位(60時間) | 実習 | NNA708 | | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 熊田ますみ(看護師)、堀祐貴子(保健師・看護師)、住若智子(認定看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 地域で生活する療養者や多様な健康課題をもつ人々とその家族に対して、その人らしい在宅での生活の継続に向けたケアの実際を学ぶ。また、ケアや看護実践を通して在宅療養や生活を支える多職種の専門性や役割、連携の重要性を理解し、地域包括システムの理解を深め、包括的な視野を得る。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 在宅で療養生活を送る療養者とその家族の特徴を学ぶ。 生活の場であることを理解し、対象者が望む生活を考慮した看護について支援計画を学ぶ。 療養者や家族に必要な社会資源の内容を学ぶ。 在宅療養に関わる多職種の役割と連携・調整方法を学ぶ。 看護学生として責任ある行動ができる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| | ・実習施設 | | 熊田 堀 住若 | 実習 | | |
| | ・訪問看護ステーション、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、退院調整関連施設 | | 熊田 堀 住若 | 実習 | | |
| | ・実習方法 | | 熊田 堀 住若 | 実習 | | |
| | ・学生80名を1グループ2~3名のグループに編成し、精神看護学実習、成人実習、成人・高齢者実習と共にローテーションで行う。 | | 熊田 堀 住若 | 実習 | | |
| | ・実習前オリエンテーションを行う。 ・訪問看護ステーション実習5日間、地域包括支援センター等の実習3日間行う。 | | 熊田 堀 住若 | 実習 | | 臨地で学んだことをまとめ、理解を深める。 |
| | ・訪問看護ステーション実習では、役割と担当地域の療養者の病状・家族等の社会資源その他に関するオリエンテーションを受け、同伴訪問を行い看護の実際を学ぶ。 | | 熊田 堀 住若 | 実習 | 訪問看護ステーションの役割や概要、利用者等医療、介護、福祉の視点から学習する。 | 臨地で学んだことをまとめ、理解を深める。 |
| | ・地域包括支援センター実習では、利用者宅の周辺の地域情報、地域包括ケアシステムの概要・多職種連携に関するオリエンテーションを受け、職員と同行訪問する。 | | 熊田 堀 住若 | 実習 | 地域包括支援センターの法的制度、概要、関わる職種や専門性、役割を学習介護支援センターの概要、役割を学習する。 | 臨地で学んだことをまとめ、理解を深める。 |
| | ・在宅介護支援センター実習では、地域包括ケア計画に基づいた在宅ケアの実態等についてオリエンテーションを受け、職員と同行訪問する。 | | 熊田 堀 住若 | 実習 | 介護支援センターの概要、役割を学習する。 | 臨地で学んだことをまとめ、理解を深める。 |
| | ・地域連携室実習では、役割や組織についてオリエンテーションを受け、病棟看護師、ケアマネージャー、ホームヘルパー、医師、理学療法士、作業療法士などとの多職種との連携場面を学習する。 | | 熊田 堀 住若 | 実習 | 地域連携室の概要、役割等を学習する。 | 臨地で学んだことをまとめ、理解を深める。 |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|--|------|-------|------|----------------------------------|------------------------------------|
| | ・学内実習は、実習内容の検討やまとめを行い、まとめた内容を各自プレゼンテーションする。また、ディスカッションを通して情報を共有し、学びを深める。 | | 熊田堀住若 | 学内実習 | 自己の学びをまとめ、振り返りを行うことで、次の課題を明確にする。 | 地域で療養する人々やその家族の在宅生活の継続に必要な看護を学習する。 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 目標到達度、出席状況、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。 | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論 地域療養を支えるケア / 臺 有桂・石田千絵・山下留理子他.--臺 有桂・石田千絵・山下留理子 編--株式会社メディカ出版, 第7版, 978-8404-7543 ナーシング・グラフィカ地域・在宅看護論 在宅療養を支える技術 / 臺 有桂・石田千絵・山下留理子他.--臺 有桂・石田千絵・山下留理子 編--株式会社メディカ出版, 第7版, 978-8404-7544 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| 強みと弱みからみた 地域・在宅看護過程 + 総合的機能関連図 河野あゆみ編集 第2版 医学書院 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 実習前に実習に必要な知識について課題を提示します。また、実習中その都度、記録へのコメントを残し、それをもとに口頭でも質問し学習を活かした実習が行えるよう指導します。また、学生の考えを聞きながら学生主体の実習が行えるよう指導する。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 各教員が臨床経験・行政や福祉等の業務経験を活かし、地域や在宅療養で必要となる知識や技能、対象や家族および多職種との関わり等が身につけられるよう指導、支援する。 | | | | | |
| 備考 | 専門科目の健康生活を支えるための看護の原理と基礎の科目すべて、地域・在宅看護概論、地域・在宅看護活動論 . . . の単位を修得済であること。地域・在宅看護活動論 を履修中であること。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|---|------------|-------|------|--|--|
| 成人看護学概論 | | 古田 弥生 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 1年 後学期 | 1単位(15時間) | 講義・演習 | | NNA209 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 古田 弥生(看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 成人看護学概論では、成人とは何かを捉え身体的・心理的・社会的な特徴を学習し、成人期を取り巻く環境や役割などを含め全人的・総合的な存在としての理解を深める。成人の健康について多様な要因により発生する健康問題の特徴を生活習慣・職業・ストレスと関連づけて学習する。成人に対する看護ケアの基盤となる主要な概念や理論を用い健康状態にあわせた看護を学習する。また、グループワークを活用し主体的な学びを深めていく。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 成人各期における身体的・心理的・社会的特徴を踏まえた生活者としての特徴を説明できる。 成人期にある人の健康問題について説明できる。 成人期にある人を看護する上で基盤となる概念や理論について説明できる。 健康状態(急性期・回復期・慢性期・終末期)に応じた看護の概要について説明できる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 成人とは 定義 特徴 | | 古田 | 講義 | 教科書P.2~30を精読する(120分) | 成人期の特徴について教科書・資料を基に講義内容を復習し提出する(120分) |
| 2 | 成人を取り巻く状況 家族/仕事/生活 | | 古田 | 講義演習 | 教科書P.34~55を精読し、自己・家族の生活状況を調査しまとめる(120分) | 成人を取り巻く生活環境や影響について教科書・資料を基に講義内容を復習し提出する(120分) |
| 3 | 成人期にある人の健康 健康とは/健康の動向・課題 | | 古田 | 講義演習 | 教科書P.78~108を精読し、健康の考え方や動向について調べまとめる(120分) | ヘルスプロモーションについて教科書・資料を基に講義内容を復習し提出する(120分) |
| 4 | 生活習慣病 職業疾患 生活ストレス | | 古田 | 講義 | 教科書P.113~140を精読し、生活習慣病について調べまとめる。自己のストレスをあげる(120分) | 生活習慣病予防方法について教科書・資料を基に講義内容を復習し提出する(120分) |
| 5 | 成人期にある人を看護するための基本的な考え方 関係(エンパワメント)・適応(ストレスコーピング・危機理論) | | 古田 | 講義演習 | 教科書P.156~196を精読し、ケアリングについて調べまとめる(120分) | エンパワメントの支援設計について教科書・資料を基に講義内容を復習し提出する(120分) |
| 6 | 成人期にある人を看護するための基本的な考え方 発達(セルフケア/学習) | | 古田 | 講義 | 教科書P.197~213を精読し、ベタゴジー・アンドラゴジー理論について調べまとめる(120分) | 関係の構築・適応を促す・発達を支援するについて教科書・資料を基に講義内容を復習し提出する(120分) |
| 7 | 急性・回復状態にある人の看護 | | 古田 | 講義 | 教科書P.257~274を精読し、急性状態・回復状態の意味を調べまとめる(120分) | 急性・回復期看護の概要について教科書・資料を基に講義内容を復習し提出する(120分) |
| 8 | 慢性・終末状態にある人の看護 | | 古田 | 講義 | 教科書P.276~297を精読し、慢性状態・終末状態の意味を調べまとめる(120分) | 慢性・終末期看護の概要について教科書・資料を基に講義内容を復習し提出する(120分) |
| | 定期試験(筆記) | | | | | |

| 評価基準・評価方法 | |
|---|---|
| 定期試験（86％） 課題レポート（14％） | |
| 使用教科書 | |
| 成人看護学 成人看護学概論 / 林直子、鈴木久美、酒井郁子、梅田恵.--改訂第4版--南江堂, 2022, 978-4-524-23073-0 | |
| 参考図書 | |
| 必要に応じて紹介する。 | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 事前学習を基に講義内で質問する。また、講義時学習問題を行うことや、授業中の質問に対してもその都度フィードバックする。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 内科や外科以外に各種診療科が存在し、救急診療を実施している病院における勤務経験（7年）から成人期患者の理解、多種多様な疾患や社会変化の中における成人期の特徴や看護を具体的な事例を交えて授業の中で思考し、主体的に学習できるような授業を展開していく。 |
| 備考 | 学生の質問にその都度応じながら指導する。 |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|--|---|---------------------|----|---|--|
| 成人看護活動論 | | 古田弥生・森岡菜穂子・林 宗典・安藤百合香 (代表教員 古田弥生) | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 2年 前学期 | 1単位(15時間) | 講義・演習 | | NNA410 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 古田 弥生(看護師)森岡 菜穂子(看護師)林 宗典(看護師) 安藤 百合香(看護師・保健師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 周手術期および生命危機状態にある患者とその家族への看護の知識と技術を学習する。急性期の特徴や、手術侵襲によって引き起こされる身体メカニズムの中から必要な看護について学び理解を深める。講義では、主体的な学びができるよう資料に復習ポイント・内容を記載し取り組みやすい学習とする。また、グループワークを活用し主体的な学びを深めていく。演習では事前に患者対応の技術動画を配信し動作が視覚的に学習しやすいように進める。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 手術を受ける患者・家族の反応とそれに対する看護について説明できる。 手術の侵襲によって引き起こされる生命反応を説明できる。 術後合併症の発生リスクを理解し、予防的な看護を説明できる。 術後の患者のQOL向上のために必要な知識を説明できる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 急性期看護の考え方 急性期とは/急性期看護の概念/患者が体験する侵襲/ショック/心理的反応/急性の状態にある患者と家族に対する看護 | | 森岡 | 講義 | 教科書P.2～31を精読し、急性期の定義について学習する(120分) | 急性期看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する(120分) |
| 2 | 周手術期看護 周手術期とは/周手術期看護とは/術前の不安・術後の痛み/手術における倫理/侵襲とは | | 古田 | 講義 | 教科書P.40～50を精読する。また、事前学習課題を実施し授業に臨む。(120分) | 周手術期看護について教科書・資料を基に講義内容を復習し、事後学習課題に取り組む。(120分) |
| 3 | 術後看護 術後の意識レベル/呼吸/循環/疼痛/感染/消化器/せん妄/早期離床 | | 古田 | 講義 | 教科書P.102～151を精読する。また、事前学習課題に取り組む。(120分) | 術後看護について教科書・資料を基に講義内容を復習し、事後学習課題に取り組む。(120分) |
| 4 | 術後看護 術後の意識レベル/呼吸/循環/疼痛/感染/消化器/せん妄/早期離床 | | 古田 | 講義 | 教科書P.102～151を精読する。また、事前学習課題に取り組む。(120分) | 術後看護について教科書・資料を基に講義内容を復習し、事後学習課題に取り組む。(120分) |
| 5 | 術前看護 術前看護の目的/検査時の看護/身体的・心理的アセスメント/術前オリエンテーション/当日の看護/手術室への搬送 | | 古田 | 講義 | 教科書P.54～72を精読する。また、事前学習課題に取り組む。(120分) | 術前看護について教科書・資料を基に講義内容を復習し、事後学習課題に取り組む。(120分) |
| 6 | 術中看護 術中看護の目的/看護師の役割/術前訪問/手術室の環境/感染防止/安全管理/麻酔時の看護/病棟への申し送り | | 古田 | 講義 | 教科書P.74～98を精読する。また、事前学習課題に取り組む。(120分) | 術中看護について教科書・資料を基に講義内容を復習し、事後学習課題に取り組む。(120分) |
| 7 | 術直後の観察 術後1時間が経過した患者の観察 | | 古田 森岡 林 安藤 | 演習 | 演習課題を実施する(120分) | 演習の振り返りレポートを作成する。配信動画を視聴する。(120分) |
| 8 | 術直後の観察 術後1時間が経過した患者の観察 | | 古田 森岡 林 安藤 | 演習 | 演習課題を実施する。(120分) | 演習の振り返りレポートを作成する。配信動画を視聴する。(120分) |
| | 定期試験(筆記) | | | | | |

| 評価基準・評価方法 | |
|--|---|
| 定期試験80% 演習レポート20% | |
| 使用教科書 | |
| 成人看護学 急性期看護<1> 概論・周手術期看護 / 林直子他 佐藤まゆみ編集.--改訂第4版--南江堂, 2023年, 978-4-524-23231-4 | |
| 参考図書 | |
| 必要に応じて紹介する。 | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 講義内容の演習を行い経験をしながら学習します。また、講義内容の学習問題を行うことや、質問に対してもその都度フィードバックする。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 救急病院や外科病棟における職務経験から急性状態にある患者とその家族の特徴や、手術における身体・精神的負担などを根拠を理解し、どのような看護が必要か考え実践する力が身に付けられるように授業を展開していく。 |
| 備考 | 学生の質問にその都度応じながら指導する。 |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|---|--|-------|----|--|---|
| 成人看護活動論 | | 古田弥生・森岡菜穂子・林 宗典・安藤百合香・古林 晃 (代表教員 古田弥生) | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 2年 前学期 | 2単位(60時間) | 講義・演習 | | NNA411 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 古田 弥生(看護師)森岡 菜穂子(看護師)林 宗典(看護師) 安藤 百合香(看護師・保健師)古林 晃(看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 慢性的経過をたどり、生涯に渡って生活のコントロールを必要とする対象者とその家族への看護を学習する。成人期における健康障害の特徴を踏まえ、対象者やその家族への看護援助について学習する。また、ライフサイクルにおける主な急性・慢性疾患の病態・治療・検査における看護援助について学習する。講義では、主体的な学びができるよう資料に復習ポイント・内容を記載し取り組みやすい学習とする。また、グループワークを活用し主体的な学びを深めていく。演習では患者対応の技術動画を配信し動作が視覚的に学習しやすいように進める。演習では、食事療法を自己にて考え実践する。また、学内運動広場を使用し運動療法の実際を経験する。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 慢性疾患の特徴を捉え病気と共に生きることを支える看護について説明できる。 日常生活を送りながらセルフマネジメント獲得に向けて看護の教育的役割を説明できる。 急性・慢性的経過をたどる対象及び家族の特徴を知り看護について説明できる。 治療に伴う身体的影響(合併症等)の発生リスクを理解し、予防的な看護が説明できる。 急性・慢性期患者のQOL向上のために必要な知識を説明できる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 慢性期看護とは 慢性疾患の特徴/治療の特徴/看護の役割/チーム医療 | | 古田 | 講義 | 教科書「慢性期」P.2～43を精読する。また、事前学習課題を実施し授業に臨む。(30分) | 慢性疾患の特徴・看護師の役割について教科書・資料を基に講義内容を復習し、事後学習課題に取り組む。(30分) |
| 2 | 慢性期患者の特徴 身体的特徴/心理的特徴/社会的特徴 | | 古田 | 講義 | 教科書「慢性期」P.44～85を精読する。また、事前学習課題を実施し授業に臨む。(30分) | 慢性期患者の特徴について教科書・資料を基に講義内容を復習し、事後学習課題に取り組む。(30分) |
| 3 | 慢性疾患患者の看護的支援 セルフケア/セルフマネジメント/自己効力感/症状マネジメント/学習支援 | | 古田 | 講義 | 教科書「慢性期」P.88～116を精読する。また、事前学習課題を実施し授業に臨む。(30分) | 理論やセルフマネジメントについて教科書・資料を基に講義内容を復習し、事後学習課題に取り組む。(30分) |
| 4 | 高血圧のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 林 | 講義 | 教科書「循環器」P.171～181、P.339～342を精読し、高血圧の病態生理を学習する(30分) | 高血圧の看護について、教科書・資料を基に講義内容を繰り返し復習する(30分) |
| 5 | 虚血性心疾患のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 林 | 講義 | 教科書「循環器」P.128～157、P.318～328を精読し、循環器の解剖生理・虚血性心疾患の病態生理を学習する(30分) | 虚血性心疾患の看護について教科書・資料を基に講義内容を繰り返し復習する(30分) |
| 6 | 虚血性心疾患のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 林 | 講義 | 教科書「循環器」P.128～157、P.318～328を精読し、虚血性心疾患患者の看護を学習する(30分) | 虚血性心疾患の看護について教科書・資料を基に講義内容を繰り返し復習する(30分) |
| 7 | 心不全のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 林 | 講義 | 教科書「循環器」P.158～171、328～339を精読し、心不全の病態生理を学習する(30分) | 心不全の看護について教科書・資料を基に講義内容を繰り返し復習する(30分) |
| 8 | 心不全のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 林 | 講義 | 教科書「循環器」P.158～171、328～339を精読し、心不全の病態生理を学習する(30分) | 心不全の看護について教科書・資料を基に講義内容を繰り返し復習する(30分) |
| 9 | 循環器疾患の外科的治療を受ける人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 古林 | 講義 | 教科書「循環器」P.92～115を精読し、循環器疾患における治療について学習する(30分) | 循環器における外科的手術の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する(30分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|----|--|------|----|----|--|--|
| 10 | 心臓カテーテル治療を受ける人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 古林 | 講義 | 教科書「循環器」 P.68～78を精読し、 心臓カテーテル法について学習する (30分) | 心臓カテーテル治療の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する (30分) |
| 11 | 脳梗塞のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 森岡 | 講義 | 教科書「脳・神経」 P.20～45、137～150、 355～361を精読し、脳の解剖生理・脳梗塞について学習する (30分) | 脳梗塞の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する (30分) |
| 12 | 脳出血のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 森岡 | 講義 | 教科書「脳・神経」 P.121～134、 348～355を精読し、脳出血・クモ膜下出血について学習する (30分) | 脳出血の看護について教科書・資料を基に復習する (30分) |
| 13 | 脳腫瘍のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 林 | 講義 | 教科書「脳神経」 P.155～163、361～368を精読し、脳腫瘍の疾患理解と開頭術を受ける患者の看護を学習する (30分) | 開頭術(脳腫瘍)の看護について教科書・資料を基に講義内容を繰り返し復習する (30分) |
| 14 | 肺炎のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 古田 | 講義 | 教科書「呼吸器」 P.18～34、136～146、 284～291を精読する。 また、事前学習課題に取り組む。 (30分) | 肺炎の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習し、事後学習課題に取り組む。 (30分) |
| 15 | 慢性閉塞性肺疾患のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 古田 | 講義 | 教科書「呼吸器」 P.172～177、 216～221、305～317を精読する。また、事前学習課題に取り組む。 | 慢性閉塞性肺疾患の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習し、事後学習課題に取り組む。 (30分) |
| 16 | 肺がんのある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 古田 | 講義 | 教科書「呼吸器」 P.188～201、221～225、 231～234、325～334を精読する。また、事前学習課題に取り組む。 (30分) | 肺がんの看護について教科書・資料を基に講義内容を復習し、事後学習課題に取り組む。 (30分) |
| 17 | 肺がんに対する化学療法・放射線療法の看護 | | 古田 | 講義 | 教科書「慢性期」 P.197～220、を精読する。また、事前学習課題に取り組む。 (30分) | 化学療法・放射線療法について教科書・資料を基に講義内容を復習し、事後学習課題に取り組む。 (30分) |
| 18 | 慢性肝炎/肝硬変のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 森岡 | 講義 | 教科書「消化器」 P.31～35、205～234、 402～416を精読し、肝臓の解剖生理・慢性肝炎・肝硬変について学習する (30分) | 慢性肝炎/肝硬変の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する (30分) |
| 19 | 肝がんのある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 森岡 | 講義 | 教科書「消化器」 P.234～238、 416～422を精読し、肝臓の解剖生理・肝がんについて学習する | 肝がんの看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する (30分) |
| 20 | 胆石症のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 古田 | 講義 | 教科書「急性期」 P.298～314を精読する。また、事前学習課題に取り組む。 (30分) | 胆嚢摘出術の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習し、事後学習課題に取り組む。 (30分) |
| 21 | 胃/十二指腸潰瘍のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 古田 | 講義 | 教科書「消化器」 P.18～23、146～155、 358～362を精読する。 また、事前学習課題に取り組む。 (30分) | 消化管潰瘍の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習し、事後学習課題に取り組む。 (30分) |
| 22 | 胃がんのある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 古田 | 講義 | 教科書「消化器」 P.19～24、156～163、 362～372を精読する。 また、事前学習課題に取り組む。 (30分) | 胃がん・胃切除術の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習し、事後学習課題に取り組む。 (30分) |
| 23 | 潰瘍性大腸炎/クローン病のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 森岡 | 講義 | 教科書「消化器」 P.24～31、171～175、 372～378を精読し、消化管の解剖生理・潰瘍性大腸炎/クローン病について学習する (30分) | 潰瘍性大腸炎/クローン病の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する (30分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|--|--|------|---------------------|----|---|--|
| 24 | 大腸がんのある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 林 | 講義 | 教科書「消化器」 P.195～200、 394～401を精読し、 大腸の解剖生理につ いて復習する(30分) | 直腸切除術の看護に ついて教科書・資料 を基に講義内容を繰 り返し復習する (30分) |
| 25 | 乳がんのある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 森岡 | 講義 | 教科書「女性生殖器」 P.21～22、147～166、 298～314を精読し、乳房の 解剖生理・乳がんについて 学習する(30分) | 乳がん・乳房切除術 の看護について教科 書・資料を基に講義 内容を復習する (30分) |
| 26 | 子宮がんのある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 森岡 | 講義 | 教科書「女性生殖器」 P.22～25、116～127、 277～298を精読し、子宮の 解剖生理・子宮がんにつ いて学習する(30分) | 子宮がん・子宮摘出 術の看護について教 科書・資料を基に講 義内容を復習する (30分) |
| 27 | 食事療法・運動療法の実際 計画 | | 古田 森岡 林 安藤 | 演習 | その都度提示した演 習実施課題を実施す る(30分) | 演習課題を実施する (30分) |
| 28 | 食事療法・運動療法の実際 実施 運動療法は、学内の運動広場を使用 | | 古田 森岡 林 安藤 | 演習 | その都度提示した演 習実施課題を実施す る(30分) | 演習課題を実施する (30分) |
| 29 | 食事療法・運動療法の実際 実施 運動療法は、学内の運動広場を使用 | | 古田 森岡 林 安藤 | 演習 | その都度提示した演 習実施課題を実施す る(30分) | 演習課題を実施する (30分) |
| 30 | 食事療法・運動療法の実際 発表・まとめ | | 古田 森岡 林 安藤 | 演習 | その都度提示した演 習実施課題を実施す る(30分) | 演習課題をまとめる (30分) |
| | 定期試験(筆記) | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 定期試90% 演習レポート10% | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 成人看護学 慢性期看護 / 鈴木久美、旗持知恵子、佐藤直美、編集.--改定第4版--南江堂、2023年、978-4-524-23436-3 成人看護学 急性期看護 <1> 概論・周手術期看護 / 林直子、佐藤まゆみ編集.--改定第4版--南江堂、2023年、978-4-524-23231-4 系統看護学講座専門分野 成人看護学(2)呼吸器 / 川村雅文他.--第16版--医学書院、2024年、978-4-260-05309-9 系統看護学講座専門分野 成人看護学(3)循環器 / 吉田俊子他.--第16版--医学書院、2024年、978-4-260-05311-2 系統看護学講座専門分野 成人看護学(5)消化器 / 南川 雅子他.--第16版--医学書院、2024年、978-4-260-05300-6 系統看護学講座専門分野 成人看護学(7)脳・神経 / 井手 隆文他.--第16版--医学書院、2024年、978-4-260-05313-6 系統看護学講座専門分野 成人看護学(9)女性生殖器 / 末岡 浩他.--第15版--医学書院、2023年、978-4-260-03567-5 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| 必要に応じて紹介する。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | オムニバス形式のため各担当教員の最後の授業時、課題の振り返りを行う。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 内科や外科以外に各種診療科が存在し、救急診療を実施している病院での職務経験からそれぞれの臨床経験に合わせて授業を構成し、実際の臨床での看護の事例を用いながら授業を展開していく。 | | | | | |

備考

学生の質問にその都度応じながら指導する。

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|--|--|-------|----|--|---|
| 成人看護活動論 | | 古田弥生・森岡菜穂子・林 宗典・安藤百合香・粥川誠至 (代表教員 古田弥生) | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 2年 後学期 | 2単位(30時間) | 講義・演習 | | NNA512 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 古田 弥生(看護師)森岡 菜穂子(看護師)林 宗典(看護師)安藤百合香(看護師・保健師)粥川 誠至(看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 成人期における健康障害の特徴を踏まえ、対象者やその家族への看護援助について学習する。ライフサイクルにおける主な急性・慢性疾患の病態・治療・検査における看護援助について学習する。講義では、主体的な学びができるよう資料に復習ポイント・内容を記載し取り組みやすい学習とする。また、グループワークを活用し主体的な学びを深めていく。演習では患者対応の技術動画を配信し動作が視覚的に学習しやすいように進める。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 日常生活を送りながらセルフマネジメント獲得に向けて看護の教育的役割を説明できる。 急性・慢性的経過をたどる対象及び家族の特徴を知り看護について説明できる。 治療に伴う身体的影響(合併症等)の発生リスクを理解し、予防的な看護が説明できる。 急性・慢性期患者のQOL向上のために必要な知識を説明できる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | HIV感染/AIDSのある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 古田 | 講義 | 教科書「アレルギー・膠原病・感染症」P.333～337・375～380を精読する。また、事前学習課題に取り組み(120分) | HIV/AIDSの看護について教科書・資料を基に講義内容を復習し、事後学習課題に取り組み(120分) |
| 2 | 甲状腺機能亢進症/低下症のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 古田 | 講義 | 教科書「内分泌・代謝」P.24～27・99～109・209～216を精読する。また、事前学習課題に取り組み(120分) | 甲状腺機能亢進/低下症の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習し、事後学習課題に取り組み(120分) |
| 3 | 白血病のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 森岡 | 講義 | 教科書「血液・造血器」P.16～30・58～67・98～114を精読し、血液・免疫系の解剖生理・白血病について学習する(120分) | 白血病の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する(120分) |
| 4 | 白血病のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 森岡 | 講義 | 教科書「血液・造血器」P.182～196を精読し、血液・免疫系の解剖生理・白血病について学習する(120分) | 白血病の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する(120分) |
| 5 | 糖尿病のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 林 | 講義 | 教科書「内分泌・代謝」P.132～163・238～271を精読し、代謝障害・糖尿病について復習する(120分) | 糖尿病の看護について教科書・資料を基に講義内容を繰り返し復習する(120分) |
| 6 | 糖尿病のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 林 | 講義 | 教科書「内分泌・代謝」P.238～271を精読し、代謝疾患糖尿病患者の看護について学習する(120分) | 糖尿病の看護について教科書・資料を基に講義内容を繰り返し復習する(120分) |
| 7 | 関節リウマチのある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 安藤 | 講義 | 教科書「アレルギー・膠原病・感染症」P.130～134・150～156を精読し、関節リウマチについて復習する(120分) | 関節リウマチの看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する(120分) |
| 8 | 全身性エリテマトーデスのある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 森岡 | 講義 | 教科書「アレルギー・膠原病・感染症」P.156～161・206～214を精読し、免疫異常・全身性エリテマトーデスについて学習する(120分) | 全身性エリテマトーデスの看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する(120分) |
| 9 | 慢性腎不全(慢性腎臓病)のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 林 | 講義 | 教科書「腎・泌尿器」P.18～30・38～51・113～129・247～252を精読し、腎臓の構造と機能・疾患について学習する | 慢性腎不全(慢性腎臓病)の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する(120分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|--|------|---------------------|----|--|---|
| 10 | 慢性腎不全（慢性腎臓病）のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護 | | 林 | 講義 | 教科書「腎・泌尿器」P.247～252を精読し、腎疾患・看護について学習する（120分） | 慢性腎不全（慢性腎臓病）の看護について教科書・資料を基に講義内容を繰り返し復習する（120分） |
| 11 | 人工透析を受ける人の看護 | | 粥川 | 講義 | 教科書「慢性期」P.140～150を精読し、血液浄化療法についてまとめる（120分） | 血液浄化療法時の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（120分） |
| 12 | 糖尿病のある人の看護（事例・演習） | | 古田 森岡 林 安藤 | 演習 | その都度提示した演習事前課題を実施する（120分） | 演習課題を実施する（120分） |
| 13 | 糖尿病のある人の看護（事例・演習） | | 古田 森岡 林 安藤 | 演習 | その都度提示した演習事前課題を実施する（120分） | 演習課題を実施する（120分） |
| 14 | 糖尿病のある人の看護（事例・演習） | | 古田 森岡 林 安藤 | 演習 | その都度提示した演習事前課題を実施する（120分） | 演習課題を実施する（120分） |
| 15 | 糖尿病のある人の看護（事例・演習） | | 古田 森岡 林 安藤 | 演習 | その都度提示した演習事前課題を実施する（120分） | 演習課題を実施する（120分） |
| | 定期試験（筆記） | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 定期試験90% 事例演習レポート10% | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 成人看護学 慢性期看護 / 鈴木久美、野澤明子、森一恵編集.--改定第4版--南江堂, 2023年, 978-4-524-23436-3 成人看護学 急性期看護 <1> 概論・周手術期看護 / 林直子、佐藤まゆみ編集.--改定第4版--南江堂, 2023年, 978-4-524-23231-4 系統看護学講座専門分野 成人看護学(4)血液・造血器 / 飯野 京子他.--第16版--医学書院, 2024年, 978-4-260-05306-8 系統看護学講座専門分野 成人看護学(6)内分泌・代謝 / 吉岡 成人他.--第16版--医学書院, 2024年, 978-4-260-005310-5 系統看護学講座専門分野 成人看護学(8)腎・泌尿器 / 大東 貴志他.--第16版--医学書院, 2024年, 978-4-260-05314-3 系統看護学講座専門分野 成人看護学(11)アレルギー・膠原病・感染症 / 岩田 健太郎他.--第15版--医学書院, 2024年, 978-4-260-03858-4 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| 必要に応じて紹介する。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | オムニバス形式のため各担当教員の最後の授業時、課題の振り返りを行う。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 内科や外科以外に各種診療科が存在し、救急診療を実施している病院での職務経験からそれぞれの臨床経験に合わせて授業を構成し、実際の臨床での看護の事例を用いながら授業を展開していく。 | | | | | |
| 備考 | 学生の質問にその都度応じながら指導する。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|---|-----------------------------------|---------------|----------|---|--|
| 成人看護学実習 | | 古田弥生・森岡菜穂子・林 宗典・安藤百合香 (代表教員 古田弥生) | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | 科目ナンバリング | | |
| 必修 | 3年 前学期 | 1単位(30時間) | 実習 | NNA713 | | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 古田 弥生(看護師)森岡 菜穂子(看護師)林 宗典(看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 成人看護学実習では、周手術期及び急性期にある患者の看護を見学を通し学習する。手術中・後の経過をたどる患者の身体的状態を理解し、症状に伴う苦痛の緩和と不安定な心身の状態における生理的ニーズ充足の援助を学ぶ。生命の危機状態にある患者の身体的状態を理解し、生命の維持管理や患者及び家族の不安の軽減への援助を学ぶ。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 手術室における看護師の役割を理解する。 急性状態にある患者に対する看護師の役割を理解する。 急性状態にある患者の生活を中心とした医療チームの役割を理解する。 看護学生として学ぶ姿勢や態度を身に付けられる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| | .実習施設 | | 古田 森岡 林 | 実習 | | |
| | 1. 松波総合病院、西濃厚生病院、岐阜清流病院、羽島市民病院、岐阜ハートセンター、岐阜赤十字病院のいずれか一箇所で行う(手術室と急性期病棟もしくはICU) | | 古田 森岡 林 | 実習 | | |
| | .実習方法 | | 古田 森岡 林 | 実習 | | |
| | 1. 学生80名を1グループ4~5名で編成し、精神看護学実習、在宅看護論実習と共にローテーションで行う。 | | 古田 森岡 林 | 実習 | ・周手術期(急性期)とはどのようなことか、特徴をもとに看護師の役割や、チーム医療について学習する。 | ・手術室、急性期病棟およびICU見学での学びを考察し、レポートにまとめる。 |
| | 2. 実習前オリエンテーションを行う。 3. 学内実習は、実習に向けての事前学習を確認し、実習の準備を行う。 | | 古田 森岡 林 | 実習 | ・周手術期を支える看護として、術前・術中・術後の看護について学習する。特に、術後合併症については根拠をもとに理解できるように学習する。 | ・手術室、急性期病棟およびICU見学での学びを考察し、レポートにまとめる。 |
| | 4. 手術室への入室から退室までの一連の看護について見学する。 5. 手術室における清潔操作、手術室での患者の管理方法、手術室看護の概要を見学する。(施設により多少異なる) | | 古田 森岡 林 | 実習 | ・手術室入室から退室までの看護について学習する。また、手術室環境や他職種との連携について学習する。 | ・手術室、急性期病棟もしくはICU見学での学びを考察し、レポートにまとめる。 |
| | 6. 病棟では、毎日カンファレンスを計画・実施し、看護の方向性の検討や学びを深める。 | | 古田 森岡 林 | 実習 | ・カンファレンスで意見が述べられるように学習内容をまとめる。 | ・カンファレンスを通し、自己と他者の学びを共有する。また、次の課題を明確にする。 |
| | 7. 実習最終日に、実習施設で教員・臨床指導者と共に反省会を行う。 | | 古田 森岡 林 | 実習 | ・自己の学びをまとめ、振り返りを行うことで、次への課題を明確にする。 | ・グループ内の意見交換より、自己の学び、課題を再度考察する。 |
| | | | | | | |

| 評価基準・評価方法 | |
|--|---|
| 目標到達度、出席状況、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。 | |
| 使用教科書 | |
| 成人看護学 急性期看護<1> 概論・周手術期看護 改訂第4版 / 林直子他.--林直子、佐藤まゆみ編集--南江堂, 2023年, 978-4-524-23231-4 | |
| 参考図書 | |
| 系統看護学講座専門分野 成人看護学(2)～(15) 医学書院 | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 実習前に実習に必要な知識について課題を提示します。また、実習中その都度、記録へのコメントを残し、それをもとに口頭でも質問し学習を活かした学習が行えるよう指導します。また、学生の考えを聞きながら学生主体の実習が行えるように指導する。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 内科や外科以外に各種診療科が存在し、救急診療を実施している病院での職務経験からそれぞれの臨床経験に合わせて実習指導を行う。 |
| 備考 | 実習中、事前学習ノートを用い看護について知識を確認しながら学習をしていきます。急性期の特徴や手術室看護、術後観察の視点・看護について知識を持ち実習に向かう準備を行って実習に臨むことが良い。 専門科目の健康生活を支えるための看護の原理と基礎の科目すべて、成人看護学概論、成人看護活動論 の単位を修得済みであること。 |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|---|-------------------|------|----|--|---|
| 高齢者看護学概論 | | 三輪陽子 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 1年 後学期 | 1単位(15時間) | 講義 | | NNA214 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 三輪陽子(高度実践看護師:CNS) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 高齢者を社会的存在の生活者として理解するために、身体的老化のみならず、その人の人生や影響を受けた社会変動、環境などの多様性と高齢社会の動向を知り、高齢者の健康と生活を支える基本的な考えを学ぶ。講義では、双方向システム等を活用し学びを深めていく。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| <p>加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化の特徴を理解し、高齢者の生活に及ぼす影響を説明できる。</p> <p>高齢者の生活史や健康歴、文化、価値観を理解し、把握する方法を説明できる。</p> <p>高齢者にみられる健康状態の特徴や健康障害について理解し、説明できる。</p> <p>高齢社会における社会構造の変化や医療・保健・福祉政策について説明できる。</p> <p>高齢者看護における理念や基本的視点を理解し、倫理的課題に対する看護師の役割を考えることができる。</p> | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 老いるということ/老いを生きるということ | | 三輪 | 演習 | あなたがイメージする高齢者像を挙げ、その高齢者像を形成するに至った経験や理由(例:家庭、メディア、社会的背景など)をまとめる(120分) | 老年期の発達課題をまとめて提出(120分) |
| 2 | 老年期の理解(加齢に伴う身体・心理・社会的側面の変化、高齢者の生活史・健康歴・文化・価値観の理解) | | 三輪 | 講義 | 教科書P7~11,94~119を精読し身体変化とその影響をまとめる | 身近な高齢者にインタビューして生活史または健康歴を記述する(対象者がいない場合は高齢者の喪失体験についてまとめる)(120分) |
| 3 | 高齢者の理解 高齢者の健康障害(高齢者の疾病の特徴、フレイル、廃用性症候群) | | 三輪 | 演習 | 高齢者の疾病の特徴をまとめる(120分) | 講義を参考に高齢者の自立を妨げる要因をまとめて提出(120分) |
| 4 | 高齢者の統計的輪郭 | | 三輪 | 講義 | 高齢者の平均寿命・高齢化率の変遷についてまとめる(120分) | 配布プリントに取り組んだ後、答え合わせを行い提出(120分) |
| 5 | 高齢社会における保険医療福祉の動向 | | 三輪 | 講義 | 教科書P36~53を精読し高齢者社会対策基本法と高齢者の医療の確保に関する法律についてまとめる(120分) | 配布プリントに取り組んだ後、答え合わせを行い提出(120分) |
| 6 | 高齢者の権利と老年看護の倫理的課題 | | 三輪 | 演習 | 高齢者虐待の種類とアドボカシーについて意味を調べてまとめる(発表)(120分) | 高齢者看護において生じやすい倫理的課題についてまとめ提出(120分) |
| 7 | 老年看護の役割、老年看護に携わる者の責務 | | 三輪 | 演習 | 老年看護の役割についてまとめる(発表)(120分) | 配布プリントに取り組んだ後、答え合わせを行い提出(120分) |
| 8 | 老年看護に役立つ理論・概念 | | 三輪 | 演習 | サクセスフルエイジング、SOC理論、スピリチュアリティ、コンフォート、ストレングスモデルについてまとめる(発表)(120分) | 「高齢者観」を課題とし提出(120分) |
| 定期試験(筆記) | | | | | | |

| 評価基準・評価方法 | |
|--|---|
| 認知領域（知識）：筆記試験（60%） 精神運動領域（技能）：レポート提出（20%）：第6回と第8回の授業後に各レポート提出（各10） 情意領域（態度）：（20%）講義全体の発表姿勢・参加度、事後課題提出 | |
| 使用教科書 | |
| 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 / 北川公子ほか.--第9版--医学書院, 2024年, 978-4-260-03186-8 | |
| 参考図書 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・国民衛生の動向（厚生統計協会） ・国民福祉と介護の動向（厚生労働統計協会） ・正木治恵:老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは,南江堂,改訂第4版,2024 ・ナーシング・グラフィカ 老年看護学 高齢者の健康と障害,第8版,2025 | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 事前学習及び課題は講義内容に反映する。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 急性期や訪問看護ステーションでの高齢者看護経験等の実践経験を基に、看護の対象としての高齢者の特徴や、高齢者の多面的なとらえ方、高齢者看護に活用できる理論・アプローチをわかりやすく教育する。 |
| 備考 | オフィスアワー、授業中に随時質問を受け付けます。指定のオフィスアワーの時間以外にも、お気軽に声をかけてください。 高齢者を取り巻く社会制度や国の施策等に興味をもって、社会の変化に目を向けて知識を深めましょう。 |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|--|--|---------------------------|----|--|--|
| 高齢者看護活動論 | | 三輪陽子・安藤百合香・中川幸代・古田弥生・林 宗典・森岡菜穂子 (代表教員 三輪陽子) | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 2年 前学期 | 2単位(30時間) | 講義・演習 | | NNA415 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 三輪陽子(高度実践看護師:CNS)、安藤百合香(看護師・保健師)、中川幸代(認定看護師)、古田弥生(看護師)、林宗典(看護師)、森岡菜穂子(看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 加齢変化や老年期特有の健康障害が高齢者と家族に及ぼす影響を理解したうえで、必要な援助を学ぶ。高齢者の特徴を踏まえ、高齢者に特有な健康障害に対する診断・治療過程における看護について学ぶ。高齢者疑似体験、グループワーク、動画を用い、受講者が高齢者や場面をイメージできるよう工夫し、高齢者看護に必要な知識、技術、態度の習得を目指す。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| <p>高齢者への日常生活援助について、意義や方法などを説明できる。</p> <p>高齢者に多い健康障害の原因とその程度、生活への影響について説明できる。</p> <p>残存機能を活用し、自立支援という視点から援助の方向性が説明できる。</p> <p>認知症を有する高齢者への看護について理解し、コミュニケーションスキルを身につける。</p> <p>高齢者にみられる身体症状に対する具体的な看護方法を説明できる。</p> <p>高齢者の疑似体験をすることで、高齢者の身体的な不自由さや心理面が説明できる。</p> | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 高齢者の生活機能を整える看護 「清潔」 | | 三輪 | 講義 | 皮膚の加齢性変化についてまとめる(120分) | 清潔の援助についてまとめる(120分) |
| 2 | 疾患をもつ高齢者の看護(コミュニケーション) | | 三輪 | 講義 | コミュニケーションに作用する加齢性変化についてまとめる(120分) | 高齢者とのコミュニケーションのポイントと情報収集の視点についてまとめる(120分) |
| 3 | 高齢者疑似体験 | | 三輪 安藤 古田 森岡 林 | 演習 | 高齢者の感覚器・運動機能についてまとめる(120分) | 課題レポートをまとめて提出する(120分) |
| 4 | 高齢者疑似体験 | | 三輪 安藤 古田 森岡 林 | 演習 | 高齢者の感覚器・運動機能についてまとめる(120分) | 課題レポートをまとめて提出する(120分) |
| 5 | 高齢者の生活機能を整える看護 「褥瘡・スキンケア」 | | 三輪 | 講義 | 褥瘡の好発部位と褥瘡評価(NPUAP/EPUAP)とDESIGN-Rをまとめる(120分) | ポジショニング・圧抜きに関連した演習シートに記載する(120分) |
| 6 | 生活機能を整える看護 「食事：摂食嚥下障害」 | | 中川 | 講義 | 食事に関する加齢性変化をまとめる(120分) | 摂食嚥下過程の5期モデルのそれぞれの状態・5期モデルによる観察ポイントをまとめる(120分) |
| 7 | 高齢者の生活機能を整える看護 「食事：栄養状態の変調・食生活のアセスメント」 | | 三輪 | 講義 | フレイル、サルコペニア、高齢者の低栄養について、高齢者の義歯洗浄についてまとめる(120分) | 栄養アセスメントをする(120分) |
| 8 | 認知機能障害のある高齢者の看護 「うつ・せん妄」 | | 三輪 | 講義 | うつ病・認知症・せん妄の違いについてまとめる(120分) | せん妄の看護をまとめる(120分) |
| 9 | 認知機能障害のある高齢者の看護 「認知症」 | | 三輪 | 講義 | 脳の働きについて復習する(60分) | 4つの認知症の名称と特徴をまとめる(180分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|----|-----------------------------------|------|---------------------------|----------|--|----------------------------|
| 10 | 認知機能障害のある高齢者の看護 「認知症」 | | 三輪 | 講義 | 認知症の原因疾患と摂食嚥下障害の特徴をまとめる。認知症高齢者に対する看護についてまとめる(120分) | 認知症高齢者に対する看護についてまとめる(120分) |
| 11 | 高齢者の生活機能を整える看護 「排泄」 | | 三輪 | 講義 演習 | 排泄に関する加齢性変化についてまとめる(120分) | 演習に向けての課題に取り組む(120分) |
| 12 | 高齢者の生活機能を整える看護 「排泄」 | | 三輪 | 講義 | 演習に向けての事前学習に取り組む(120分) | 演習に向けての事前学習に取り組む(120分) |
| 13 | 高齢者の生活機能を整える看護 「排泄」 陰部洗浄・おむつ交換 | | 三輪 安藤 古田 森岡 林 | 演習 | 演習に向けての事前学習に取り組む(120分) | 演習後の課題をまとめて提出する(120分) |
| 14 | 高齢者の生活機能を整える看護 「排泄」 陰部洗浄・おむつ交換 | | 三輪 安藤 古田 森岡 林 | 演習 | 演習に向けての課題をまとめる(120分) | 演習後の課題をまとめて提出(120分) |
| 15 | 高齢者によくみられる身体症状のアセスメント | | 安藤 | 講義 | 高齢者に多い発熱・痛み・脱水の要因と特徴についてまとめる(120分) | 発熱・痛み・脱水の看護についてまとめる(120分) |
| | 定期試験 | | | | | |

評価基準・評価方法

認知領域(知識):筆記試験(70%)、レポート内容(20%)
精神運動・情意領域(技術・態度):レポート提出、演習の取り組みと態度(10%)

使用教科書

系統看護学講座 専門分野 老年看護学 第9版 / 北川公子他.--医学書院,2018年,978-4-260-03186-8

参考図書

| | |
|--------------------------|--|
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 事前学習や課題は講義に反映させる。課題は、講義終了後返却し各自で振り返る。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 認定看護師、専門看護師を含めた教員により基礎を重視した実践的な看護を教授します。 |
| 備考 | 質問等については、講義終了時やまたは次回の講義にフィードバックします。 |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|--|---|---------------------------|----------|--|--|
| 高齢者看護活動論 | | 三輪陽子・林 宗典・安藤百合香・加藤清人・古田弥生・森岡菜穂子 (代表教員 三輪陽子) | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | 科目ナンバリング | | |
| 必修 | 2年 後学期 | 1単位(30時間) | 講義・演習 | NNA516 | | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 三輪陽子(高度実践看護師:CNS)、林 宗典(看護師)、安藤百合香(看護師・保健師)、加藤清人(作業療法士)、古田弥生(看護師)、森岡菜穂子(看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 高齢者の特徴を踏まえ、健康障害に対する診断・治療過程における看護について学ぶ。事例を通じた高齢者の看護展開(ペーパーペーシェントを用いた看護過程展開)、グループワークにより援助の視点を共有し、アセスメントの視点を学ぶ。高齢者特有のリスク要因を理解したうえで、高齢者のリスクマネジメントを学ぶ。アクティブラーニングを取り入れ高齢者看護に必要な知識、技術、態度を習得する。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 高齢者に多い健康障害の原因とその程度、生活への影響を踏まえ看護について説明できる。 検査に伴うインフォームドコンセントと検査時の看護について説明できる。 高齢者の薬物療法時の注意点と服薬管理に向けた看護が説明できる。 手術を受ける高齢者の特徴がわかり術前・術後の看護が説明できる。 生活・療養の場における看護の方法が説明できる。 老年期に特有な疾患をもつ患者の事例を用いて高齢者の看護展開の視点が説明できる。 高齢者に特有なリスクが分かり対処方法が説明できる。 エンドオブライフケアに関する諸問題と看護について理解できる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 高齢者の看護過程の考え方(生活機能アセスメント) | | 三輪 | 講義 | 老年看護学教科書 P408～410をまとめる。ICFの復習(30分) | 老年看護学教科書 P411～420をまとめる(30分) |
| 2 | 疾患をもつ高齢者の看護(骨粗鬆症・大腿骨頸部骨折) | | 三輪 | 講義 | アルツハイマー型認知症、大腿骨頸部骨折の病態生理・看護についてまとめる(30分) | 大腿骨頸部内側骨折・大腿骨頸部外側骨折の病態、術式と術後の注意点(術後の生活指導)についてまとめる(30分) |
| 3 | 事例展開: 受け持ち高齢者の基本情報のアセスメント | | 三輪 安藤 古田 森岡 林 | 演習 | 受け持ち高齢者の基本情報に関するアセスメント(40分) | 事例展開の追加・修正 受け持ち高齢者基本情報(20分) |
| 4 | 事例展開: 生活機能(活動・休息)のアセスメント | | 三輪 安藤 古田 森岡 林 | 演習 | 事例の生活機能(活動・休息)のアセスメント(40分) | グループワーク・教員によるアセスメントの視点等の学びから生活機能の状態(活動・休息)のアセスメントの追加をする(20分) |
| 5 | 事例展開: 生活機能(食事・排泄)のアセスメント | | 三輪 安藤 古田 森岡 林 | 演習 | 事例の生活機能(食事・排泄)のアセスメント(40分) | グループワーク・教員によるアセスメントの視点等の学びから生活機能の状態(食事・排泄)のアセスメントの追加をする(20分) |
| 6 | 事例展開: 生活機能(身だしなみ・コミュニケーション)のアセスメント | | 三輪 安藤 古田 森岡 林 | 演習 | 事例の生活機能(身だしなみ・コミュニケーション)のアセスメント(40分) | グループワーク・教員によるアセスメントの視点等の学びから生活機能の状態(身だしなみ・コミュニケーション)のアセスメントの追加をする(20分) |
| 7 | 事例展開: 看護の焦点の明確化 | | 三輪 安藤 古田 森岡 林 | 演習 | 看護事例 看護の焦点の明確化(40分) | グループワーク・教員によるアセスメントの視点等の学びから看護の焦点の明確化を追加をする(20分) |
| 8 | 体位変換、ポジショニング、圧抜き、携帯型接触圧力測定器を使用(前期講義資料持参) | | 三輪 安藤 古田 森岡 林 | 演習 | ポジショニング、圧抜きに関連した演習シートの完成(40分) | テスト対策シートに取り組む(20分) |
| 9 | 高齢者の人生の最終段階における看護: エンドオブライフ・ケアを見据えた高齢者看護とは | | 三輪 | 講義 | プリント: 高齢者の終末期看護に関する重要用語を調べまとめる(40分) | プリント: 高齢者の終末期看護に関する重要用語を調べまとめる(20分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|---|------|----|----|--|----------------------------|
| 10 | 認知機能障害の高齢者の看護「非薬物療法・レクリエーションの実践」 | | 加藤 | 講義 | 4大認知症の病態生理についてまとめる(20分) | 講義の学びをまとめ提出する(40分) |
| 11 | 検査・治療を受ける高齢者への看護 | | 三輪 | 講義 | 高齢者の疾患の特徴をまとめる(40分) | テスト対策シートに取り組み(20分) |
| 12 | 薬物療法・手術療法を受ける高齢者の看護 | | 三輪 | 講義 | 加齢に伴う薬物動態の変化、手術を受ける高齢者の特徴についてまとめる(40分) | テスト対策シートに取り組み(20分) |
| 13 | 生活・療養の場における看護 | | 安藤 | 講義 | 介護保険施設4つの特徴についてまとめる(20分) | 介護保険施設における看護師の役割をまとめる(40分) |
| 14 | 疾患をもつ高齢者の看護(パーキンソン病・心不全)、家族看護 | | 林 | 講義 | パーキンソン病の4大症状、ホーンヤール分類と生活機能障害度についてまとめる(40分) | テスト対策シートに取り組み(20分) |
| 15 | 高齢者のリスクマネジメント(高齢者と医療安全、救命救急・災害) | | 安藤 | 講義 | 高齢者特有のリスク要因をまとめる(20分) | 災害フェーズと高齢者支援についてまとめる(40分) |
| | 定期試験 | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 認知領域(知識):筆記試験(70%)、課題・レポート内容(20%) 精神運動・情意領域:レポート提出・グループワーク参加状況(10%) | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 (第9版) / 北川公子他.--医学書院,2021年,978-4-260-03186-8 生活機能からみた 老年看護過程 / 山田律子他.--秋下雅弘--医学書院,2020年,978-4-262-04274-1 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| 亀井智子:根拠と事故防止からみた老年看護技術,医学書院,2021 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 事例展開の課題は、講義時の始めに学習内容を確認します。その後グループワークを進めていきます。講義終了時、重要ポイントをフィードバックします。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 専門看護師を含めた教員により基礎を重視した実践的な看護を教授します。 | | | | | |
| 備考 | 質問等については、次の講義等で説明し、フィードバックします。第3~7回はグループワークにより事例を通じた看護展開(ペーパーペーシエントを用いた看護過程展開)をします。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|---|---|------|----|--|--------------------------------------|
| 成人・高齢者看護学実習 | | 古田弥生・三輪陽子・森岡菜穂子・林 宗典・安藤百合香 (代表教員 古田弥生) | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 2年 後学期 | 3単位(90時間) | 実習 | | NNA517 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 古田 弥生(看護師)森岡 菜穂子(看護師)林 宗典(看護師) 三輪 陽子(看護師)安藤 百合香(看護師・保健師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 慢性に経過する疾患と共に、成人・高齢期における対象及び健康障害の特性と、健康レベルに応じた患者とその家族の持つ健康問題を総合的に理解し、科学的でかつ論理的な看護を実践するための基礎的能力を身につける。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 疾患や加齢性変化による健康問題をもつ慢性に経過する成人・高齢者とその家族を全人的に理解する。 慢性疾患患者が日常生活の規制の中で自己管理と社会生活の適応ができるよう、科学的根拠に基づき看護の問題解決のプロセスを理解し、問題解決を図り実施する。 患者の生活を中心とした医療チームの役割と社会資源について理解する。 看護学生として学ぶ姿勢や態度を身に付ける。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| | ・実習施設 | | | 実習 | | |
| | ・平野総合病院 西濃厚生病院 岐阜清流病院の病棟いずれか一箇所3週間実習を行う。 | | | 実習 | | |
| | ・実習方法 | | | 実習 | | |
| | 1. 学生80名を1グループ4~6名で編成し、地域・環境実習、小児看護学実習、母性看護学実習と共にローテーションで行う。 | | | 実習 | 慢性期とはどのようなことか、特徴をもとに看護師の役割や、チーム医療について学習する。 | 看護過程の展開をすすめる中で慢性期の特徴を活用する。 |
| | 2. 原則として一人の患者を受け持ち、慢性期にある患者の看護実践を行う。 | | | 実習 | 慢性期を支える看護として、セルフケア、セルフマネジメント、自己効力感、症状マネジメント、学習支援等について学習する。 | 看護過程の展開をすすめる中で慢性期の特徴を活用する。 |
| | 3. 事前学習は、病棟の概要に記入してある疾患をもとに、慢性期の特徴や解剖生理、病態、検査、看護の学習を行う。また、基本的看護技術の練習を行う。 | | | 実習 | 実習病院の概要に記載してある、疾患および検査・治療とその看護について事前学習を行う。 | 受け持ち患者の疾患について学習が不足している点など追加学習を行う。 |
| | 4. 実習は、教員・臨床指導者の指導を受けながら、患者の全体像を把握し具体的な看護過程の展開を行う。 | | | 実習 | 看護過程の展開とはどのようなことか、情報収集、アセスメント、問題の抽出、看護計画、評価について学習し、サイクルになっていることを再確認する。 | 看護過程の展開を行いながら看護を実践する。また、その振り返りを毎日行う。 |
| | 5. 血液浄化センターの見学を1日行う。 | | | 実習 | 血液浄化療法について学習する。 | 血液浄化センターでの学びを考察し、レポートにする。 |
| | 6. 学内実習は、病態の理解を深めたり、記録の整理を行う。 7. 病棟では、毎日カンファレンスを計画・実施し、看護の方向性の検討や学びを深める。 | | | 実習 | 根拠を理解した上で援助が行えるよう看護援助(技術)を身に付ける。 | 日々の記録の振り返りを行い今後の課題点について把握し、練習を行う。 |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|---|------|----|----|-----------------------------------|-------------------------------|
| | 8. 実習最終日に、実習施設で教員・臨床指導者と共に反省会を行う。 | | | 実習 | 自己の学びをまとめ、振り返りを行うことで、次への課題を明確にする。 | グループ内の意見交換より、自己の学び、課題を再度考察する。 |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 目標到達度、出席状況、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。 | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 成人看護学 成人看護学概論 / 林直子、鈴木久美、酒井郁子、梅田恵.--改定第4版--南江堂, 2023年, 978-4-524-23073-0 成人看護学 慢性期看護 / 鈴木久美、旗持知恵子、佐藤直美、編集.--改定第4版--南江堂, 2023年, 978-4-524-23436-3 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 / 北川公子他.--第9版--医学書院, 2018年, 978-4-260-03186-8 生活機能からみた 老年看護過程 / 山田律子他.--秋下雅弘--医学書院, 2020年, 978-4-262-04274-1 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| 系統看護学講座専門分野 成人看護学(2)～(15) 医学書院 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 学習状況の確認を行い必要な課題を提示します。実習中その都度、記録へのコメントを残し、それをもとに口頭でも質問し学習を活かした看護が行えるよう指導します。また、学生の考えを聞きながら学生主体の実習が行えるように指導する。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | さまざまな臨床経験をもつ教員の指導の基、より実践的な看護を教授できる。 | | | | | |
| 備考 | 実習中、事前学習ノートを用い疾患や看護について知識を確認しながら学習をしていきます。慢性期の特徴や看護、各疾患について知識を持ち実習に向かう準備を行って実習に臨むことが良い。 。専門科目の健康生活を支えるための看護の原理と基礎の科目すべて、成人・高齢者看護学概論、成人看護活動論、高齢者看護活動論の単位を修得済みであること。成人看護活動論、高齢者看護活動論については履修済であること。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|---|---|------|----|--|--------------------------------------|
| 成人・高齢者看護学実習 | | 古田弥生・森岡菜穂子・林 宗典・三輪陽子・安藤百合香 (代表教員古田弥生) | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 3年 前学期 | 2単位(60時間) | 実習 | | NNA718 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 古田 弥生(看護師)三輪 陽子(看護師)森岡 菜穂子(看護師)林 宗典(看護師)安藤 百合香(看護師・保健師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 成人・高齢者看護学実習 の学習では、高齢者の生きてきた過程や大切にしていることを理解し、その人が必要とする生活の場への移行を目指した連携や、看護実践に必要な基礎的能力を身につける。そして、看護チーム・多職種連携におけるコミュニケーション能力や問題解決の能力を養うことにつなげる。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| <p>高齢者とその家族を全人的にとらえその人らしく生活できる視点を理解する。 対象の健康障害と生活上の課題を科学的にアセスメントし、その人が必要とする生活の場への移行を目指すために必要な看護の方向性が把握できる。 高齢者の健康状態や生活課題に応じた個別的な看護を実践する。 そのひとが必要とする生活の場への移行を支える多職種連携を理解する。 対象の尊厳および権利を尊重し、看護学生として学ぶ姿勢や態度を身に付ける。</p> | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| | 1. 実習施設 | | | 実習 | | |
| | ・平野総合病院、西濃厚生病院、岐阜清流病院 岩砂病院・岩砂マタニティの病棟のいずれか一箇所 で2週間実習を行う。 | | | 実習 | | |
| | ・ 実習方法 | | | 実習 | | |
| | 1. 学生80名を1グループ4~6名で編成し、成人看護学実習、精神看護学実習、地域・在宅看護論実習とともにローテーションで行う。 | | | 実習 | 高齢者の特徴を元に看護師の役割やチーム医療、社会福祉について学習する。 | 看護過程の展開を行う中で、高齢者の特徴を活用する。 |
| | 2. 原則として一人の患者を受け持ち、高齢者に対する看護実践を行う。 | | | 実習 | 高齢者の特徴を元に看護師の役割やチーム医療、社会福祉について学習する。 | 看護過程の展開を行う中で、高齢者の特徴を活用する。 |
| | 3. 事前学習は、病棟の概要に記載してある疾患と共に高齢者の特徴のや解剖生理学、病態、検査、治療、看護の学習を行う。また、基本的看護技術の練習を行う。 | | | 実習 | 実習病院の概要に記載してある疾患及び検査、治療とその看護について事前学習を行う。 | 受け持ち患者の疾患について学習が不足している点など追加学習を行う。 |
| | 4. 実習は、教員・臨床指導者の指導を受けながら、患者の全体像を把握し具体的な看護過程の展開を行う。 | | | 実習 | 患者を全人的に捉え、必要な看護を考え実習に望む。 | 看護過程の展開を行いながら看護を実践する。また、その振り返りを毎日行う。 |
| | 5. 学内実習は、受け持ち高齢者の理解を深めたり、記録の整理を行う。 | | | 実習 | 根拠を理解した上で援助が行えるよう看護援助(技術)を身に付ける。 | 日々の記録の振り返りを行い、今後の課題点について把握し練習を行う。 |
| | 6. 病棟では、毎日カンファレンスを計画・実施し、看護の方向性の検討や学びを深める | | | 実習 | カンファレンスを通し、学生間の学びの共有が行えるよう準備する。 | カンファレンスであられた様々な考え方を自分のものとしてとらえ活用する。 |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|--|------|----|----|---|----------------------------|
| | 7. 第2週の木曜日は、実習施設で教員・臨床指導者とともに反省会を行う。 | | | 実習 | 自己の学びをまとめ、振り返りをする事や他者の学びを共有することで、次への課題を明確にする。 | グループ内の意見交換より、自己の課題を再度考察する。 |
| | 8. 実習最終日に学内でグループ討議、発表まとめを行い、実習目標に対する達成状況や学びを共有する。 | | | 実習 | 自己の学びをまとめ、振り返りをする事や他者の学びを共有することで、次への課題を明確にする。 | グループ内の意見交換より、自己の課題を再度考察する。 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 目標到達度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。 | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 第9版 / 北川公子他.--医学書院, 2018, 978-4-260-03186-8 成人看護学 慢性期看護 / 鈴木久美、野澤明子、森一恵編集 - 改訂第4版 -.--南江堂, 2023年, 978-4-524-23436-3 生活機能からみた 老年看護過程 / 山田律子他.--秋下雅弘--医学書院, 2020年, 978-4-262-04274-1 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| 系統看護学講座専門分野 成人看護学(2)~(15) 医学書院 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 学習状況の確認を行い必要な課題を提示します。実習中その都度、記録へのコメントを残し、それをもとに口頭でも質問し学習を活かした看護が行えるよう指導します。また、学生の考えを聞きながら学生主体の実習が行えるように指導する。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | さまざまな臨床経験をもつ教員の指導の基、より実践的な看護を教授できる。 | | | | | |
| 備考 | 実習中、事前学習ノートを用い疾患や看護について知識を確認しながら学習をしていきます。高齢者の特徴や看護、各疾患について知識を持ち実習に向かう準備を行って実習に臨むことが良い。 専門科目の健康生活を支えるための看護の原理と基礎の科目すべて、成人・高齢者看護学概論、成人看護活動論、高齢者看護活動論の単位を修得済みであること。成人看護活動論、高齢者看護活動論については履修済であること。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|---|------------|------|----|---|---|
| 小児看護学概論 | | 松野ゆかり | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 1年 後学期 | 1単位(15時間) | 講義 | | NNA219 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 松野ゆかり(看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| <p>現在の子どもと家族の状況や倫理的視点から、小児看護の役割と課題について学び、小児期にある対象をとらえるための小児各期の身体的特徴、機能的発達、情緒社会性の発達を学ぶ。子どもが生活する家庭を中心に、学校、地域、社会等、小児が成長発達していくために重要な役割を担う環境との関りを学習する。</p> | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| <p>子どもと家族の状況や倫理的視点から小児看護の役割について説明できる。 看護の対象となる小児各期の特徴と小児看護における家族の位置づけについて説明できる。 子どもを取り巻く社会環境と法律・政策について自ら追及しその内容について説明できる。</p> | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 小児看護の特徴と理念 小児看護における倫理 子どもの権利 | | 松野 | 講義 | 「小児看護とは」を読んでおく。分からない言葉や興味のある言葉について調べる(講義内で確認)(120分) | *子どもに関する話題 最近の子どもに関するニュース等の記事から自分の考えを書く。 *事後課題問題に取り組む(120分) |
| 2 | 小児の成長発達 乳児の特徴と看護(1) 発達 身体発育 運動能力 | | 松野 | 講義 | 発達段階ごと観察課題「乳児の観察」・実際と考察を記録し提出確認(120分) | 映像教材「乳児」視聴 *事後課題問題に取り組む *成長発達表記入乳児期(120分) |
| 3 | 乳児の特徴と看護(2) 発達 社会性 認知 栄養と離乳 | | 松野 | 講義 | 映像教材視聴(乳児)(120分) | *事後課題問題に取り組む *成長発達表記入乳児期の栄養について(120分) |
| 4 | 幼児の特徴と看護(1) 発達 基本的生活習慣の確立 | | 松野 | 講義 | 発達段階ごと観察課題「幼児の観察」・実際と考察を記録し提出確認(120分) | *映像教材「幼児」「日常生活動作の習得と自立」視聴 *事後課題問題に取り組む *成長発達表記入幼児期(120分) |
| 5 | 学童の特徴、養育および看護 発達 運動、社会性、健康問題 | | 松野 | 講義 | ・学童期の健康問題についてどのようなものがあるか最近の話題や自分自身の振り返りから出してみよう(120分) | *映像教材「学童期」前期後期視聴 *事後課題問題に取り組む(120分) |
| 6 | 思春期・青年期の特徴、養育および看護 発達 第二性徴、アイデンティティ、親からの自立、健康問題 | | 松野 | 講義 | ・思春期の健康問題についてどのようなものがあるか最近の話題や自分自身の振り返りから出してみよう(120分) | *事後課題問題に取り組む(120分) |
| 7 | 家族の特徴とアセスメント | | 松野 | 講義 | 家族について考える(120分) | *事後課題問題に取り組む(120分) |
| 8 | 小児看護と法律・施策 | | 松野 | 講義 | 自分の住んでいる市町村の児童福祉・母子保健について調べる。(120分) | *事後課題問題に取り組む *課題「私の子ども観」(120分) |
| | 試験 | | | | | |

| 評価基準・評価方法 | |
|--|--|
| 課題レポート（20％）、最終筆記試験（80％） | |
| 使用教科書 | |
| ナーシング・グラフィカ小児看護学 第7版第1刷 / 中野綾美--メディカ出版, 978-4-8404-7842-7 | |
| 参考図書 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・国民衛生の動向 ・系統看護学講座 小児看護学（1）小児看護学概論 / 小児臨床看護総論, 奈良間美保, 医学書院 | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 事前学習及び課題は講義内容に反映させる。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 病棟における職務経験から看護師の役割機能、子どもへの理解と対応など、社会福祉や養護、今後の課題等を具体的な事例を交えて必要な思考力・実践力が身につけられるよう授業を展開していく。 |
| 備考 | 授業は遅刻欠席のないように努力する。開始時の双方向システムによる出席確認を行う。欠席した場合は、登校後資料を取りにくる。 質問はクラスルーム投稿または直接声をかけてください。回答は随時行います。 |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|---|---|------|----------|---------------------------------------|--|
| 小児看護活動論 | | 松野ゆかり・松井永子・遠渡絹代・岡本知美・白木大輔・中川みのり・小林まり子（代表教員 松野ゆかり） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | 科目ナンバリング | | |
| 必修 | 2年 前学期 | 2単位(30時間) | 講義 | NNA420 | | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 松野ゆかり(看護師)、松井永子(医師)、遠渡絹代(専門看護師)、岡本知美(認定看護師)、白木大輔(認定看護師)、中川みのり(看護師・保健師)、小林まり子(看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 小児特有疾患の病態・治療について基礎的知識を学習したうえで、小児各期の発達段階や状況・疾病経過に応じた具体的な援助方法を学習する。疾病・障害をもつ小児及び家族が持つ健康問題について学習する。さらに疾病予防といった小児保健の諸問題にも触れながら、小児看護の役割を学ぶ。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| <p>疾病・障害による子どもと家族への影響を理解し必要な支援について説明できる。</p> <p>様々な状況における子どもと家族を理解し、必要な援助について説明できる。</p> <p>小児に発症する疾患の発生機序、症状など疾患概念について説明できる。</p> <p>疾患について学び、アセスメントの視点がわかり、根拠をもった看護について説明できる。</p> <p>障害のある子どもと家族について学習し、必要な支援について説明できる。</p> <p>虐待について知り、事故との見極めの判断ができる。虐待を受けている、又は可能性のある子どもと家族の支援について説明できる。</p> | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 疾病・障害をもつ小児と家族の看護 病気に対する子どもの理解、インフォームドアセント、プレパレーション 病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護 外来における子どもと家族への看護 | | 松野 | 講義 | ・認知発達段階について復習 ・入院・外来に関する動画視聴(120分) | *事後課題で確認 各発達段階の子どもに現れやすい反応と必要な看護について、子どもの病気や障害に対して家族が示す反応(120分) |
| 2 | 小児の在宅療養者への看護 | | 中川 | 講義 | 教科書該当箇所予習、疑問点を調べる(120分) | *事後課題で確認(120分) |
| 3 | 染色体異常・先天異常と看護、新生児の看護 ダウン症候群、トリソミー、性染色体異常、新生児疾患 | | 岡本 | 講義 | 教科書該当箇所予習、疑問点を調べる(120分) | *事後課題で確認 各疾患のまとめ(120分) |
| 4 | 代謝性疾患と看護、内分泌疾患と看護(1型糖尿病) | | 小林 | 講義 | 教科書該当箇所予習、疑問点を調べる(120分) | *事後課題で確認 各疾患のまとめ(120分) |
| 5 | 免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ疾患 (気管支喘息、食物アレルギー) | | 松井 | 講義 | 教科書該当箇所予習、疑問点を調べる(120分) | *事後課題で確認 各疾患のまとめ(120分) |
| 6 | 感染症(ウイルス感染症 細菌感染症) 呼吸器疾患(肺炎、気管支炎) | | 松井 | 講義 | 教科書該当箇所予習、疑問点を調べる(120分) | *事後課題で確認 各疾患のまとめ(120分) |
| 7 | 血液・造血器疾患と看護、悪性新生物と看護 (血小板減少性・血管性紫斑病) | | 小林 | 講義 | 教科書該当箇所予習、疑問点を調べる(120分) | *事後課題で確認 各疾患のまとめ(120分) |
| 8 | 腎・泌尿器および生殖器疾患と看護 (ネフローゼ症候群) | | 松野 | 講義 | 教科書該当箇所予習、疑問点を調べる(120分) | *事後課題で確認 各疾患のまとめ(120分) |
| 9 | 循環器疾患と看護(先天性心疾患、川崎病) | | 松野 | 講義 | 正常な循環器の解剖生理について学習。 講義内で発問(120分) | *事後課題で確認 各疾患のまとめ(120分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|---|------|----|----|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 10 | 消化器疾患と看護（口唇口蓋裂、肥厚性幽門狭窄症、ヒルシュスプルング病、鎖肛、腸重積症、臍・臍帯・外鼠径ヘルニア、胆道閉鎖症、口タウウイルス） | | 小林 | 講義 | 正常な消化器の解剖生理について学習。講義内で発問（120分） | * 事後課題で確認 各疾患のまとめ（120分） |
| 11 | 神経疾患と看護（てんかん、熱性けいれん、二分脊椎、脳性麻痺） | | 松野 | 講義 | 原始反射、正常な神経系の解剖生理について学習。講義内で確認（120分） | * 事後課題で確認 各疾患のまとめ（120分） |
| 12 | 運動器疾患と看護（先天性股関節脱臼、骨折、先天性内反足、先天性筋性斜頸） | | 松野 | 講義 | 運動器の解剖生理について学習。講義内で確認（120分） | * 事後課題で確認 各疾患のまとめ（120分） |
| 13 | 事故・外傷と看護 | | 白木 | 講義 | 教科書該当箇所予習、疑問点を調べる（120分） | * 事後課題で確認 各疾患のまとめ（120分） |
| 14 | 障害のある子どもと家族の看護（障害受容、重症心身障害児） | | 遠渡 | 講義 | 教科書該当箇所予習、疑問点を調べる（120分） | * 事後課題で確認 重症心身障害児とは（120分） |
| 15 | 子どもの虐待と看護 | | 遠渡 | 講義 | 教科書該当箇所予習、疑問点を調べる（120分） | * 事後課題で確認 虐待の定義、種類、統計、看護（120分） |
| | 試験 | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 認知領域（知識）：最終筆記試験（80%） 精神運動・情意領域（技術・態度）：課題・レポート（20%） | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| ナーシング・グラフィカ小児看護学 小児の疾患と看護 / 第3版--メディカ出版, 2023年, 978-4-8404-7844-1 ナーシング・グラフィカ小児看護学 小児の発達と看護第7版 / 第7版--メディカ出版, 2023年, 978-4-8404-7842-7 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論 / 小児臨床看護総論, 奈良間美保, 医学書院 ・系統看護学講座 小児看護学〔2〕小児看護学各論, 奈良間美保, 医学書院 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 事前学習及び課題は講義内容に反映させる。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 小児科医師、小児専門看護師、認定看護師、保健師、小児病棟看護師の職務経験から疾患・障害を持つ子どもへの看護師の役割機能、子どもの理解と対応など、実践に基づいた必要な思考力・実践力が身につけられるよう授業を展開していく。 | | | | | |
| 備考 | 授業は遅刻欠席のないように努力する。開始時の双方向システムによる出席確認を行う。欠席した場合は、登校後資料を取りにくる。質問はクラスルーム投稿または直接声をかけてください。回答は随時行います。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|--|-------------------------|----------|----------|--------------------------------|--------------------|
| 小児看護活動論 | | 松野ゆかり・小林まり子（代表教員 松野ゆかり） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 2年 後学期 | 1単位(30時間) | 講義・演習 | | NNA521 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 松野ゆかり(看護師)、小林まり子(看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 小児特有の代表的な症状のメカニズム、経過、症状緩和技術を学ぶ。また、子どもが検査や処置を受ける際の子どもと家族の影響を最小限にするための知識、小児看護技術を学び、具体的な援助方法を理解する。事例を通して対象を理解するためのアセスメント方法、看護問題の抽出を行い、小児とその家族の全体像を観る視点を修得する。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 子どもの状態を適確にアセスメントする視点と必要な看護を結びつけることができる。 検査・処置に関する基礎的知識を理解し、小児看護技術を身につけ、得られた結果についてアセスメントすることができる。 事例を用いて看護展開を行い、グループワークにより不足している視点を取り入れることができる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 急性期にある子どもと家族への看護 発熱、脱水、けいれん | | 松野 | 講義 | 症状について学習 講義内で確認(30分) | 事後課題で確認 (30分) |
| 2 | 急性期にある子どもと家族への看護 呼吸困難、嘔吐・下痢、家族への援助 | | 松野 | 講義 | 症状について学習 講義内で確認(30分) | 事後課題で確認 (30分) |
| 3 | 症状を示す小児の看護(1) | | 松野 小林 | 講義 演習 | 事例について学習する (60分) | |
| 4 | 症状を示す小児の看護(2) | | 松野 小林 | 講義 演習 | | 演習後レポート提出 (60分) |
| 5 | 子どもの手術の特徴、計画・緊急手術、術前術後の看護 | | 松野 | 講義 | 周手術期における小児と家族の特徴を学習する (30分) | 事後課題で確認 (30分) |
| 6 | 慢性期にある子どもと家族への看護 慢性期の特徴、小児慢性特定疾患治療研究事業、慢性状態が子どもに与える影響 | | 松野 | 講義 演習 | 慢性期における小児と家族の特徴を学習する (30分) | 事後課題で確認 (30分) |
| 7 | 症状を示す小児の看護(3) | | 松野 小林 | 講義 演習 | 事例について学習する (60分) | |
| 8 | 症状を示す小児の看護(4) | | 松野 小林 | 講義 演習 | | 演習後レポート提出 (60分) |
| 9 | 症状・疾患のある小児の看護(5) | | 松野 小林 | 講義 演習 | 事例について学習する (60分) | |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|--|------|----------|----------|--|-----------------|
| 10 | 症状・疾患のある小児の看護(6) | | 松野 小林 | 講義 演習 | | 事例についてまとめる(60分) |
| 11 | 症状・疾患のある小児の看護(7) | | 松野 小林 | 講義 演習 | | 演習後レポート提出(60分) |
| 12 | 安心・安全な環境を調整する技術 日常生活援助技術(演習) | | 小林 松野 | 講義 演習 | 安心・安全な環境について学習する(30分) 小児看護技術について学習する(30分) | |
| 13 | 小児のアセスメント技術 検査・処置を受ける子どもと家族への看護 | | 小林 | 講義 | | 事後課題で確認(60分) |
| 14 | 小児看護技術(演習) | | 小林 松野 | 演習 | アセスメント技術、 検査処置を受ける子どもと家族について 学習する(30分) | 事後課題で確認(30分) |
| 15 | 小児看護技術(演習) | | 小林 松野 | 演習 | | 演習後レポート提出(60分) |
| | 試験 | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 認知領域(知識):筆記試験(40%) 精神運動・情意領域(技術・態度):レポート課題(60%) | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| ナーシング・グラフィカ小児看護学 小児の発達と看護 / 第7版--メディカ出版,2023年,978-4-8404-7842-7 ナーシング・グラフィカ小児看護学 小児看護技術 / 第5版--メディカ出版,2023年,978-4-8404-7843-4 ナーシング・グラフィカ小児看護学 小児の疾患と看護 / 第3版--メディカ出版,2023年,978-4-8404-7844-1 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論/小児臨床看護総論,奈良間美保,医学書院 ・系統看護学講座 小児看護学〔2〕小児看護学各論,奈良間美保,医学書院 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 事前学習及び課題は講義内容に反映させる。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 病棟における職務経験から症状・疾患を持つ子どもへの理解と対応、アセスメントに必要な思考力・実践力が身につけられるよう授業を展開していく。 | | | | | |
| 備考 | 開始時の双方向システムによる出席確認を行う。欠席した場合は、登校後資料を取りに来る。質問はクラスルームに投稿、または直接声をかけてください。質問に対する回答は随時行います。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|---|----------------------|------|----|---|-----------------|
| 小児看護学実習 | | 松野ゆかり・他（代表教員 松野ゆかり） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 2年 後学期 | 2単位(60時間) | 実習 | | NNA522 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 松野ゆかり(看護師)小林まり子(看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 子どもの成長発達段階および子どもを取り巻く環境を理解し、子どもに応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| <p>保育施設： 健康な子どもの成長発達段階の特徴を説明できる。 成長発達段階に応じた養育を実践できる。 乳幼児に起こりうる事故を知り、適切な環境と予防対策について説明できる。 成長発達段階に応じた援助について看護の視点で考察できる。 子どもと家族にケアを提供する専門看護職としてふさわしい社会性及び態度をとることができる。</p> <p>病院・施設： 疾病・障害をもつ子どもと家族の特徴を説明できる。 疾病・障害をもつ子どもの成長発達段階と病状に応じた看護を説明できる。 小児の安全対策を理解し、起こりやすい事故の防止と感染防止を説明できる。 子どもや家族を支えるサービスや職種の違い、看護師の役割を説明できる。 子どもと家族にケアを提供する専門看護職としてふさわしい社会性及び態度をとることができる。</p> | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| | ・実習施設 | | | | | |
| | 保育施設、児童養護施設 | ～ | | | | |
| | 希望が丘子ども医療福祉センター、岐阜市民病院、長良医療センター | ～ | | | | |
| | ・実習方法 | | | | | |
| | 1.実習期間2週間のうち、1週間は保育施設実習、1週間は病院及び施設実習とする。 | | | | | 実習記録に準じて毎日記録する。 |
| | 2.小児実習の特徴的内容の事前学習を行う。 | | | | 事前学習 | |
| | 3.保育施設では、子どもとの関りを通して、成長発達と養護について学び、看護への視点を学ぶ。実習施設ごとの学びを学内で共有する。 | | | | <保育施設共通課題> *乳幼児の成長発達 ・乳幼児形態的特徴・運動機能・知的機能・コミュニケーション機能・情緒社会的機能・栄養 | |
| | 病院および施設では、原則患児一人受け持ち、対象にあった看護を理解する。 | | | | ・養育および看護(日常生活、遊び、事故防止、育児支援) ・成長発達評価 | |
| | 4.実習病院または施設にてオリエンテーションを受け、療養中の小児の特徴や環境を理解する。 | | | | <病院施設(共通)> ・学童期・思春期の特徴と看護 ・病気・障害を持つ子どもと家族の看護 ・小児の入院および外来における看護 | |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|---|------|----|----|--|------|
| | 5.カンファレンスで、対象児の全体像を把握する為に自分の疑問や意見を述べる。また、最終日には、小児看護学実習の学びと課題を明らかにする。 | | | | <その他> ・上記以外、小児看護学実習に必要と考える内容、または興味のある内容についての学習をノート1ページ以上追加する。 | |
| | | | | | ・ 病気・障害をもつ小児と家族の看護 | |
| | | | | | ・ 小児の入院及び外来における看護 | |
| | | | | | ・ 疾患及び症状看護 | |
| | | | | | ・ 小児看護技術 | |
| | | | | | ・ 障害児の福祉施策、法律、児童福祉施設 | |
| | | | | | ・ 障害のある小児と家族の看護 | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 目標到達度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。 | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| ナーシング・グラフィカ小児看護学 第7版第1刷 / 中野綾美--メディカ出版, 978-4-8404-7842-7 ナーシング・グラフィカ小児看護学 第5版第1刷 / 中野綾美--メディカ出版, 978-4-8404-7843-4 ナーシング・グラフィカ小児看護学 第3版第1刷 / 中野綾美--メディカ出版, 978-4-8404-7844-1 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・発達段階からみた小児看護過程+病態関連図、石黒彩子, 医学書院 ・根拠と事故防止からみた小児看護技術、浅野みどり, 医学書院 ・系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論/小児臨床看護総論, 奈良間美保, 医学書院 ・系統看護学講座 小児看護学〔2〕小児看護学各論, 奈良間美保, 医学書院 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 実習記録は添削し指導する。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 看護師の職務経験から、子どもの発達段階・環境を理解し、疾病障害を持つ子どもと家族に必要な看護を実践できる基礎的能力が身につくよう教授する。 | | | | | |
| 備考 | 履修前提条件：小児看護概論、小児看護活動論 の単位を修得済みであること。 感染症(水痘、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎)の抗体価が規定値に満たない場合は予防接種を受けていること。 インフルエンザについても該当期に予防接種を受けていること。 保育施設実習前に検便を実施し、細菌検査結果陰性である事。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|--|----------------|------|----|--|--|
| 母性看護学概論 | | 山内久美子 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 1年 後学期 | 1単位(15時間) | 講義 | | NNA223 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 山内久美子(助産師・看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 母性看護の基盤となる概念・法律と制度・母性看護の対象を取り巻く社会の変遷を踏まえ、女性のライフサイクル各期における特徴と看護・今後の課題を学び、母性各期の対象に応じた看護を展開するための基礎的能力を養う。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 母性看護の基盤となる概念・理論を説明できる。 母子保健に関する法律・母子保健行政と母子保健の動向を説明できる。 生殖に関する生理とセクシュアリティについて説明できる。 女性のライフサイクル各期における心身及び社会的特徴と健康問題及び看護を説明できる。 母子保健における課題とヘルスケアを説明できる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | ・母性の概念：母性とは、父性とは、母性の身体的・心理的・社会的特徴 ・母性看護に関する理論：母子相互作用，愛着理論，母子関係と家族の発達，ウェルネス看護論 | | 山内 | 講義 | 「母性とは」・「母子相互作用」についてテキストを読んでおく(120分) | 「母性とは」・「母子相互作用」についてまとめる(120分) |
| 2 | ・ジェンダー，セクシュアリティ，リプロダクティブヘルス/ライツ，ヘルスプロモーション(セックス，ジェンダー)；セクシュアリティに関するGW・発表) ・母性看護の役割，母性看護における倫理，母性看護における安全・事故防止 | | 山内 | 講義 | 「セックス・ジェンダー・セクシュアリティ」に関する自己の考えをまとめて授業に参加する(120分) | 「セックス・ジェンダー・セクシュアリティとは」についてまとめる(120分) |
| 3 | 母子保健の歴史的変遷・母子保健の動向 母子保健に関する法律 | | 山内 | 講義 | 「母子保健法」・「労働基準法(母子関係)」のまとめ作成(120分) | 母子保健の動向 母子保健に関する法律に関する国家試験問題解説学習(120分) |
| 4 | 母子保健に関する組織と施策，周産期医療ネットワーク，母性看護におけるチーム医療，今後の課題 | | 山内 | 講義 | 周産期医療ネットワークについてまとめる(120分) | ・母子保健の動向，母子保健に関する法律，母子保健に関する組織と施策，周産期医療ネットワーク，母性看護におけるチーム医療に関する国家試験問題解説学習・提出(120分) |
| 5 | 思春期女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 ・思春期女性のライフサイクル各期における心身及び社会的特徴・健康問題と看護 | | 山内 | 講義 | 「性ホルモンの働き」についてまとめる(120分) | 思春期に関する国家試験問題解説学習(120分) |
| 6 | ・成人期・更年期・老年期女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 ・成人期・更年期・老年期女性のライフサイクル各期における心身及び社会的特徴・健康問題と看護 | | 山内 | 講義 | 「成人期・更年期・老年期の特徴」についてテキストを読んでおく(120分) | 女性のライフサイクル各期における心身及び社会的特徴・健康問題に関する国家試験問題解説学習・提出(120分) |
| 7 | ・リプロダクティブヘルスケア：家族計画，人工妊娠中絶と看護，遺伝相談と看護，不妊治療と看護 | | 山内 | 講義 | 「人工妊娠中絶・不妊治療」に関する自己の意見をまとめる(120分) | 「家族計画・人工妊娠中絶・遺伝相談・不妊治療」に関する国家試験問題解説学習(120分) |
| 8 | ・リプロダクティブヘルスケア：喫煙女性の健康と看護，性暴力を受けた女性に対する看護，児童虐待と看護，性感染症と看護，国際化社会と看護，災害時の看護， | | 山内 | 講義 | 性感染症と看護，国際化社会と看護，災害時の看護についてテキストを読んでまとめる(120分) | 「家族計画，人工妊娠中絶，遺伝相談，不妊治療，性暴力を受けた女性に対する看護，児童虐待と看護，性感染症と看護」に関する国家試験問題解説学習・提出(120分) |
| | 筆記試験 | | | | | |

| 評価基準・評価方法 | |
|---|---|
| 認知領域（知識）：レポート等の課題（30%）、筆記試験（60%） 精神運動領域（技術・態度）：事前学習の発表・授業参加状況（10%） | |
| 使用教科書 | |
| 母性看護学概論（母性看護学1） / 森 恵美ほか.--第14版--医学書院，2023年，978-4-260-04225-3 | |
| 参考図書 | |
| 厚生労働統計協会：国民衛生の動向 2024/2025年 その他講義の中で提示します。 | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 事前学習課題は、授業中のグループワーク等で発表する。事後学習レポートは指定に期日までに提出してください。評価を行います。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 「母性看護における倫理，母性看護における安全・事故防止，母子保健に関する組織と施策，周産期医療ネットワーク，母性看護におけるチーム医療，災害時の看護」に助産師としての勤務経験を生かして講義する。 |
| 備考 | 講義順及び内容・評価基準がレポート課題の追加等により、変更になる場合があります。 |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|--|---------------------------------------|------|----|---------------------------|-------------------------------|
| 母性看護活動論 | | 田中季果・加納有希子・平野聡子（代表教員 田中季果） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 2年 前学期 | 2単位(30時間) | 講義 | | NNA424 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)の達成に寄与している。 | | 田中季果(助産師・看護師)、加納有希子(助産師・看護師)、平野聡子(医師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 女性のライフサイクルにおける妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある人と家族の健康を支えるために必要な看護を学ぶ。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| <p>妊娠期の看護について説明できる。 分娩期の看護について説明できる。 産褥期の看護について説明できる。 新生児期の看護について説明できる。 母子関係・親子関係・家族関係をはぐくむための支援を説明できる。 正常から逸脱した対象の看護を説明できる。</p> | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 妊娠期の看護：妊娠の定義，妊婦の特徴，妊娠期の母児のアセスメント（NST他） | | 加納 | 講義 | 妊娠期の母児のアセスメントの要点の予習（120分） | 妊娠期の母児のアセスメントの要点のまとめ（120分） |
| 2 | 妊娠期の看護：妊娠期の健康課題に基づいた妊婦の看護 | | 加納 | 講義 | 妊婦の看護の要点の予習（120分） | 妊婦の看護に関する国家試験問題の解説学習・提出（120分） |
| 3 | 妊娠期の看護：妊婦の心理、社会的特性 妊婦が受ける母子保健サービス | | 加納 | 講義 | 妊婦の心理・社会的特徴の予習（120分） | 産婦の心理・社会的特徴のまとめ（120分） |
| 4 | 分娩期の看護：分娩期の定義，分娩の経過，産婦の特徴，分娩各期の母児のアセスメント | | 田中 | 講義 | 分娩期の身体的・心理的特徴の予習（120分） | 産婦の身体的・心理的特徴のまとめ（120分） |
| 5 | 分娩期の看護：分娩各期の母児のアセスメントに基づいた看護 | | 田中 | 講義 | 分娩期の看護の要点の予習（120分） | 産婦の看護に関する国家試験問題の解説学習・提出（120分） |
| 6 | 産褥期の看護：産褥期の定義，褥婦と家族の特徴（進行性変化・退行性変化） | | 加納 | 講義 | 褥婦と家族の特徴の予習（120分） | 褥婦と家族の特徴のまとめ（120分） |
| 7 | 産褥期の看護：褥婦と家族のアセスメント | | 加納 | 講義 | 褥婦と家族のアセスメントの予習（120分） | 褥婦と家族のアセスメントのまとめ（120分） |
| 8 | 産褥期の看護：入院中の褥婦の看護 | | 加納 | 講義 | 入院中の褥婦の看護の予習（120分） | 入院中の褥婦の看護のまとめ（120分） |
| 9 | 産褥期の看護：入院中・退院後の褥婦の看護 | | 加納 | 講義 | 入院中・退院後の褥婦の看護の内容の予習（120分） | 褥婦の看護に関する国家試験問題の解説学習・提出（120分） |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|--|---|------|----|----|--|--|
| 10 | 新生児の看護：新生児の定義，新生児の特徴，新生児の観察と計測 | | 田中 | 講義 | 新生児の特徴，新生児の観察と計測の予習（120分） | 新生児の特徴，新生児の観察と計測のまとめ（120分） |
| 11 | 新生児の看護：出生直後～24時間以内のアセスメント・看護 | | 田中 | 講義 | 出生直後～24時間以内の看護の予習（120分） | 出生直後～24時間以内の看護のまとめ（120分） |
| 12 | 新生児の看護：生後1日～退院までのアセスメント・看護 | | 田中 | 講義 | 生後1日～退院までの看護の予習（120分） | 新生児の看護に関する国家試験問題の解説学習・提出（120分） |
| 13 | 正常から逸脱した妊婦・産婦・褥婦・新生児の特徴、検査、治療 | | 平野 | 講義 | 正常から逸脱した妊婦・産婦・褥婦・新生児の特徴、検査、治療の予習（120分） | 正常から逸脱した妊婦・産婦・褥婦・新生児の特徴、検査、治療のまとめ（120分） |
| 14 | 正常から逸脱した妊婦・産婦の看護 | | 田中 | 講義 | 正常から逸脱した妊婦・産婦の看護の予習（120分） | 正常から逸脱した妊婦・産婦の看護のまとめ（120分） |
| 15 | 正常から逸脱した褥婦・新生児の看護 | | 田中 | 講義 | 正常から逸脱した褥婦・新生児の看護の予習（120分） | 正常から逸脱した妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護に関する国家試験問題解説学習・提出（120分） |
| | 試験（筆記） | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 認知領域（知識）：課題・レポート内容（30%），筆記試験（60%） 精神運動・情意領域（技術・態度）：レポート提出・意見発表等の参加度（10%） | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 母性看護学各論（母性看護学2） / 森恵美ほか.--第14版--医学書院，2024年，978-4-260-04223-9 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・太田操編：ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程，第3版，医歯薬出版，2021年，ISBN978-4-263-23687-1 ・医療情報科学研究所編：病気が見えるvol.10 産科，第4版，メディックメディア，ISBN978-4-89632-713-7 ・平澤美恵子他：新訂版写真でわかる母性看護技術アドバンス，インターメディカ，2020年，ISBN978-4-89996-410-0 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 各回の授業計画参照 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 助産師としての実務経験を生かして妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある人と家族の健康を支えるために必要な看護を教授する。 | | | | | |
| 備考 | 質問等については、次の講義等で説明し、フィードバックします。講義順及び講義担当者が変更になる場合があります。さらに評価基準が変更になる場合があります。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|----------------------------------|---------------|------|----|-------------------------|--|
| 母性看護活動論 | | 田中季果 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 2年 後学期 | 1単位(30時間) | 演習 | | NNA525 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)の達成に寄与している。 | | 田中季果(助産師・看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 母性看護の対象に応じた看護を実践するための観察・援助技術の習得について学習する。また、母性看護の対象の看護実践を行うための「科学的な思考」について正常経過をたどる褥婦と新生児の事例の展開を通して学習する。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 母性看護の実践に必要な妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護技術を習得する。正常経過をたどる褥婦と新生児の看護過程の展開をとおして科学的な思考ができる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | ウエルネス看護診断に基づく看護過程の概要 事例紹介 | | 田中 | 演習 | | 事例の読み込み (60分) |
| 2 | 妊娠期のアセスメント | | 田中 | 演習 | 妊娠期のアセスメントの作成(30分) | 妊娠期のアセスメント修正・提出(30分) |
| 3 | 分娩期のアセスメント | | 田中 | 演習 | 分娩期のアセスメントの作成(30分) | 分娩期のアセスメントの修正・提出(30分) |
| 4 | 産褥1日目の褥婦アセスメント | | 田中 | 演習 | 産褥1日目の褥婦のアセスメントの作成(30分) | 産褥1日目の褥婦のアセスメントの修正・提出(30分) |
| 5 | 生後1日目の新生児のアセスメントと2日目の母児の看護計画 | | 田中 | 演習 | 生後1日目の新生児のアセスメント作成(30分) | 生後1日目の新生児のアセスメント・2日目の母児の看護計画作成・提出(30分) |
| 6 | 産褥3日目の褥婦のアセスメント | | 田中 | 演習 | 産褥3日目の褥婦のアセスメントの作成(30分) | 産褥3日目の褥婦のアセスメントの修正・提出(30分) |
| 7 | 生後3日目の新生児のアセスメントと4日目の母児の看護計画 | | 田中 | 演習 | 生後3日目の新生児のアセスメント作成(30分) | 生後3日目の新生児のアセスメント・4日目の母児の看護計画作成・提出(30分) |
| 8 | 帝王切開を受けた褥婦・新生児の1日目の看護 | | 田中 | 演習 | 帝王切開当日の母児のアセスメント予習(30分) | 帝王切開後1日目の褥婦と新生児の看護の要点のまとめ(30分) |
| 9 | 妊婦の観察・アセスメント技術 (レオポルド触診法・NST) | | 田中 | 演習 | レオポルド触診法・NST援助計画作成(30分) | レオポルド触診法・NST援助計画修正・提出(30分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|---|------|----|----|-------------------------------|----------------------------------|
| 10 | 産婦の観察・アセスメント技術 (産痛緩和) | | 田中 | 演習 | 動画視聴(30分) | |
| 11 | 褥婦の観察・アセスメント技術 (退行性変化の観察) | | 田中 | 演習 | 褥婦の退行性変化の観察の援助計画作成(60分) | 褥婦の退行性変化の観察の援助計画修正・提出(30分) |
| 12 | 褥婦の観察・アセスメント技術 (進行性変化の観察・授乳指導) | | 田中 | 演習 | 褥婦の進行性変化の観察・授乳指導の援助計画作成(60分) | 褥婦の進行性変化の観察・授乳指導の援助計画修正・提出(30分) |
| 13 | 新生児の観察・アセスメント技術 (バイタルサイン・全身の観察、諸計測) | | 田中 | 演習 | 新生児のバイタルサイン・全身の観察の援助計画作成(60分) | 新生児のバイタルサイン・全身の観察の援助計画修正・提出(30分) |
| 14 | 新生児の看護技術(沐浴) | | 田中 | 演習 | 新生児の沐浴の援助計画作成(30分) | 新生児の沐浴の援助計画修正・提出(30分) |
| 15 | 帝王切開を受けた褥婦の看護 (第一歩行時の観察と看護) | | 田中 | 演習 | 動画視聴(30分) | |
| | 試験(筆記試験・沐浴技術試験) | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 認知領域(知識): 筆記試験(40%), メモノート(15%), 母性看護技術援助計画書(15%), 看護過程レポート(20%) 精神運動・情意領域(技術・態度): 母性看護技術(沐浴)試験(10%) | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 母性看護学各論(母性看護学2) / 森 恵美ほか.--第14版--医学書院, 2023年, 978-4-260-04223-9 根拠がわかる母性看護過程 / 中村幸代ほか.--第1版--南江堂, 2023年, 978-4-524-25513-9 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| ・平澤美恵子他: 新訂版写真でわかる母性看護技術アドバンス, インターメディカ, 2020年, ISBN978-4-89996-410-0 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 各回の授業計画参照 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 助産師としての実務経験を生かして母性看護の実践に必要な妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護技術を指導する。 | | | | | |
| 備考 | 質問等については、次の講義等で説明し、フィードバックします。講義順及び講義担当者が変更になる場合があります。さらに評価基準が変更になる場合があります。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|--|---------------|------|----------|---|-------------------------------------|
| 母性看護学実習 | | 田中季果 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | 科目ナンバリング | | |
| 必修 | 2年 後学期 | 2単位(60時間) | 実習 | NNA526 | | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 田中季果(助産師・看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族の健康を支えるために必要な看護を学び、母子と家族を支える多職種の連携・協働を理解し、チームの一員としての看護の役割を学ぶ。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 受け持ち褥婦の妊娠期のアセスメントを説明できる。 受け持ち褥婦の分娩期のアセスメントを説明できる。 受け持ち褥婦のアセスメントと必要な看護を一部実施できる。 受け持ち新生児のアセスメントと必要な看護を一部実施できる。 母子関係・親子関係・家族関係をはぐくむための多職種の連携・協働を説明できる。 生命の尊厳・母子と家族の人権・プライバシーに配慮した行動をとることができる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| | 1. 褥婦と新生児を受け持ち、退行性変化・進行性変化促進、母親役割適応過程及び児の胎外生活適応のアセスメント・看護計画の立案・看護計画に基づいて受け持ち褥婦の退行性変化・進行性変化を促進する看護を指導者と共に一部実施・評価すると共に、新生児の観察・環境調整・沐浴等の看護計画を立案し、指導者と共に一部実施・評価する。 | | 田中 | 実習 | 褥婦の退行性変化・進行性変化促進、母親役割適応過程及び児の胎外生活適応のアセスメント・看護計画を立案し提出 | 看護計画に基づいて指導者と共に一部実施し、評価・考察をレポートし、提出 |
| | 2. 妊娠期から育児期の保健指導(母親学級・退院指導・沐浴指導、各種相談)の見学と見学記録における考察を行う。 | | 田中 | 実習 | 退院指導・沐浴指導等の指導の要点をテキストにて確認する | 見学した退院指導・沐浴指導等の結果・考察をレポートし提出 |
| | 3. NICUでは、長期・短期に医療依存度の高い子どもと家族に対する看護・治療に伴うストレスを軽減し、子どもの成長・発達を促進する環境づくりのための看護を見学し考察する。 | | 田中 | 実習 | NICUにおける看護の要点をまとめる | NICUにおいて見学した看護を考察し、レポートを提出 |
| | 4. 母子と家族に関わる医師・助産師・外来看護職員・地域の保健師・小児科など多職種の連携・協働の見学・説明を受ける看護の役割を考察する。 | | 田中 | 実習 | 母子と家族に関わる多職種の連携・協働の要点についてまとめる | 見学した母子と家族に関わる多職種の連携・協働を考察し、レポート提出 |
| | 5. 実習全体をとおして生命の尊厳への認識を深め、カンファレンスの発言・レポートに表現する。 | | 田中 | 実習 | 生命の尊厳・個人の尊厳を守るとはについて自己の考えをまとめておく | 生命の尊厳・個人の尊厳を守るとはについて自己の考えのレポート提出 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|--|------|----|----|------|------|
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 認知領域（知識）：評価表（認知領域部分） 精神運動・情意領域（技術・態度）：評価表（精神運動・情意領域部分） 合計100% | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 母性看護学各論（母性看護学2），第14版 / 森恵美ほか.--医学書院，2022年，978-4-260-04223-9 根拠がわかる母性看護過程，第5刷 / 中村幸代ほか.--南江堂，2023年，978-4-524-25513-9 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・医療情報科学研究所編：病が見えるvol.10 産科，第4版，メディックメディア，ISBN978-4-89632-713-7 ・平澤美恵子他：新訂版写真でわかる母性看護技術アドバンス，インターメディカ，2020年，ISBN978-4-89996-410-0 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 実習中及び学内日に説明・実施等の指導を行う。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 助産師として勤務した経験を生かして、妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族の健康を支えるために必要な看護を学び、母子と家族を支える多職種の連携・協働を理解し、チームの一員としての看護の役割を指導する。 | | | | | |
| 備考 | 母性看護学オリエンテーション及び各施設ごとの実習オリエンテーションの内容に基づいて、学習をすすめましょう。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|--|----------------------|------|----|--|--|
| 精神看護学概論 | | 三品弘司・出口睦雄（代表教員 三品弘司） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 2年 前学期 | 1単位(15時間) | 講義 | | NNA427 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 三品弘司(看護師)、出口睦雄(看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 精神看護学概論では、対象の個性を捉えられるように、各ライフステージにおける成長・発達課題の理解を深め、自我の防衛機能とストレスコーピングの考え方、また患者の自己対処能力について学習する。そして、より健康な社会生活を営むため、或いは精神の不健康状態からの回復を支えるための看護について、その意義、目的、方法等について学習する。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 対象の個性を捉えられるように、パーソナリティの発達過程と各ライフステージにおける成長・発達課題を理解し、自我の防衛機能とストレス・コーピングの考え方、患者の自己対処能力について説明できる。 対象を取り巻く環境として、精神保健の動向や現代のストレス社会の理解と現行の精神保健福祉法の目指す目的が説明できる。 精神障害を持つ対象への看護のアプローチに基本的な考え方を身に付けることができる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 精神的健康の定義 こころの健康とは | | 出口 | 講義 | | 精神的健康の定義を理解すること 精神看護と精神科看護の違いを理解すること(120分) |
| 2 | 患者処遇と精神保健福祉法の歴史的変遷 | | 出口 | 講義 | 意識・前意識・無意識の違いを調べること 防衛機制「合理化」「同一視」「昇華」「転換」について調べてくること(180分) | 講義で扱った防衛機制すべてを理解すること 「イド」「エゴ」「スーパーエゴ」の関係を理解すること(120分) |
| 3 | 精神障害の理解 脳の構造と認知機能 治療的環境の理解 | | 出口 | 講義 | 科書を参考に課題プリントの()を埋めてくること。(120分) | 精神医療の変遷の概要を理解すること。(120分) |
| 4 | 精神保健と法律 精神保健法について | | 出口 | 講義 | 入院形態(任意・医療保護・措置・緊急措置・応急)の違いについて調べてくること(120分) | 精神保健福祉法について理解すること(180分) |
| 5 | ライフサイクルにおける心の発達(フロイトの理論、マラーの理論、エリクソンの理論) | | 三品 | 講義 | | 各理論を理解すること(180分) |
| 6 | 危機的状況にある人の理解(ストレスと危機) | | 三品 | 講義 | 「バーンアウト」「アパシー」「青い鳥症候群」「空の巣症候群」について調べてくること(120分) | 各用語について覚えること ストレスマネジメントの考え方を理解すること(120分) |
| 7 | 精神障害の理解 治療的環境の理解 | | 三品 | 講義 | 閉鎖病棟・解放病棟の特徴について調べること(60分) | 精神医療の治療的環境について理解すること(120分) |
| 8 | 精神医療の現状と課題 | | 三品 | 講義 | 教科書記載の統計等の資料を見ること(120分) | 日本の精神医療について理解すること(120分) |
| | 筆記試験 | | | | | |

| 評価基準・評価方法 | |
|---|--|
| 小テスト（20％）、筆記試験（80％） | |
| 使用教科書 | |
| 新体系看護学全書 精神看護学 1 精神看護学概論・精神保健 / 岩崎弥生ほか.--第6版--メヂカルフレンド社, 2021年, 978-4-8392-3389-1 新体系看護学全書 精神看護学 2 精神障害をもつ人の看護 / 岩崎弥生ほか.--第6版--メヂカルフレンド社, 2021年, 978-4-8392-3390-7 | |
| 参考図書 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・武井麻子：精神看護学ノート 第2版, 医学書院, 2005年. ・舟島なをみ他：看護のための人間発達学 第5版, 医学書院, 2017年. ・末安民生他：系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 第3版, 医学書院, 2016年. | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業終了時に授業全体を振り返り、感想や考えたこと、質問等を「レスポンスカード」に記載して提出してもらおう。質問の内容は次回の授業で説明する。 ・提出したレポートや小テストは、授業時間内に講評のうえ、必要に応じて解説をする。 ・小テストを計2回実施する。(第1回：入院形態と精神保健福祉法第2回：防衛機制と発達理論(フロイト/エリクソン)) ・小テストの内容の詳細や期日、各講の予習・復習する教科書の該当ページは、第1講で詳細を説明する。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 精神科での実務経験のある看護師が、その経験を生かした講義を行うことで、精神看護に必要な基礎的な知識及び技術を身に付けさせる。 |
| 備考 | 授業中に携帯電話に触れる行為や飲食、他の学生に迷惑をかけるような行為を見かけた場合は、退室を命じ、かつ欠席扱いとする。 |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|------------------------------|--------------------------------------|-------|----|---|--|
| 精神看護活動論 | | 三品弘司・出口睦雄・川崎友香・佐川和代・森 敏幸 (代表教員 三品弘司) | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 2年 後学期 | 2単位(45時間) | 講義・演習 | | NNA528 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 三品弘司(看護師)、出口睦雄(看護師)、川崎友香(看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 精神看護活動論 では、精神疾患を理解し、看護の実践方法について学ぶ。そのために、まず、精神疾患あるいは状態ごとの症状の表れ方を理解し、問題解決に向けた具体的援助の方法について学習する。次いで、コミュニケーション技法や芸術療法などの演習を通し、精神看護の基礎的技術を習得する。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| <p>主な精神疾患とその看護について説明できる。 精神看護における観察の意義および視点を説明できる。 看護師-患者関係の意義について説明できる。 精神障害をもちながらもその人らしく生きることについてリカバリーの視点から考えることができる。 精神障害者の地域生活を支える保健医療福祉の実際について説明できる。 精神医療に携わる専門職とその役割と多職種連携における看護師の役割について説明できる。 関わりの場面の再構成を通して、そこで何が生じているのかを表現できる。(自己洞察の重要性が理解できる)</p> | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 統合失調症の理解と看護(1) | | 三品 | 講義 | 教科書 p72-77を読み、統合失調症の疫学、病因、症状、治療等を理解すること。(60分) | 教科書 p274-288を読み、統合失調症患者への看護実践を理解すること。授業の教授内容を復習すること。(60分) |
| 2 | 統合失調症の理解と看護(2) | | 三品 | 講義 | | 前回の事前・事後学習や授業で教授した内容を国試過去問題を利用しながら復習すること。(120分) |
| 3 | 気分障害の理解と看護(1) | | 出口 | 講義 | 教科書 p77-88を読み、気分障害の疫学、病因、症状、治療等を理解すること。(60分) | 教科書 p294-304を読み、気分障害患者への看護実践を理解すること。授業の教授内容を復習すること(60分) |
| 4 | 気分障害の理解と看護(2) | | 出口 | 講義 | | 前回の事前・事後学習や授業で教授した内容を国試過去問題を利用しながら復習すること。(120分) |
| 5 | 解離性障害の理解と看護 注意欠陥多動症の理解と看護 | | 出口 | 講義 | 教科書 p104-112を読み、解離性障害、身体症状の疫学、病因、症状、治療等を理解すること。(60分) | 教科書 p322-327を読み、注意欠如・多動性障害患者への看護実践を理解すること。授業の教授内容を復習すること。(60分) |
| 6 | 不安障害群の理解と看護 | | 出口 | 講義 | 教科書 p88-93までを読み、不安障害の疫学、病因、症状、治療等を理解すること。(60分) | |
| 7 | 強迫性障害の理解と看護 心的外傷の理解と看護 | | 出口 | 講義 | 教科書 p94-104までを読み、強迫性障害および心的外傷の疫学、病因、症状、治療等を理解すること。(60分) | 教科書 p328-333を読み、強迫性障害患者への看護実践を理解すること。授業の教授内容を復習すること。(60分) |
| 8 | パーソナリティ障害の理解と看護 | | 三品 | 講義 | 教科書 p130-147を読み、パーソナリティ障害およびその他の病因、症状、治療等を理解すること。(60分) | 講義で説明した内容を国試過去問題も利用しながら復習すること。(60分) |
| 9 | 物質関連障害の理解と看護(薬物・アルコール) | | 三品 | 講義 | 教科書 p122-129を読み、物質関連障害の病因、症状、治療等を理解すること。(60分) | 教科書 p305-310を読み、アルコール依存症患者への看護実践を理解すること。授業の教授内容を復習すること。(60分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|----|----------------------------------|------|-----------|----------|---|---|
| 10 | 摂食障害の理解と看護 睡眠覚醒障害の理解と看護 | | 出口 | 講義 | 教科書 p112-122を読み、摂食障害、睡眠覚醒障害の病因、症状、治療等を理解すること。(60分) | 教科書 p333-337を読み、摂食障害患者への看護実践を理解すること。授業の教授内容を復習すること。(60分) |
| 11 | 精神障害をもつ人への検査と治療 | | 出口 | 演習 | 教科書 p152-170を読み、精神疾患の主な治療法のうち、薬物療法と電気けいれん療法について理解すること。(60分) | 各疾患における薬物療法を復習すること。修正型電気けいれん療法について理解すること(60分) |
| 12 | 精神障害をもつ人への検査と治療 | | 出口 | 講義 | 教科書 p171-190を読み、精神疾患の主な治療法のうち、リハビリテーション療法と精神療法について理解すること。(60分) | |
| 13 | プロセスレコードの書き方(1) | | 出口 | 講義 演習 | 教科書 p215-223を読み、プロセスレコードについて目を通す。(60分) | プロセスレコードの加筆修正する。(120分) |
| 14 | プロセスレコードの書き方(2) | | 出口 | 演習 | | プロセスレコードの加筆修正する。(120分) |
| 15 | 当事者との交流会 | | 森三品 出口 | 講義 演習 | 教科書 p371-374「D.当事者の力を活かす相互作用」を読み、ピアについて理解する。(60分) | 精神医療保健福祉におけるリカバリーの考え方、ピア活動の目的と意義、地域でのピア活動の実際、交流会の感想をレポートにまとめて提出する。(60分) |
| 16 | 精神障害を持つ人のリカバリー | | 三品 | 講義 | 教科書 p15-18、教科書 p8-15, 19, 171, 196を読み、精神保健医療福祉におけるリカバリーとは何か整理してくる。(60分) | 予習内容および授業で教授した内容を国試過去問題も用いながら復習する。(60分) |
| 17 | 精神障害を持つ人の地域における生活への支援 | | 出口 | 講義 | 精神障害をもつ人の地域における生活への支援はどのようなものがあるかを意識しながら教科書 p356-386を読むこと。(60分) | 予習内容および授業で教授した内容を国試過去問題も用いながら復習する。(60分) |
| 18 | 司法精神医療と看護 | | 三品 | 講義 | 司法精神看護および災害看護について教科書 443-467を読み理解すること(60分) | 講義で説明した内容を国試過去問題も用いながら復習すること。(60分) |
| 19 | 災害時の精神看護 | | 出口 | 講義 | 司法精神看護および災害看護について教科書 443-467を読み理解すること(60分) | 講義で説明した内容を国試過去問題も用いながら復習すること。(60分) |
| 20 | 精神科病棟における事故防止・安全管理と倫理的配慮 | | 三品 | 講義 | 教科書 p258-274を読み、精神障害をもつ人の治療的環境と生活の場としての環境のあり方について理解する。また、精神障害をもつ人の入院および治療の特殊性とそこにある倫理的問題を理解する。(60分) | 講義で説明した内容を国試過去問題も用いながら復習すること。(60分) |
| 21 | 症状別看護 | | 三品 | 講義 | 妄想、意欲の低下、抑うつ、不安、希死念慮、多飲水など、各疾患の症状を把握して講義に臨むこと(60分) | |
| 22 | シミュレーション演習 メンタルステータスイグザミネーション | | 出口 | | 教科書や授業プリントを読み、統合失調症(急性期)の理解を深めること(120分) | |
| 23 | リエゾン精神看護 精神科医療における多職種連携 | | 川崎 | 講義 | 教科書 p428-442を読み、リエゾン精神看護について目を通す 予習資料・教科書 p381-386を読み、精神科医療における各職種の役割について目を通す。(60分) | リエゾン看護に関するレポート課題(120分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|--|------|----|----|------|------|
| | 定期試験 | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 認知領域（知識）： 最終試験で評価する。（70%） 精神運動・情意領域（技術・態度）：「演習参加状況」「レポート」で評価（20%）、小テスト（10%） | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 新体系看護学全書 精神看護学 1 精神看護学概論・精神保健--第6版--2021年 / 岩崎弥生ほか.--メヂカルフレンド社, 978-4-8392-3389-1 新体系看護学全書 精神看護学 2 精神障害をもつ人の看護--第6版--2021年 / 岩崎弥生ほか.--メヂカルフレンド社, 978-4-8392-3390-7 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| ・上島国利：最新図解 やさしくわかる最新医学, ナツメ社, 2017年, 978-4816362682. ・末安民生他：系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 第3版, 医学書院, 2016年, 978-4260021852. 他の図書は授業内で紹介する | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業終了時に授業全体を振り返り、感想や考えたこと、質問等を「レスポンスカード」に記載して提出してもらおう。質問の内容は次回の授業で説明する。 ・提出したレポートや小テストは、授業時間内に講評のうえ、必要に応じて解説をする。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 精神科での実務経験のある看護師が、その経験を生かした講義を行うことで、精神看護に必要な基礎的な知識及び技術を身に付けさせる。 | | | | | |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・出席確認は、パトグラと「レスポンスカード」にて行う。出席カードの代筆や途中退室は、欠席扱いとする。 ・授業中に携帯電話に触れる行為や飲食、他の学生に迷惑をかけるような行為を見かけた場合は、退室を命じ、かつ欠席扱いとする。 ・小テストを計2回実施する。（第1回：統合失調症、第2回：気分障害） ・小テストの内容の詳細や期日、各講の予習・復習する教科書の該当ページは、第1講で詳細を説明する。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|---|-------------------------|-------|----------|---|--|
| 精神看護活動論 | | 三品弘司・出口睦雄（代表教員 三品弘司） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 3年 前学期 | 1単位(15時間) | 講義・演習 | | NNA729 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 三品弘司（看護師・保健師）、出口睦雄（看護師） | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| <p>精神看護活動論 では、精神科看護における看護過程の展開方法についてオレム・アンダーウッド理論とストレングスモデルを用いながら事例を実際に展開し、対象を理解するためのアセスメント、患者の夢や希望、そしてストレングスを用いた看護援助計画の立案を行う能力を習得する。</p> <p>また、精神の健康障害をもつ人との治療的関係を築くための必要な援助を修得し、その人らしく地域で生活できるためのリカバリーを大切に支援の在り方について理解する。</p> | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達段階を踏まえた対象者のアセスメントができる。 2. 精神症状が日常生活に与える影響についてアセスメントができる。 3. オレム・アンダーウッド理論に基づいた看護展開が説明できる。 4. 精神科におけるリカバリーのあり方について説明できる。 5. 精神疾患およびその疾患を有する患者への看護について説明できる。 6. プロセスレコードを通して自分の言動を考察し、コミュニケーション能力の向上を図ることができる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | オレム・アンダーウッド理論 / 普遍的セルフケア要素の視点とアセスメントの考え方 | | 三品 | 講義 | オレム・アンダーウッド理論とセルフケア要素の説明を読むこと。（教科書 p238-247）（60分） | オレム・アンダーウッド理論とセルフケア要素について復習すること。（教科書 p238-247、授業資料）（60分） |
| 2 | 統合失調症患者の看護過程展開（1） 発達の特性についての解説 | | 三品 | 講義 演習 | 発達の特性についての分析をしていくこと。（180分） | 発達の特性についてのレポートを修正すること（120分） |
| 3 | 統合失調症患者の看護過程展開（2） 疾病の特性についての解説 | | 三品 | 講義 演習 | 疾患の特性についての分析をしていくこと。（180分） | 疾患の特性についてのレポートを修正すること（120分） |
| 4 | 統合失調症患者の看護過程展開（3） セルフケア要素 各項目の解説 | | 三品 | 講義 演習 | オレム・アンダーウッド理論を用いて情報整理・分析をしていくこと。（180分） | セルフケアの各項目についてのレポートを修正すること（120分） |
| 5 | 統合失調症患者の看護過程展開（4） セルフケア要素 各項目の解説 | | 三品 | 講義 演習 | オレム・アンダーウッド理論を用いて情報整理・分析をしていくこと。（180分） | セルフケアの各項目についてのレポートを修正すること（120分） |
| 6 | 統合失調症患者の看護過程展開（5） ストレングスモデルを用いた看護展開の解説 | | 三品 | 講義 演習 | ストレングスモデルを用いて普遍的セルフケア要素の査定と情報の統合を行うこと。（180分） | レポートの加筆修正をして提出する。（120分） |
| 7 | プロセスレコードを用いた自己分析（1） | | 出口 | 演習 | プロセスレコードの書き方を理解しておくこと。（教科書 pp215-223、精神看護活動論 授業資料）（60分） | レポートの加筆修正をして提出する。（60分） |
| 8 | プロセスレコードを用いた自己分析（2） | | 出口 | 演習 | | レポートの加筆修正をして提出する。（60分） |
| | 定期試験 | | | | | |

| 評価基準・評価方法 | |
|--|--|
| 認知領域（知識）： 最終試験で評価する。（60%） 精神運動・情意領域（技術・態度）： レポート・態度で評価する。（40%） | |
| 使用教科書 | |
| 新体系看護学全書 精神看護学 1 精神看護学概論・精神保健--第6版--2021年 / 岩崎弥生ほか.--メヂカルフレンド社, 978-4-8392-3389-1 新体系看護学全書 精神看護学 2 精神障害をもつ人の看護 --第6版--2021年 / 岩崎弥生ほか.--メヂカルフレンド社, 978-4-8392-3390-7 | |
| 参考図書 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 菅間真美：リハビリ・退院支援・地域連携のためのストレスモデル活用術, 医学書院, 2016年, 978-4260027984. ・ 菅間真美：パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護 第2版, 照林社, 2015年, 978-4796523417. 他の図書は授業内で紹介する。 | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業終了時に授業全体を振り返り、感想や考えたこと、質問等を「レスポンスカード」に記載して提出してもらおう。質問の内容は次回の授業で説明する。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 精神科での実務経験のある看護師が、その経験を生かした講義を行うことで、精神看護に必要な基礎的な知識及び技術を身に付けさせる。 |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 出席確認は、「レスポンスカード」にて行う。レスポンスカードの代筆や途中退室は、欠席扱いとする。 ・ 授業中に携帯電話に触れる行為や飲食、他の学生に迷惑をかけるような行為を見かけた場合は、退室を命じ、かつ欠席扱いとする。 |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|--|---------------------|------|----|---|-------------|
| 精神看護学実習 | | 三品弘司・他（代表教員 三品弘司） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 3年 前学期 | 2単位(60時間) | 実習 | | NNA730 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 三品弘司(看護師) 出口睦雄(看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 精神疾患によって、日常生活や対人関係に困難をきたしている対象を受け持ち、オレム・アンダーウッド理論を用いて看護過程を展開していく。対象者との関わりを通して対象・自己理解を深め、その人らしい生活が送れるための援助方法や社会復帰に向けての働きかけについて学び、精神看護の役割および機能を理解する。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 精神健康上の問題が、対象の身体・行動・対人関係にどのように表れているのか状況理解を深める。その理解に基づいて、対象者の抱えている課題や問題の解決に向けた個別性のある看護を実践することができる。 精神に障害を持つ人への治療の実際と治療上必要な看護の実際を説明できる。 対象者への関わりを通して、自己の関わりを振り返り、援助技術としてのコミュニケーションのあり方を述べるができる。 地域における精神障害者の生活の自立や社会参加を支援するための方法について学び、看護職に求められる役割と援助方法について説明できる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| | ・実習施設 | | | | (1)以下の疾患の理解 統合失調症(急性期、慢性期) | 実習記録をまとめること |
| | 岐阜大学医学部附属病院、黒野病院、のぞみの丘ホスピタル | | | | 気分〔感情〕障害(双極性障害〔躁うつ病〕、単極性障害〔うつ病]) | カンファレンスの準備 |
| | ・実習方法 | | | | 摂食障害(神経性やせ症、神経性過食症) 境界性パーソナリティ障害 | |
| | 1. 学生40名を1グループ3～4名で編成し、3医療機関のいずれかの精神科病棟で2週間実習を行う。 | | 三品 | 実習 | (2)電気けいれん療法(ECT) 修正型電気けいれん療法(m-ECT)も調べる | |
| | 2. 実習についてオリエンテーション(施設などの概要、諸注意、事前学習等)を受ける。 | | 三品 | 実習 | (3)精神保健福祉法(入院形態、精神保健指定医、特定医師、隔離・身体拘束、 | |
| | 3. 事前学習は、精神障害と法制度、主な精神疾患の治療と看護、地域で精神障害者を支援するための制度について紙面にて課題の提示を行う。 | | 三品 | 実習 | 精神障害者保健福祉手帳制度、通信・面会の自由、 | |
| | 4. 対象者を学生1～2名で受け持ち、対象者の現在の心理状態や日常生活について関心を持ち、 | | | | 守秘義務、退院請求と処遇改善を求める権利 | |
| | 対象者と関わる中で捉えた事柄について、実習指導者や教員の助言を受けながら、対象者の症状やリカバリー、ストレングスを理解する。 | | 三品 | 実習 | (4)精神科デイケア | |
| | 5. 学生は、実習病棟の特徴を理解し、対象者のニーズに即した看護過程(ケアプランに基づく)の展開やレクリエーション活動を実施する。 | | 三品 | 実習 | (5)障害者総合支援法のサービス事業 地域活動支援センター | |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|---|------|----|----|-----------------------|------|
| | 6. 対象者への関わりを通して、自己の関わりをプロセスレコードを使用しながら振り返る。 | | 三品 | 実習 | 自立訓練（生活訓練）の「宿泊型」「通所型」 | |
| | 7. 精神障害者が社会復帰するための社会資源や看護の役割・援助を実際に見学し、理解する。 | | 三品 | 実習 | | |
| | 8. 学生は、適時、各実習場所でカンファレンスを行う。内容は、教員、実習指導者とともに対象の理解、関わり方などについて行う。 | | 三品 | 実習 | | |
| | 9. 臨地実習最終日は、実習指導者、教員とともにまとめの会で2週間の実習の学びについて振り返る。 | | 三品 | 実習 | | |
| | 10. 学生は、学内でグループ討議、発表、まとめを行い、実習目標に対する達成状況や学びを共有し、レポートにまとめ、提出する。 | | 三品 | 実習 | | |
| | 詳細は、実習オリエンテーションで説明します | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 目標到達度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。 | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 新体系 看護学全書 精神看護学 精神看護学概論 精神保健 / 岩崎弥生他.--第6版--メヂカルフレンド社, 2021年, 978-4-8392-3389-1 旧体系 看護学全書 精神看護学 精神障害をもつ人の看護 / 岩崎弥生他.--第6版--メヂカルフレンド社, 2021年, 978-4-8392-3390-7 精神医学ハンドブック - 医学・保健・福祉の基礎知識 / 山下格.--第7版--日本評論社, 2010年, 978-4535983335 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・菅間真美：精神看護第2版（パーフェクト臨床実習ガイド），照林社，2015年。 ・長谷川雅美：自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード - プロセスレコードが書ける、読める、評価できる本第2版，日総研，2017年。 ・田中美恵子編著：精神看護学 学生-患者のストーリーで綴る実習展開 第2版，医歯薬出版株式会社，2015年。 ・山本勝則他：看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 第2版，メヂカルフレンド社，2015年。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 分からないことがあれば、担当教員もしくは臨地実習指導者に聞いてください。その都度、対応します。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 精神科での実務経験のある看護師が、その経験を生かして臨地実習の指導をすることで、精神看護に必要な基礎的な知識及び技術を身に付けさせる。 | | | | | |
| 備考 | 履修前提条件：【看護の原理と基礎】全科目と精神看護学概論および精神看護活動論 の単位を修得済みであること。また、精神看護活動論 を履修登録済みであること。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|---|--|-------|----------|---|--|
| 課題研究 | | 熊田ますみ・眞田正世・三品弘司・鷲見真里（代表教員 熊田ますみ） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | 科目ナンバリング | | |
| 必修 | 3年 後学期 | 1単位(15時間) | 講義・演習 | NIP801 | | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 熊田ますみ(看護師)、眞田正世(看護師)、三品弘司(保健師・看護師)鷲見真里(司書) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 看護研究を行うための研究の目的・目標及びプロセスを学び、看護領域における研究の概要と研究の方法を理解し、看護研究をクリティークできる能力を養う。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 看護領域における研究の目的・目標・研究倫理・方法を説明できる。 文献リスト・文献カードの作成ができる。 関心のある看護研究論文を読み、クリティークできる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 1. 看護研究とは何か 2. 看護研究の手順 3. 看護研究のクリティークとは | | 眞田 | 講義 | 領域別実習で興味や関心を持った内容についてまとめ、講義に臨む(120分) | 1. 看護研究の手順について講義内容を振り返りまとめる 2. 看護研究のクリティークについての事例を読み返し、理解を深める(120分) |
| 2 | 研究方法(質的研究・量的研究) | | 熊田 | 講義 | テキストの該当箇所を熟読する | 講義資料を振り返り、質的研究・量的研究をまとめる(120分) |
| 3 | 研究方法(看護研究計画書作成、看護研究の倫理的問題) | | 熊田 | 講義 | テキストの該当箇所を熟読する(120分) | 看護研究計画書に必要な構成要素と内容および倫理的問題について理解する(120分) |
| 4 | 研究方法(研究のまとめと研究発表) | | 熊田 | 講義 | テキストの該当箇所を熟読する(120分) | 研究方法についてまとめる(120分) |
| 5 | 文献検索の方法 | | 鷲見 | 演習 | 関心のある看護研究のテーマについて考え、まとめて演習に臨む(120分) | 関心のある看護研究のテーマについて文献検索を行う(120分) |
| 6 | 文献検索の実際 | | 三品 | 講義演習 | 関心のある看護研究テーマを1つに絞り込み、演習に臨む(120分) | 1つに絞り込んだ関心のある看護研究の文献検索を行う(120分) |
| 7 | 文献リスト・文献カード作成 | | 三品 | 講義演習 | 関心のある看護研究の検索上の課題を講義で質問できるように考える(120分) | 関心のある看護研究について文献を検索し、3題以上の文献カードを作成し、提出をする。(120分) |
| 8 | 看護研究のクリティーク | | 眞田 | 講義演習 | 関心ある看護研究について、クリティークする1題を抽出をし講義に臨む。(60分) | 抽出した1題の看護研究についてクリティークし、所定の記録用紙に記載し、提出をする。(180分) |
| | 文献リスト提出 看護研究のクリティーク提出 | | | | | |

| 評価基準・評価方法 | |
|--|--|
| 看護研究のクリティーク（50％）文献リスト（40％） 演習への参加態度（10％） | |
| 使用教科書 | |
| 基本がわかる 看護研究ビギナーズNOTE2020, / 古橋洋子.--学研メディカル秀潤社 2020, 2020年, ISBN978-4-7809-1394-1 | |
| 参考図書 | |
| 黒田裕子：黒田裕子の看護研究Step by Step 第3版、学研 | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 教科書と配布資料で講義する。質問に対しては次回の講義で対応する。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 臨床で行われている看護研究を資料として使いながら、講義する。 |
| 備考 | 専門分野の教員が、講義と演習形式で指導する。講義の進行上、授業内容・担当者が変更することがある。 |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|---|--------------------------------|-----------|-------|----------|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 安全管理論 | | 眞田正世 | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | 科目ナンバリング | | |
| 必修 | 2年 後学期 | 1単位(15時間) | 講義・演習 | NIP502 | | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 眞田正世(看護師) | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| <p>医療の質と安全の確保は、患者、医療従事者をはじめとする多くの国民が願っていることである。近年、医療の安全確保に対する人々の関心が高くなり、医療安全は医療界の最優先課題となっている。看護の主要な業務である日常生活援助や診療の補助技術などは、行為の最終実施者となることが多く、看護にとって医療安全や医療事故防止について修得することは必須である。まず医療安全管理を学ぶ意義を理解し、その上で人間がおこすエラーについての理解し、看護業務と医療事故との関連を学び、国、組織、個人における医療事故防止対策について学ぶ。医療事故やインシデントの分析手法を理解し、看護におけるKYTを行うことで、医療事故防止の感性を養う。また、多くの看護に関連した医療事故やインシデントを知ることで、臨場感のある医療事故防止について学ぶ。また、感染防止対策も医療事故防止の一つとして学ぶ。</p> | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| <p>知識： 医療安全の基本的考え方と医療事故防止について述べるができる。 技術： 医療事故の分析手法やKYTを活用し、考察することができる。 態度： 医療安全管理に興味を持ち、取り組む姿勢を持つことができる。</p> | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 医療安全を学ぶ意義 | | 眞田 | 講義 | 医療事故のニュースを調査し、発表できるようにする(120分) | 医療安全を学ぶ意義についてまとめる(60分) |
| 2 | 医療事故とヒューマンエラー | | 眞田 | 講義演習 | 日常生活で自己がおこす間違いをまとめてくる(120分) | ヒューマンエラーとは何かをまとめる(60分) |
| 3 | ヒューマンエラーの原因 | | 眞田 | 講義演習 | ヒューマンエラーについて復習する(60分) | 医療事故とヒューマンエラーの関係をレポートし、提出する(180分) |
| 4 | 医療事故と看護業務 | | 眞田 | 講義 | 看護の役割と看護業務についてまとめる(60分) | 看護業務と医療事故との関連についてレポートし、提出する(180分) |
| 5 | 医療事故防止の考え方 | | 眞田 | 講義演習 | 看護に関する医療事故ニュースについて調査しまとめる(120分) | 医療事故防止の基本的考え方についてまとめる(60分) |
| 6 | 個人における医療事故防止と分析手法 | | 眞田 | 講義演習 | 組織における医療事故防止対策について復習する(120分) | 医療事故分析手法についてまとめる(180分) |
| 7 | 医療事故発生時の対応 インシデントレポートと活用の実例 | | 眞田 | 講義 | 事例を読んで理解する(120分) | 医療事故後の対応についてまとめる(120分) |
| 8 | 学生における医療安全 | | 眞田 | 演習 | 学生における医療事故やインシデントには何があるか考えてくる(120分) | 学生における医療安全をまとめる(120分) |
| | 試験 | | | | | |

| 評価基準・評価方法 | |
|--|--|
| 提出レポート（10%）、履修態度（10%）、筆記試験（80%）での総合評価 | |
| 使用教科書 | |
| 系統看護学講座 専門 医療安全 看護の統合と実践 2 / 川村治子.--医学書院, 2024年, 978-4-260-05036-4 | |
| 参考図書 | |
| 系統看護学講座 専門 医療安全 看護の統合と実践 2 | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | レポート等に関してはコメントを記入する。または次回講義で説明をする。 |
| 実務経験をいかした教育内容 | 看護師が臨床場面で起こしやすいインシデント・アクシデントの事例を示しながら説明する。インシデント報告の記載、転倒転落アセスメントスコアシートの記載、臨床で行われている分析手法について事例を用いて実施する。 |
| 備考 | 授業は毎回、パワーポイント使用して進める。関連する教科と結び付けて学習し、単に知識に止まらず実践的能力として身につけてほしい。よって、積極的に学び取る姿勢で臨んでほしい。グループワークなどの演習も取り入れ出来るだけ参加型授業形態をとる。講義は教科書を持参する。 |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|----------------------|---------------------------|------|----|----------------------------|---------------------|
| 災害・国際看護論 | | 野田明敬・山田剛司（代表教員 野田明敬） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 3年 後学期 | 1単位(30時間) | 講義 | | NIP803 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 野田明敬（看護師）、山田剛司（訪問看護認定看護師） | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 災害時の保険医療を学び、災害発生時から静穏期までのサイクルにおけるニーズと法制度について理解し、それぞれの時期に応じた看護実践および多職種・多機関との連携・協働による支援体制について学ぶ。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 災害時の保健医療、多職種との連携・協働について理解できる。 災害をサイクルとして体系的に捉え、それぞれの時期に応じた災害保険医療と看護実践について理解できる。 災害時特有の疾病に関する看護実践について理解できる。 多様な価値観や異なる文化の中で、社会が抱える健康課題をグローバルな視点で捉えることができる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 災害医療の概要 | | 野田 | 講義 | | 講義内容を振り返る。 （50分） |
| 2 | 災害の実際 | | 野田 | 演習 | 教科書の該当部分や資料を確認する。 （20分） | 講義内容を振り返る。 （50分） |
| 3 | 超急性期・急性期の災害保険医療と看護実践 | | 野田 | 講義 | 教科書の該当部分や資料を確認する。 （20分） | 講義内容を振り返る。 （50分） |
| 4 | トリアージ・START法 | | 野田 | 講義 | 教科書の該当部分や資料を確認する。 （20分） | 講義内容を振り返る。 （50分） |
| 5 | トリアージ・START法 | | 野田 | 演習 | 教科書の該当部分や資料を確認する。 （20分） | 講義内容を振り返る。 （50分） |
| 6 | 亜急性期の災害保険医療と看護実践 | | 野田 | 講義 | 教科書の該当部分や資料を確認する。 （20分） | 講義内容を振り返る。 （50分） |
| 7 | 慢性期の災害保険医療と看護実践 | | 野田 | 講義 | 教科書の該当部分や資料を確認する。 （20分） | 講義内容を振り返る。 （50分） |
| 8 | 災害におけるチーム医療 | | 野田 | 演習 | 教科書の該当部分や資料を確認する。 （20分） | 講義内容を振り返る。 （50分） |
| 9 | 要配慮者の救護・看護 | | 野田 | 講義 | 教科書の該当部分や資料を確認する。 （20分） | 講義内容を振り返る。 （50分） |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|--|--|------|----|----|----------------------------|---------------------|
| 10 | 災害時のメンタルヘルス | | 野田 | 講義 | 教科書の該当部分や資料を確認する。 (20分) | 講義内容を振り返る。 (50分) |
| 11 | 災害時特有の疾病 | | 野田 | 講義 | 教科書の該当部分や資料を確認する。 (20分) | 講義内容を振り返る。 (50分) |
| 12 | 災害看護における国家試験対策 災害看護のまとめ | | 野田 | 講義 | 教科書の該当部分や資料を確認する。 (20分) | 講義内容を振り返る。 (50分) |
| 13 | 国際看護の実際 | | 山田 | 講義 | 教科書の該当部分や資料を確認する。 (20分) | 講義内容を振り返る。 (50分) |
| 14 | 国際看護の実際 | | 山田 | 講義 | 教科書の該当部分や資料を確認する。 (20分) | 講義内容を振り返る。 (50分) |
| 15 | 国際看護の実際 | | 山田 | 講義 | 教科書の該当部分や資料を確認する。 (20分) | 講義内容を振り返る。 (50分) |
| | 定期試験 | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| <p>1. この科目の評価は、プロセス評価 (= レポート) と到達点評価 (= 定期試験) の組み合わせによる加点方式とする。</p> <p>2. プロセス評価 (20%) + 到達点評価 (80%) において行う。</p> <p>3. 定期試験は、持ち込みを許可しない。記述式問題とする。</p> | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 災害看護学・国際看護学 / 竹下喜久子・庄野泰乃 他.--庄野泰乃・東智子・内木美恵--株式会社 医学書院, 2024年 第5版, 978-4-260-05301-3 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了後、「出席カード(専用用紙)」にて質問を受け付け、次回の授業で説明をする。 ・レポート課題に対するフィードバックは、講義時間内に説明をする。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | この科目の担当者は、20年間にわたり看護職として臨床の現場で従事した経験を持ち、さらに災害派遣医療チーム(DMAT)の一員として活動してきた。その中で得られた知見や事例を活用し、実践に直結する授業を展開する。 | | | | | |
| 備考 | 新型コロナウイルス(COVID-19)の影響によって、講義の方法をリモート・オンデマンドへ変更する可能性がある。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|---|---------------------------------|---------------------------|----------|---|--|
| 総合判断育成演習 | | 熊田ますみ・眞田正世・澤田真紀・他 (代表教員 熊田ますみ) | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | 科目ナンバリング | | |
| 必修 | 3年 後学期 | 2単位(30時間) | 講義・演習 | NIP804 | | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 熊田ますみ(看護師)、眞田正世(看護師)、澤田真紀(看護師)他 | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 看護師として実践チームの中で機能するために、看護管理・チーム医療の基礎を学び、複数の看護の対象の日常生活援助・診療の補助行為等実際の場面を想定して演習を行い、対象及び場面に応じた判断力・看護技術を学ぶ。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| 医療チームの一員として、看護におけるマネジメントの視点を説明できる。 チーム医療に関する連携協働を学び、多重課題に対する優先順位を説明できる。 医療安全における法律・指針・方針及び医療安全体制と医療安全活動を説明できる。 「実習における卒業時到達度」の項目を事例を用いて情報をアセスメントして立案した計画に基づいて実施できる。 | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| 1 | 看護管理(組織の一員としての役割と行動・リーダーシップとフォロワーシップ・円滑な組織運営に必要な対人力) | | 熊田 | 講義 | テキストの該当箇所を読む(120分) | 配布資料・講義内容を振り返る(120分) |
| 2 | 看護管理(看護管理とは・看護管理システム・看護部門と他部門との連携) | | 澤田 熊田 | 講義 | テキストの該当箇所を読む(120分) | 配布資料・講義内容を振り返る(120分) |
| 3 | 看護管理(人材資源の管理・看護ケアマネジメントとは・看護サービス管理のマネジメントとは) | | 澤田 熊田 | 講義 | テキストの該当箇所を読む(120分) | 課題レポートを作成し提出する(120分) |
| 4 | チーム医療(チーム医療に関する基本的な知識・一日の業務の組み立て方) | | 松野 古田 出口 林 田中 | 講義 | テキストの該当箇所を読む(120分) | 課題に取り組み提出する(120分) |
| 5 | チーム医療(多重課題に対する優先順位のつけ方) | | 松野 古田 出口 林 田中 | 講義 | 事例を考察してまとめる(120分) | 多重課題の課題レポートを作成し提出する(120分) |
| 6 | チーム医療(多重課題のシュミレーショントレーニング) | | 古田 松野 出口 林 田中 | 演習 | 事前資料を読み、対象をアセスメントし援助の方向性をまとめる(120分) | 多重課題の課題レポートを作成し提出する(120分) |
| 7 | チーム医療(事例を理解し、患者に必要な看護ケア、留意点を検討して、「一日の業務計画」を立案する) | | 古田 松野 出口 林 田中 | 演習 | 事例を通して事例毎の留意点、優先順位をまとめる(120分) | グループワークを実施して「一日の業務計画」を提出する(120分) |
| 8 | 医療組織における安全管理の実際 1. 組織における事故防止策の実際 2. 個人における事故防止策の実際 3. インシデント報告システム 4. 医療事故分析 | | 眞田 三輪 安藤 | 講義 | 2年次の講義で学んだ安全管理論を復習して臨む(120分) | 国家試験問題を行い、理解を深める。本日の講義内容を再学習し、まとめる(120分) |
| 9 | 1. 医療事故防止の実際: KYT 事例: 転倒・転落防止 | | 眞田 三輪 安藤 | 講義 演習 | 前回の医療事故分析手法 4 MSEについて再学習し、理解して講義に臨む(120分) | 国家試験問題を行い、理解を深める。転倒・転落防止について、他のグループの発表も含め、重要な内容をまとめる(120分) |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|--|------|----------------------------------|----------|--|---|
| 10 | 医療事故防止の実際：KYT 事例：誤嚥 | | 眞田 三輪 安藤 | 講義 演習 | 国家試験問題を行い理解を深める。医療事故分析手法4 M5Eの対策について再学習し、理解して講義に臨む（120分） | 誤嚥について、他のグループの発表も含め、重要な内容をまとめる（120分） |
| 11 | 医療事故防止の実際：KYT 事例：誤薬（与薬） | | 眞田 三輪 安藤 | 講義 演習 | 国家試験問題を行う。医療事故分析手法Pm - Shellについて再学習し、理解して講義に臨む（120分） | 国家試験問題を行い、理解を深める。誤薬（与薬）について、他のグループの発表も含め、重要な内容をまとめる（120分） |
| 12 | 医療事故防止の実際：KYT 事例：誤薬（注射） まとめ | | 眞田 三輪 安藤 | 講義 演習 | 医療事故分析手法Pm - Shellの対策について再学習し、理解して講義に臨む（120分） | 誤薬（注射）について、他のグループの発表も含め、重要な内容をまとめる（120分） |
| 13 | 統合的な看護技術の実施（事例に応じた治療・処置その他に対する情報収集・留意点に基づいた看護技術の実施） | | 熊田 三品 森岡 坂本 福田 小林 | 演習 | 事例に必要とされる援助技術の計画を作成する（120分） | 実施した援助を振り返り、援助のポイントをまとめる（120分） |
| 14 | 統合的な看護技術の実施（事例に応じた治療・処置その他に対する情報収集・留意点に基づいた看護技術の実施） | | 熊田 三品 森岡 坂本 福田 小林 | 演習 | 事例に必要とされる援助技術の計画を作成する（120分） | 実施した援助を振り返り、援助のポイントをまとめる（120分） |
| 15 | 統合的な看護技術の実施（事例に応じた治療・処置にその他に対する情報収集・留意点に基づいた看護技術の実施） | | 熊田 三品 森岡 坂本 福田 小林 | 演習 | 事例に必要とされる援助技術の計画を作成する（120分） | 実施した援助を振り返り、援助のポイントをまとめ提出する（120分） |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 看護管理（20％） チーム医療（25％） 医療安全（35％） 看護技術（20％） | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| 看護の統合と実践 看護実践マネジメント/医療安全 / 高橋則子他.小澤かおり他.--小澤かおり--メジカルフレンド社. , 978-4-8392-3374-4 | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| 必要時、参考文献等を紹介する。 | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 演習での発表内容や課題については講評し、フィードバックする。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 看護の現場で活用できるよう臨床の実際場面の事例を用いながら説明する | | | | | |
| 備考 | グループワーク等については、主体的に参加すること。講義の進行上、担当者・内容を変更することがある。 | | | | | |

| 授業科目名 | | 担当教員 | | | | |
|--|--|--------------------------|------|----|--|---------------------|
| 看護の統合実習 | | 熊田ますみ・眞田正世・他（代表教員 熊田ますみ） | | | | |
| 必修・選択 | 配当年次 | 単位数(時間数) | 開講形態 | | 科目ナンバリング | |
| 必修 | 3年 後学期 | 2単位(60時間) | 実習 | | NIP805 | |
| 学位授与の方針と授業科目の関連 | | 実務家教員 | | | | |
| 全学ディプロマポリシー(2)(3)看護ディプロマポリシー(2)(3)(4)の達成に寄与している。 | | 熊田 ますみ(看護師)他 | | | | |
| 授業概要 | | | | | | |
| 各領域で学んだ知識・技術をもとに、医療チームの一員であることを認識し、自己の立場での責任と役割を果たす看護師の役割について学ぶ。さらに看護の継続性を理解し、患者に応じた看護のあり方を学ぶ。 | | | | | | |
| 学修の到達目標 | | | | | | |
| <p>看護師長、チームリーダー、チームメンバーの役割と業務や他部門との調整や連携の実際と看護管理の在り方を説明できる。</p> <p>複数の受け持ち患者の状態を把握し、多重課題に対し優先順位を考えながら安全・安楽に看護を実施することができる。</p> <p>患者の24時間の生活状況を知り、継続看護の在り方を説明できる。</p> <p>看護の統合実習で学んだことを通して、看護師としての自己の目標や課題を明確にし表現できる。</p> | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
| | ・ 実習施設 | | | | | |
| | 平野総合病院、山内ホスピタル、岩砂病院・岩砂マタニティ、関中央病院、各務原リハビリテーション病院、松波総合病院、岐阜清流病院 | | | | | |
| | ・ 実習方法 | | | | | |
| | 1. 学生は、1グループ4～6名で編成し、病院のいずれかの病棟で2週間実習を行う。 | | | | | |
| | 2. 実習についてのオリエンテーション（施設の概要、諸注意、事前学習等）を受ける。 | | | | | |
| | 3. 看護師長、チームリーダー、チームメンバーと行動を共にし、見学を通して各々の役割と業務を知る。また、多職種連携についても知る。 | | | | 視聴覚教材や教科書より実習に活かせるように学習する。 ・看護管理 ・チームナーシング ・多職種連携 | 実習記録をまとめる |
| | 4. 学生は複数の患者を受け持ち、優先順位を考え看護師と共にして看護を実施する。 | | | | ・多重課題への対応 | ・援助を実施するために必要な学習をする |
| | 5. 夕方から早朝の時間帯の患者の様子や看護の実際について説明を受け、対象の状況及び看護師の動きを知る。また、継続看護について考察する。 | | | | ・継続看護 | |
| | 6. カンファレンスを実施し、実習目標が到達できるように問題の解決や学習内容の共有をする。 | | | | | |

| 回 | 授業計画 | 到達目標 | 担当 | 形態 | 事前学習 | 事後学習 |
|---|---|------|----|----|------|------|
| | 7. 実習終了後、実習目標に対するまとめの学習を行い、達成状況や自己の課題をレポートにまとめる。 | | | | | |
| | 8. 自己の看護観について考え、レポートにまとめる。 | | | | | |
| | 9. 事前学内実習として、看護管理・多職種連携・チーム医療について学生間で意見交換を行う。受け持ち患者を想定した日常生活援助技術演習を行う。 | | | | | |
| | 10. 臨地実習終了後の学内実習は、看護の統合実習で学んだ内容に関する意見交換を行う（看護管理・医療安全・チーム医療・多職種連携）。 | | | | | |
| | 11. 3年間で経験できていない日常生活援助技術及び診療時の援助技術演習を行う。 | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 評価基準・評価方法 | | | | | | |
| 目標到達度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。 | | | | | | |
| 使用教科書 | | | | | | |
| | | | | | | |
| 参考図書 | | | | | | |
| | | | | | | |
| 課題(試験やレポート)に対するフィードバック方法 | 実習中その都度、記録へのコメントを残し、口頭でも質問し学習を活かした看護が行えるよう指導する。実習最後のまとめ時に教員より学習内容に対してコメントする。 | | | | | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 看護の現場で活用できるよう臨床の実際の場面を通して教授する。 | | | | | |
| 備考 | 履修前提条件：【看護の原理と基礎】【ライフサイクル別看護】の全科目、安全管理論、成人看護学実習、成人・高齢者看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習・精神看護学実習、地域・在宅看護論実習の単位を修得済みであること。総合判断育成演習、災害・国際看護論を履修中であること。 | | | | | |